

東京外国語大学 留学生支援の会

No.79
年3回発行

会報

Since 1999

Pick Up
Event2025

7 月 20 日の 2025 年度会員総会に参加しましょう

出欠連絡を 7 月 15 日までに済ませてください

秋期バザーを 9 月 26、27 日に開催します

物品の提供ならびに準備、当日の作業への協力をお願いします

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-2 東京外国語大学留学生支援の会 TEL042-330-5803 FAX042-330-5189

<http://www.tufsissa.com>



Contents

Page1. FOCUS

東京外国語大学長 春名展生
東京外国語大学留学生課長 三浦吉永
PAL International School@TUFS 齋藤亜久里

Page4. 1. 総会参加のよびかけ

Page5. 2. 2025 年度総会議案

- (1) 前年度事業・会計報告
- (2) 本年度事業計画・予算案

Page12. 3. 活動報告

- (1) 深大寺ウォーキング
- (2) ふじのくに留学生ツアー
- (3) 第 54 回府中市民桜まつり
- (4) 春期バザー
- (5) JAXA 調布航空宇宙センター見学
- (6) 高尾山ハイキング
- (7) その他の活動
- (8) 準備中の事業

Page23. 4. 留学生の声

Page27. 5. 会員から

Page29. 幹事会から

Page31. 秋期バザーへの協力依頼

Page32. 年間活動予定表

FOCUS

キャンパスを〈世界〉に

東京外国語大学長 春名展生

1 年半前に寄稿した際は、2023 年 4 月に公表された教育未来創造会議の第二次提言「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ＜J-MIRAI＞」にふれ、2033 年までに留学生の受入れを「40 万人」に増やすという国の目標を紹介しました。その原稿では言及しませんでした、日本から海外に送り出す留学生の人数は、同じ 2033 年までに「50 万人」という数字が掲げられていました。このような大胆な数値目標が掲げられてから 2 年ほどしか経っていませんが、海外留学を取り巻く国際情勢は反転した観があります。とりわけ送り出しの面で、留学は、コロナ禍につづいて受難の時代を迎えつつあります。

留学生の受け入れを制限しはじめたのはアメリカだけではなく、ほかにもオーストラリア

など、これまで多くの留学生を受け入れてきた国で、制限がかけられはじめています。その煽りを受け、東京外国語大学は、オーストラリアの協定校をひとつ失いました。航空運賃や物価の高騰などの経済的な理由によっても、海外留学の壁が高くなっています。

これは東京外国語大学にとって危機的な事態です。海外留学は、本学の教育にとって、きわめて重要な要素を占めているからです。本学が学生に修得させたいのは、外国語の運用能力や外国の文化や社会に関する知識だけではありません。本学は、それらを総合的に動員して成立するコミュニケーションの能力を身につけてほしいと考えています。

海外留学が困難になった今、東京外国語大学にとって、訪日留学生の有難みが増しています。留学生の存在が、府中のキャンパスを<世界>に変えるからです。さまざまな理由で留学に出かけられない学生は、同じキャンパスで学ぶ留学生との交流によって、みずからの外国語運用能力や多文化的感性を実践的に試す機会を得られるのです。

そのため、今後、東京外国語大学は、これまで以上に日本人学生（日本で育った学生）と留学生とが交流する機会を拡大していきたいと考えています。本学は、日本人学生と留学生とが一緒に学べる英語による授業を数多く提供しています。留学に行く予定のある学生は、留学の「予習」として、留学に行く予定のない学生は、留学の「代わり」として、そのような授業を有効に利用してほしいと考えています。大学の側にも、日本人学生の履修を促すための工夫が求められています。

しかし、授業よりも教室外の交流が効果をもつのかかもしれません。その点で、経験のある留学生支援の会にお知恵を出していただけますと幸いです。2023年秋の原稿には、留学生支援の会に対して、留学生が日本の「文化」にふれるにとどまらず、「社会」と交流する機会の創出・提供を検討していただきたいとお願いしました。その要請は、今後もつづきます。日本社会の側に留学生に対する理解を深めていただくためです。

現在、日本では留学生の受け入れを制限する政策や社会的な要請はありません。しかし、在住外国人に比べて大幅に観光客が増え、その存在がメディアを騒がすようになるにつれ、増えゆく留学生に対する風当たりも強まっていく虞があります。そのような事態を未然に防ぐためにも、留学生と日本人学生および地域住民との交流を活発にしていく必要があります。

一斗缶のクラッカー —新米留学生課長の驚きと発見の日々—

東京外国語大学留学生課長 三浦吉永

留学生支援の会の皆様、はじめまして。私は2000（平成12）年5月に旧西ヶ原キャンパスのアジア・アフリカ言語文化研究所棟内にあった研究協力課に採用され、その後、入試課、会計課、もう一度入試課、そして前職の広報・社会連携課を経て、今年の4月に留学生課に着任しました。本学で働いて（外大ひとすじ）25年になりますが、これまでは大学の基幹的な業務や教員を支援する業務が中心で、在学生と直接ふれあう仕事はほとんどありませんでした。年齢も50代半ばを迎え、仕事への姿勢が守りに入りがちのところ、今回、新しい仕事に挑戦する機会を得ることができ、もう一踏ん張り頑張っ取り組みたいです。

さて、留学生課着任後まだ2ヶ月といったところですが、留日センター入学式の司会を皮切りに、4月初旬の1週間は国際交流会館の入寮手続きの様子を見に行き、中旬には府中市役所で住民登録手続きの代行申請に立ち会いました。さくらホールで行われた「ゆうちょ銀行」の口座開設説明会では、階段の下に財布を落とした学生のために、ホール裏手につながる秘密（？）の通路をつかって階段下に忍び込んで財布を取りに行ったことも。5月中旬には国際交流会館の避難訓練を実施し（参加者約80名）、起震車体験やAED、心臓マッ

サージの練習などに取り組む様子を見てきました。

来日直後の健康診断を欠席した留学生には、大学近くのクリニックで健康診断を受けさせてきました。来日間もない彼は人見知りで日本語がほとんど出来ません。話し相手になっていた私とは多少話しますが、お医者さんとの会話は専門用語もあってか、あまりうまくいかず、お医者さんはスマホを取り出して翻訳アプリを活用していました。視力検査では**C**記号（「ランドルト環」）の空いている方向を言うように伝えましたが、全く違う方向の回答を連発。一番大きな**C**ですら誤答する始末なので、検査表に近づいて指さししながら説明したところ、ようやくうまくいきました。彼は来日前に「お金の心配は全くいらない」と言われてきたようで、手持ち資金はほとんど無く食費にも困る様子。どうしたものかと考えあぐねていたところ、たまたま災害備蓄品の入替のタイミングがあって、消費期限切れが近い非常食のクラッカーを一斗缶で2つ譲り受けることが出来ました。食事の足しにと1缶を彼に渡したところ、「これ全部俺が貰って良いのか？」と目を丸くして喜んでいました。35人分（袋）入っているので、さすがに全部は食べきれずまだ少し残っていると。もう1缶は上述の避難訓練で参加者に配りました。譲り受けた災害備蓄品には「炊き込みご飯の炊き出しセット」もあって、これについても彼にまつわるエピソードがあるのですが、紙面の都合もありますのでこの話はまた別の機会に……。

このような感じで、日々、刺激的な出来事が色々あり、驚きと発見の連続です。留学生を受け入れると言うことは、授業を提供することだけでは無く、生活面のサポートが欠かせないと言うことを身を以て実感しています。留学生支援の会に関わる皆様も、様々な形で留学生をサポートされておられますが、ハラハラ、ドキドキ、良い意味でも悪い意味でも、目の離せない、時には生意気で、手も掛かるけれど、憎めない、愛おしい存在なのだろうと思います（ということがおぼろげながら分かってきました）。

日本では人口減少が叫ばれていますが、昨年生

まれた子供たちが18年後、大学を受験する頃には、現在と比して大学受験者数は3割減少と言われています。日本人学生が減少する中、日本政府も留学生や外国人材の受け入れ促進を掲げており、さまざまな政策を打ち出しています。高度人材養成を担う本学としても、留学生の卒業後の日本定着、就職支援により一層力を入れて、学生自身と日本の持続的な発展に微力ながら寄与していきたいと考えています。

多文化の中で育まれる 子どもたちの学びとつながり PAL International School@TUFS のご紹介

施設長 齋藤亜久里

PAL International School@TUFS は、学校法人正和学園が運営する保育施設として、2022年9月に東京都府中市の東京外国語大学キャンパス内に開園しました。

本園では、子どもたちが多文化・多様性に触れながら、主体的に学び、のびのびと成長できる環境づくりを大切にしています。広々とした園庭や大学キャンパスを活用し、「やりたい!」という気持ちを起点とした探究・発見・創造・感動に満ちた体験を日々積み重ねています。

また、地域の専門家をゲストティーチャーとしてお招きし、子どもたちとともに活動することで、新しい視点や世界に触れる機会も大切にしています。

このたびは、東京外国語大学留学生支援の会とのご縁により、日本文化のひとつである「書道」に触れる貴重な体験の機会をいただきました。書道は、筆と墨を使って文字を表現する日本の伝統的な芸術であり、集中力や美的感覚を育むとともに、文化への理解を深めることができます。

国際交流会館で行ったこの活動をきっかけに、保護者や地域の方々、そして留学生との交流の輪も広がりつつあります。今後は、園を会場とした書道体験の実施や、保護者の皆さまと子どもたち

が一緒に参加できる取り組み等もご協力頂き実現させていきたいと考えております。また、書道をきっかけに地域の方々が協力くださったり、留学生が自国の文字や書文化を紹介してくれることで、相互理解が深まり、多文化共生の意識が自然と育まれていくことを期待しています。

これからも、書道をはじめとする日本文化を積極的に取り入れながら、子どもたちの興味・関心を引き出し、自ら学ぶ姿勢を育ててまいります。同時に、地域・保護者・留学生とのつながりを大切に、多様な価値観に触れる学びの場を創出することで、子どもたちが自己表現し、豊かな感性と柔軟な思考を身につけられるよう努めてまいります。

子どもたちの「やりたい」という気持ちに寄り添いながら、多文化の中で広がる学びと出会いの場を、これからも創造してまいります。

最新情報 今年度留学生数

東外大で学ぶ外国人留学生数は76国・地域から662名。昨年に比べ30名近い減少です。

東外大にはJLCの国費留学生46名もあり、それをあわせた留学生数は708名となります。

2025年度東京外国語大学留学生数（5月1日現在）

所属	総数	課程別内訳		国費・私費内訳		参考 過年度の留学生数			
		学部	大学院	国費	私費	2024	2023	2021	2019
正規生	388	158	230	110	278	409	420	420	432
研究生	24	16	8	16	8	26	32	37	116
交換留学生	228	186	42	0	228	233	211	121	217
日研生	22	22	0	22	0	22	24	13	31
計	662	382	280	148	514	690	687	591	796

東京外国語大学公表統計に基づき作成

総会議事次第

- 9:30 参加受付開始
10:00 開会
開会の辞
来賓挨拶
東京外国語大学長 春名展生氏
東京外国語大学留学生課長 三浦吉永氏
10:30 議事審議
(1) 2024年度事業報告・会計決算承認
(2) 2025年度事業計画決定
(3) 2025年度会計予算決定
(4) 役員紹介
11:00 会員および留学生交流の時間
12:00 閉会

1. 2025 年度会員総会にご参加を

第4回会員総会の開催まであと3週間余となりました。総会は、日頃お会いできない全国各地の会員から1年間の活動への忌憚ないご意見、提言を頂き、今後の留学生支援活動の発展に生かしていく団体民主主義の基盤であり、会員相互の交流を深める貴重な機会でもあります。後半の「交流の時間」では、多様な留学生も交え、内実のある意見、情報交流ができることを期待しています。

25周年の節目を越えた本会ですが、大学の入学手続き変更に伴う入会者激減および活動を担う幹事等ボランティアスタッフの高齢化と減少という難問に直面しています。これを乗り越えるには、会員の皆さんのこれまで以上の協力が必要です。オンラインで開催される今総会に、ご多用とは存じますが万障お繰り合わせのうえ参加くださるよう、お願い申し上げます。

総会の議案文書は本号5～12頁に掲載いたしました。また会ホームページにも関連資料が掲載されています。それらをお読みにになり、会報を手元に置いて総会にご出席ください。また、ご質問、ご意見を出欠通知の意見欄、メール、郵送書面等で事前にお寄せください。

なお、オンライン会議準備の都合上、すべての会員に総会参加の可否についての連絡をお願いします。まだの方は、「総会出欠連絡」フォームにご記載の上、7月15日（火）までに送信ください。そのさい、特にご欠席の場合には、総会議案に関するご意見を書いてくださるようお願いいたします。

7月20日にはオンラインでお会いできることを楽しみにしております。

東京外国語大学留学生支援の会会長
谷 和明

総会参加の手順

①参加申込

7月15日までに「総会出欠連絡」フォームにより総会参加の可否をお知らせください。「参加」と回答された方を、総会参加者として登録いたします。

「総会出欠連絡」フォームへは以下の URL あるいは QR コードからアクセスできます。

<https://forms.gle/Mo1gpt8mhpSekJTm7>



② ZOOM アクセス情報のお知らせ

参加登録された会員には、7月17日までに、ZOOM 会議へのアクセス情報をメールにて送信します。それまでに届かない場合、メールがスパム扱いにされていないか再度ご確認の上、至急下記までメールでご連絡ください。

③当日の総会参加

ZOOM 総会は9:30から入場できます。送信されたアクセス情報を使用して ZOOM 会議にご出席ください。

メールあるいは書面（郵送）による参加

① ZOOM による会議参加が困難な会員は、総会議案に関する質疑、意見、賛否をメールあるいは書面にてご提出ください。

② それ以外の方も、短時間のオンライン会議の制約を補うため、総会議事案件に関する質疑、ご意見をメールあるいは書面で事前にお寄せください。

上記メール、書面の締切：7月17日（必着）

宛先：東京外国語大学留学生支援の会 総会担当

Mail: members@tufsissa.com

郵送：〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-2

2. 2025 年度総会議案

（1）前年度事業・会計報告

1) 事業報告

2024（令和6）年度事業報告

（2025年4月20日 幹事会）

A 生活支援事業

1 給付事業

（1）生活用品のバザー

1）春期バザーを4月5・6日に実施した。

売上金：150,490円

2）秋期バザーを9月30・10月1日に実施した。

さらに10月2, 3日に半額提供で、10月4日には無料提供で追加開催した。

売上金：293,585円

来場者数：約380人（正規日280人、半額日60人、無料日40人）

（2）学会出席旅費の助成金

国内外学会発表に要する旅費の一部助成を10名（海外）の学生に支給した（計50万円）

（3）緊急生活資金貸付

基金からの無利子貸付を2名（計20万円）の学生に行った。

（4）大学実施フードパントリーへの協力参加

パントリーが実施されなかった。

2 留学生の協力に対する謝礼事業

（1）留学生の生活実態の調査事業

生活調査アンケートならびに生活報告小論文募集は実施できなかった。

（2）連絡室活動の協力者に対する謝金支給

バザー準備、広報活動等への協力者に支給した。

3 相談事業

学生の要望に応じて実施した。

B 友好親善事業

1 国際交流事業

（1）「国際交流のタベ」

12月13日17:00～19:00

大学と共催して生協食堂で開催した。参加学生約130名。支援の会から幹事、協力会員、各教室講師など約20名が参加した。

2 会員等の協力による友好親善事業

（1）ふじのくに留学生ツアー

3月1日～3日

沼津留学生支援の会主催事業の共催者として、

費用を一部負担し、参加留学生 15 名の募集、現地への付き添い（4 名）を行った。

（２）第 54 回府中市民桜まつり民踊流し

3 月 22 日（土）11：00～14：00

実行委員会および府中市からの要望に応じて留学生の参加を募集し、民踊流しに参加した
参加留学生 11 名、引率 2 名、現地参加会員 2 名

3 学生が企画する留学生との交流への支援

（１）国際交流会館 3 号館週末交流会への補助

学生の自主的な創意工夫により毎週金曜日の 20 時から開催されているウィークエンドパーティーに 8 万円の寄付を行った。

4 東外大訪問外国人学生、生徒のための文化体験プログラムへの協力

国際拠点化室の依頼に応じ、7 月 11 日（米国 UCI 学生 11 名）、11 月 30 日（シンガポール日本語学校中学生 12 名）の 2 回、書道体験教室を実施。

C 日本理解事業

1 伝統文化、史跡等の見学

（１）伝統芸能鑑賞教室

1) 歌舞伎鑑賞

7 月 20 日 13：00～18：00

国立劇場「歌舞伎鑑賞教室」企画を利用して調布市グリーンホールで公演された『義経千本桜』『河連法眼館の段』を鑑賞し、事後の懇親茶話会で交流を深めた。

参加者：67 名（留学生 44、日本学生 9、幹事等 12、会員 2）

2) 文楽鑑賞

9 月 20 日（金）17：30～20：30

国立劇場「Discover Bunraku」企画を利用して新国立劇場で『伊達娘恋緋鹿子』火の見櫓の段、『夏祭浪花鑑』釣船三婦内の段を鑑賞した。

参加者 42 名（留学生 16 名、日本学生 6 名、幹事・協力会員等 12 名、その他 8 名）

（２）歴史的都市の見学

1) 小江戸川越散策

6 月 23 日 9：30～15：00

5 班にわかれ川越市、本川越駅周辺の歴史的町並み、寺院、博物館を見学した。

参加者：32 名（内幹事 5）

2) 古都鎌倉史跡見学

11 月 9 日（土）10：00～16：00

6 班に分かれ、鎌倉市観光協会公認のガイドの案内で長谷寺、高德院、鶴岡八幡宮等を見学した。参加者は 41 名（留学生 29、日本学生 6、幹事 5、会員 1）。

（３）大学近辺の散策、見学

1) 深大寺ウォーキング

2 月 19 日（水）10：00～15：00

徒歩で深大寺まで行き、蕎麦で昼食の後、調布市観光協会ガイドの案内で深大寺境内を見学した。

参加者 11 名（留学生 5 名、日本学生 3 名、引率幹事 2 名、会員 1 名）

2 伝統文化の体験

（１）日本文化体験教室

12 月 13 日（金）13：00～16：00

大学との共催で、着付け、華道、茶道の 3 教室の企画運営を担当した。華道体験参加者の 30 点ほどの作品は「国際交流の夕べ」会場に展示された。参加者のべ 100 名。

（２）日本語広場の開催（通年）

留学生の子供、研究者、その配偶者を対象に 4 クラスを、講師を会員、学生にも依頼して実施。

（３）文化教室（通年）

華道、書道、茶道教室を定期的に開催した。

3 日本の「今」を知る

実施できなかった。

D 国際理解事業

実施できなかった。

E 広報・運営事業

1 会報発行

76 号（6 月）、77 号（11 月）、78 号（2 月）を発行。

2 入会促進のための広報の拡大

（１）外語会会員、学内全教員、TUFS Cinema 来場者を対象に宣伝文書、会報などを使用して広報を行った。

（２）府中市のコミュニティ FM「ラジオフューチャー」で放送される、支援の会宣伝の収録を、留学生の協力を得て行った。

3 外語祭バザー

11 月 22 日（金）、23 日（土）、24 日（日）

留学生支援事業の資金集めを目的に、外語祭への来客を対象として研究講義棟 226 教室で開催した。実売上金：413,654 円

4 会員総会の開催

7 月 7 日（日）に 2024 年度会員総会を ZOOM 会議として開催した。

5 幹事会の開催

4 月、5 月、6 月、9 月、10 月、11 月、12 月、1 月、2 月、3 月の 10 回、オンライン参加併用方式で開催した。

2) 収支報告

2024（令和6）年度（2024年4月～2025年3月）収支報告

1 総括表（一般会計および次年度以降会費積立特別会計）

《収入》

科目	予算額	決算額	摘要
前年度繰越金合計	8,378,833	8,378,833	T1+T2+T3
当期収入合計	1,747,003	2,142,619	N1+N2
収入合計	10,125,836	10,521,452	I1+I2

《支出》

科目	予算額	決算額	摘要
当期支出合計	2,613,000	2,309,312	Ec
次年度繰越金合計	7,157,836	8,212,140	W1+W2+W3
支出合計	9,770,836	10,521,452	E1+E2

2 一般会計 次ページに掲載

3 次年度以降会費積立特別会計

《収入》

項目	予算額	決算額	摘要
前年度繰越金から次年度以降会費相当分の繰入(T3)	1,488,000	1,488,000	3千円×496（24新3月9x3、23新148x2、22新173）
新入学会員前納会費（N2）	264,000	300,000	3千円×100（24新4月14×3、25新3月14x4+2）
収入計（I2）	1,752,000	1,788,000	

《支出》

項目	予算額	決算額	摘要
次年度繰越金（一般会計「会費」への繰出）(W2)	1,068,000	1,077,000	3千円×359（25新3月15、24新23、23新148、22新173）
次年度繰越金（特別会計）(W3)	684,000	711,000	3千円×237（25新3月14x3+1、24新23x2、23新148）
支出計（E2）	1,752,000	1,788,000	

4 特別会計（外国人留学生貸付基金）

《収入》

科目	項目	予算額	決算額	摘要
前年度繰越金		120,000	120,000	
貸付金返却		180,000	180,000	
収入合計(A)		300,000	300,000	

《支出》

科目	項目	予算額	決算額	摘要
貸付金		-	200,000	2名に貸付（100,000円、100,000円）
次年度繰越金（A）-(B)		300,000	100,000	
支出合計（B）		300,000	300,000	

2 一般会計

《収入》

科目	項目	予算額	決算額	摘要
会費	繰入（前年度繰越金から）（T2）	1,362,000	1,362,000	3千円×454名(24新9、23新148、22新173、21新124)
	一般会員（当期入金分）	423,000	441,000	3千円×147名（24新14、その他会員133）
	協賛会員	60,000	20,000	
寄付	一般	300,000	523,800	
その他	事業収益	700,000	857,729	春秋バザー・外語祭バザー
	利息	3	90	受取利子
経常収入計(Ic)		2,845,003	3,204,619	
	うち当期収入小計（N1）	1,483,003	1,842,619	Ic-T2
前年度純繰越金（T1）		5,528,833	5,528,833	
収入合計（I1）		8,373,836	8,733,452	

《支出》

科目	項目	予算額	決算額	摘要
活動費 （友好親善事業・相互理解事業）	国際交流行事共催費	300,000	292,252	伝統文化体験費・交流会費（大学との共催）
	史跡見学費	250,000	215,650	鎌倉ツアー・深大寺ツアー
	日本文化見学費	300,000	216,650	歌舞伎教室・文楽教室・ふじのくにツアー
	日本先端技術見学費	200,000	-	工場見学
	日本文化体験費	300,000	283,489	華道・茶道・書道・日本語広場
	各国文化紹介費	100,000	-	茶・菓子・昼食等
	その他の交流活動費	100,000	91,608	留学生交流支援・ウェルカムキット
活動費 （生活支援事業）	緊急生活支援金	-	-	
	教育研究支援金	500,000	500,000	国際学会発表出席旅費補助金
	連絡室協力謝金	20,000	-	留学生連絡室協力謝金
	会報原稿謝礼金	18,000	9,000	3千円×3名
	小論文募集費	60,000	-	生活応援券 3千円×20名
	生活調査費	100,000	-	生活応援券 1千円×100名
	支援協力活動費	30,000	-	大学フードパントリー協力
活動費 （広報普及事業）	通信費	300,000	280,028	会報(76,77,78号)発送費等
	印刷費	220,000	302,670	会報(76,77,78号)印刷費等
活動費小計		2,798,000	2,191,347	
運営費	消耗品費	20,000	9,865	プリンターインク・文具・ゴミ袋等
	備品費	30,000	1,100	世界地図代
	連絡室運営費	30,000	18,351	コーヒー代
	会議費	40,000	30,510	Zoom料金等
	郵便振替手数料	30,000	22,939	
	ホームページ運営費	20,000	35,200	ホームページ等運営費
運営費小計		170,000	117,965	
経常支出計（Ec）		2,968,000	2,309,312	
経常収支差額（Bc）		-122,997	895,307	Ic-Ec
次年度純繰越金（W1）		5,405,836	6,424,140	T1+Bc
支出合計（E1）		8,373,836	8,733,452	Ec+W1

2025年7月20日

会計担当幹事

阿部 やよい

会計監査報告書

令和6年度における収支報告書に関する書類について監査したところ、内容が適正であったことを認めます。

令和7年7月20日

監事 川口 健一

(2) 今年度事業・会計案

1) 事業計画

2025 年度事業計画案

(2025 年 5 月 25 日幹事会)

A 生活支援事業

1 給付事業

(1) 生活用品のバザー

春期、秋期の 2 回実施。

(2) 学会出席旅費の助成金

国内外学会発表者に 5 万円を上限に支給。

(3) 緊急生活資金貸付

基金 (30 万円) による短期無利子貸し付けをおこなう。

2 留学生の協力を促進する事業

(1) 留学生の生活・意識の調査

1) 生活調査アンケート

回答者 (100 名) に 1000 円の謝礼

2) 生活報告小論文

投稿者 (20 名) に 3000 円の謝礼

(2) 連絡室活動の協力者に対する謝金の支給

連絡室体制の拡充と学生の生活支援のために取り組む。

3 相談事業

連絡室来室およびメールでの相談に対応。

B 国際交流事業

1 交流事業

(1) 国際交流のタベ

12 月上旬、大学と共催して開催。

(2) 府中市桜まつり民踊流し

3 月下旬、学生を募集して参加する。

(3) 国際理解事業

地域や学校の国際理解講座などに協力する。

2 会員等の協力による交流事業

(1) ふじのくに留学生ツアー

現地の受け入れ体制が整えば 3 月上旬実施。

(2) ホームステイ、ホームビジットの仲介

会員の受入可能性、学生の希望を調査。

3 学生による留学生交流活動への支援

国際交流会館 3 号館での週末交流会などへの経費補助を行う

C 日本理解事業

1 伝統文化、史跡等の見学

(1) 伝統芸能鑑賞教室

能楽鑑賞 (6 月 28 日)、歌舞伎鑑賞 (7 月 25 日)、文楽鑑賞を実施する

(2) 歴史的都市の見学

鎌倉見学を秋期に実施する。

(3) 大学近辺の散策、見学

高尾山ハイキング (5 月 18 日)、深大寺散策 (後期) を実施する。

2 伝統文化の体験

(1) 日本文化体験教室

「国際交流のタベ」に連動して行う。

(2) 文化教室

生け花、書道、茶道教室など定期的に開催。

(3) 日本語広場

必要なクラスを組織する。

3 日本の「今」を知る

JAXA 調布航空宇宙センター見学を 4 月 22 日に実施する。

D 広報・運営事業

1 会報発行

年 3 回、紙冊子版と電子版で発行 (第 79、80、81 号)。

2 会員総会の開催

会員総会を 7 月 20 日に ZOOM 会議として開催。

3 幹事会の開催

大学休業期間を除き毎月開催。

4 外語祭バザー

財源確保を目的に外語祭の期間中 3 日間開催。

5 広報体制の拡充整備

1) 大学の事務処理 OA 化に対応しつつ、HP の充実、メールの活用を進める。

2) 教職員、学生・卒業者、地域住民、異文化理解・交流に関心のある市民の入会を促進するための広報活動に積極的に取り組む。

2) 会計案

2025 年度（2025 年 4 月～2026 年 3 月）予算案

1 総括表（一般会計および次年度以降会費積立特別会計）

《収入》			
科目	2024年度決算額	2025年度予算額	摘要
前年度繰越金合計	8,378,833	8,212,140	T1+T2+T3
当期収入合計	2,142,619	1,904,100	N1+N2
収入合計	10,521,452	10,116,240	I1+I2
《支出》			
科目	2024年度決算額	2025年度予算額	摘要
当期支出合計	2,309,312	2,948,000	Ec
次年度繰越金合計	8,212,140	7,168,240	W1+W2+W3
支出合計	10,521,452	10,116,240	E1+E2

2 一般会計 次ページに掲載

3 次年度以降会費積立特別会計

《収入》			
項目	2024年度決算額	2025年度予算額	摘要
前年度繰越金から次年度以降会費相当分の繰入(T3)	1,488,000	711,000	3千円×237（25新3月14×3+1、24新23×2、23新148）
新入学会員前納会費（N2）	300,000	270,000	3千円×90（26新3月15×4、25新4月10×3）
収入計（I2）	1,788,000	981,000	
《支出》			
項目	2024年度決算額	2025年度予算額	摘要
次年度繰越金（一般会計「会費」への繰出）(W2)	1,077,000	633,000	3千円×211（26新3月15、25新25、24新23、23新148）
次年度繰越金（特別会計）(W3)	711,000	348,000	3千円×116（26新3月15×3、25新24×2、24新23）
支出計(E2)	1,788,000	981,000	

4 特別会計（外国人留学生貸付基金）

《収入》				
科目	項目	2024年度決算額	2025年度予算額	摘要
前年度繰越金		120,000	100,000	
貸付金返却		180,000	200,000	
収入合計(A)		300,000	300,000	
《支出》				
科目	項目	2024年度決算額	2025年度予算額	摘要
貸付金		200,000	-	
次年度繰越金（A）-(B)		100,000	300,000	
支出合計（B）		300,000	300,000	

2 一般会計

《収入》

科目	項目	2024年度決算額	2025年度予算額	摘要
会費	繰入（前年度繰越金から）（T2）	1,362,000	1,077,000	3千円×359名(25新3月15、24新23、23新148、22新173)
	一般会員（当期分）	441,000	414,000	3千円×138名（25新4月10、その他会員128）
	協賛会員	20,000	20,000	20千円x1名
寄付	一般	523,800	300,000	
その他	事業収益	857,729	900,000	春秋バザー・外語祭バザー
	利息	90	100	受取利息
経常収入計(Ic)		3,204,619	2,711,100	
	うち当期収入小計（N1）	1,842,619	1,634,100	Ic-T2
前年度純繰越金(T1)		5,528,833	6,424,140	
収入合計(I1)		8,733,452	9,135,240	

《支出》

科目	項目	2024年度決算額	2025年度予算額	摘要
活動費 （国際 交流事 業・ 相互 理解事 業）	国際交流行事共催費	292,252	300,000	伝統文化体験費・交流会費（大学との共催）
	史跡見学費	215,650	250,000	鎌倉・深大寺・川越・高尾山
	日本文化見学費	216,650	300,000	歌舞伎・文楽・能楽・ふじのくに
	日本先端技術見学費	-	200,000	工場見学
	日本文化体験費	283,489	300,000	華道・茶道・書道・日本語広場
	各国文化紹介費	-	100,000	茶・菓子・昼食等
	その他の交流活動費	91,608	100,000	留学生交流支援
活動費 （生活 支援事 業）	教育研究支援金	500,000	500,000	国際学会発表出席旅費補助金
	連絡室協力謝金	-	20,000	留学生連絡室協力謝金
	会報原稿謝礼金	9,000	18,000	3千円x6名
	小論文募集費	-	60,000	謝金 3千円x20名
	生活調査費	-	100,000	謝金 1千円x100名
活動費 （広報普 及事業）	通信費	280,028	250,000	会報(79,80,81号)発送費等
	印刷費	302,670	300,000	会報(79,80,81号)
活動費小計		2,191,347	2,798,000	
運営費	消耗品費	9,865	20,000	ゴミ袋等
	備品費	1,100	30,000	
	連絡室運営費	18,351	30,000	コーヒー代等
	会議費	30,510	30,000	Zoom料金
	郵便振替手数料	22,939	5,000	
	ホームページ運営費	35,200	35,000	ホームページ等運営費
運営費小計		117,965	150,000	
経常支出計（Ec）		2,309,312	2,948,000	
経常収支差額（Bc）		895,307	-236,900	Ic-Ec
次年度純繰越金（W1）		6,424,140	6,187,240	T1+Bc
支出合計(E1)		8,733,452	9,135,240	Ec+W1



2024 年度収支報告（7～8 頁）概要説明

（1）当会の収支報告の形式では、「2 一般会計」を当該年度の 2024 年度分にあたる収入と支出の収支報告とし、新入学会員から 4 年分納入されている会費の前受金の部分は「3 積立特別会計」

として切り離している。この 2 つの収支計算書の合計が「1 総括表」となる。この他に「4 特別会計」として貸付金基金の 30 万円がある。

（2）「2 一般会計」（2024 年度 1 年間）では、昨年度からの新入学会員の激減にも拘らずほぼ通

常通りの事業をすることができたが、幹事の人手不足などの都合で予算を立てた事業をこなせないこともあり、支出は予算を約 66 万円下回った。収入の方は、3 回のバザーの売上が伸びたことや大口の寄付などにより 36 万円ほど増加した。その結果経常収支差額は約 90 万円の黒字となり、前年度からの繰越金を加え 2024 年度末の純繰越金は約 640 万円となった。これは、前受会費の積み立てとは別の、会の「貯金」にあたる。「貯金」としては多額であるが、昨年度からの新入会員の激減の継続に備えておく必要がある。

(3) 「3 次年度以降会費積立特別会計」は 2025 年度以降の会費として納入された前受の会費を積み立てている。収入は昨年度から激減した実績を踏まえ低予算を立てたのでほぼ予算通りとなったが、その結果次年度繰越金は約 179 万円、そのうち 2026 年度以降への繰越金は約 71 万円と厳しい状態になっている。

(4) 「4 特別会計」は別立てで留学生貸付基金であるが、2024 年度は 18 万円が返却され新たに 20 万円の貸付があった。

2025 年度予算案 (10 ～ 11 頁) 概要説明

(1) 「2 一般会計」の収入は、2024 年度からの新入会員激減により 1 年生と 2 年生の 2 年間分が影響を受け、寄付も予測不能であるが、3 回のバザーの事業収益は期待できる。純繰越金があるので昨年比約 40 万円増となった。

(2) 支出の方は、可能な事業を減らすことなく計画した。院生への国際学会出席旅費補助金は希望者が多く意義ある事業のため 50 万円を継続した。収支差額はマイナス約 24 万円で、次年度純繰越金は約 620 万円となる。

(3) 「3 積立会計」は、新入会員勧誘の努力は続けるものの楽観はできないため、控えめとした。

「2 一般会計」と「3 積立会計」を合計すると次年度繰越金合計は「1 総括表」にあるように、約 717 万円となる。

3. 活動報告

(1) 武蔵野探訪 「深大寺ウォーキング」

—野川沿いウォーキング&大沢の里古民家（水車経営農家含む）・深大寺見学—

日 時：2 月 19 日（水）10：00 ～ 14：30

（神代植物公園観覧時間含まず）

場 所：調布市深大寺ほか

参加者：留学生 5 名、日本学生 3 名、幹事 2 名、会員 1 名

東京外大のある武蔵野地域には、徒歩圏内で楽しめるところが結構ある。国分寺市東部を水源とし世田谷区南部の二子玉川で多摩川と合流する野川も外大近くを流れていて散策に人気の場所だ。

今回の「深大寺ウォーキング」では、参加学生たちは外大に集合、そこから武蔵野の森公園を抜け、野川沿いにあるかつて農村であった三鷹の原風景をとどめる大沢の里古民家と水車経営農家をガイドさんの案内で見学、その後野川兩岸にある遊歩道を小一時間歩いて深大寺に到着、まず老舗そば店元祖嶋田屋にて深大寺名物の蕎麦に舌鼓を打ち、おなかも満たされ、野川沿いウォーキングの疲れも取れたところで約 1 時間ボランティアガイドさんの案内で深大寺を見学した。その後深大寺門前で解散したが、1 名が深大寺温泉に向かっただけで残り全員神代植物公園に移動し梅を鑑賞した。梅はまだ蕾状態だったが、青空に映え、とても綺麗だった。あたり一面漂う梅の香りに包まれ春の穏やかなひと時を楽しんだ。解散後の園内散策だったので、梅鑑賞後はそれぞれの都合にあわせ植物園を後にしていった。

後述になるが、蕎麦屋では、人数も少なくテーブル卓でお互いの顔を見ながら食べたので、その間一人一人に簡単な自己紹介をしてもらった。お互いに知り合えるきっかけになれば幸いだ。

今回は、寒波到来でやや風もあり寒いのではと心配し、受付時、各自にホッカイロを配ったが、野川沿いを歩く時は追い風だったので風は気にな

らず、快晴だったこともあり深大寺に着く頃には、むしろ汗ばむほどだった。

昨年2月22日にはほぼ同じ内容で開催した時には参加者は19名、本年は8名。開催時期によっては留学生の少ない時期もあり、今回はその時期になってしまったようだ。今後はこの点も踏まえ、日程を組む必要がある。

20名参加と見積もり、深大寺では英語と日本語の2名のガイドさんをお願いしていた。10名1グループとなっていたが、2名で案内していただき恐縮。深大寺、国宝白鳳釈迦如来像、境内を外れたところにある深沙大王堂（深大寺の名前の由来となる深沙大王を祀っているところ）などを案内してもらった。

「とても怖い顔だそうです。」といつも説明を受けていた秘仏元三大師像の特別御開帳（4/26～6/2）があることも聞いた。本来は50年に一度の御開帳だが3年の大修理を終えての特別な御開帳。30年前が最後だった。

元三大師こと慈恵大師良源（912～985）は、平安時代中期に天台座主として活躍した高僧で、その命日が1月3日だったことから「元三大師」と称され、のちに神格化され、外敵や飢餓、疫病を避ける厄除けに力を発するとして、その肖像が祀られるようになったそう。全国の天台寺院でも元三大師像が造られたが、深大寺の像がとりわけ巨大で、写実的な表現も相まって見るものが圧倒される迫力に満ちているとのこと。

ガイドさんの説明があるのとないのでは見学の理解度も充実度も明らかに違う。留学生にとって「深大寺ウォーキング」が日本文化をより深く理解できる機会になればと願っている。

（幹事 山田和子）



山門前で

（２）ふじのくに留学生ツアー

日時：3月1日～3日

場所：沼津市および周辺

参加者：留学生15名、引率者4名

実施形態：沼津市の松下宗伯会員を中心とする沼津留学生支援の会主催事業の共催者として取り組む

輝く瞳が交わる富士の麓 —ふじのくにツアー同行記—

この春、念願だった「ふじのくにツアー」に初めて同行しました。これまで日程が合わず見送ってきましたが、今年こそはと予定を空けて参加を決意した大きな理由は、ツアーを受け入れてくださるお寺のご住職が高校・大学の先輩にあたる方だということでした。お目にかかれた瞬間、長年の思いが叶った嬉しさと胸がいっぱいになりました。

富士山を望む土地でのホームステイ——これほど魅力的な組み合わせはありません。到着した留学生たちは目を輝かせ、迎えてくださったホストファミリーの方々も同じ輝きで応えていました。その光景を見て、「素晴らしいツアーとは、出会う人全員の瞳を輝かせるものなのだ」と改めて感じました。

私自身は心臓に持病があり、2日目の標高1,000メートルの活動で体調を崩してしまいました。3日目は動けず寝たきりになったものの、ホストファミリーのご厚意で一泊延長させていただき、十分に回復してから新幹線で帰京できました。あの温かい心遣いがなければ、無事に帰ることもままならなかったでしょう。感謝の気持ちは尽きません。

長く日本に暮らす私でさえ、新しい発見がいくつもあり視野が大きく広がった旅でした。ましてや初めて富士山と日本の家庭生活を体験した留学生たちにとっては、人生を彩る特別な数日間になったに違いありません。

送り出す側も受け入れる側も少しずつ高齢化が

進んでいますが、このツアーに宿る「人と人をつなげ、互いの世界を広げる」という志は、きっと次の世代へ受け継がれていくはずです。私もその一端を担えるよう、これからも力を尽くしたいと思います。

(副会長 甘利実乃)



長興寺で松下会員と

白糸の滝から見た富士の素晴らしさ

アジャル

(ISEP 学部 カザフスタン)

今回のふじのくにツアーは、日本の自然や文化を存分に楽しめる、とても素晴らしい体験でした。3日間のプログラムは多彩で、訪れる場所やアクティビティがすべて魅力的でした。

1日目は、三島駅からツアーが始まり、日本庭園「楽寿園」の散策を楽しみました。美しい庭園の景色を眺めながら、日本の伝統的な風景の魅力を長感じることができました。その後、日本食レストランで美味しい昼食をいただき、茶道や座禅の体験をしました。特に、茶道の所作や心の落ち着きを学ぶことができ、とても貴重な時間でした。夜はホストファミリーと過ごし、日本の家庭の温かさを感じることができました。

2日目は、朝から富士宮市の朝霧高原でハイキングを楽しみました。広大な草原の景色と新鮮な空気の中を歩くのは、とても気持ちがよかったです。そして、ドライブインでの餅つき体験は本当に楽しく、自分で作ったお餅を食べることができたのも素晴らしい思い出です。その後訪れた「白糸の滝」は、今回のツアーで最も印象に残る場所

の一つでした。水が細かい糸のように流れ落ちる美しい滝の姿に感動し、さらに、そこから眺める富士山の雄大な景色はまるで絵のようでした。最後に富士山浅間神社を訪れ、日本の歴史や信仰について学びました。

3日目は、天気の影響で予定が変更になりましたが、むしろさらに楽しい一日になりました。まず、あるお寺を訪れ、「天井の龍」の絵を鑑賞し、その歴史についての話を聞くことができました。その後、水族館へ行き、さまざまな海の生き物を観察しました。特に、大きな水槽で泳ぐ魚たちは圧巻で、とても楽しい時間でした。そして、最後に美味しい昼食をいただき、お土産を買い、それぞれ解散しました。

全体的に、とても充実した素晴らしいツアーでしたが、スケジュールが少しタイトだったため、もう少し自由時間があると、よりリラックスして楽しめたかもしれません。それでも、日本の自然や文化を深く体験できる機会をいただき、本当に感謝しています。

はじめてのホームステイの素敵な思い出

Zehra-Sıla Ugur

(ISEP 学部 ドイツ)

この旅行はとても楽しみにしていました。この三日間でたくさんの新しい人や友達と出会うことができました。皆さんはとても親切で、一緒に楽しい時間を過ごしました。また、毎日私達を案内したり、様々なことを説明したりしてくれたお寺の方の親切にも感謝しています。さらに、日本の文化を体験し、自然の美しさを感じる重要な機会でした。特に、富士山を間近で見ることができたのは、今まで経験したことと全く異なる経験でした。少し桜も咲いていて、よかったです。最も素晴らしいのは、白糸滝でした。初めて見た時、なんて綺麗だなあと思い、心も和むようになりました。最後の日は強い雨でしたが、天気が良ければ、もっと素晴らしい体験になったと思います。皆さんと撮った写真は、ずっと大切な思い出になります。



楽寿園で河津桜を愛でながら

す。

先程白糸滝を述べましたが、最も印象に残ったのはホストファミリーのことではないかと思います。なぜなら、それは私の初めての経験だからです。私のホストファミリーはとても明るくて、いつも温かい笑顔をしてくれました。私たちはたくさん話をし、その中で日本とドイツの文化の大きな違いに気づきました。そのため、時々間違えてしまいました。例えば、スリッパのまま畳の部屋に入ってしまったことがあります。とても面白かったです。そのような小さな間違いも含めて、貴重な経験になりました。ホストファミリーは私に優しく教えてくれ、私はその経験を通して日本の文化をさらに深く理解することができました。

この三日間にお世話してくれてありがとうございました。初めてのホームステイだったので、素敵な思い出を本当にありがとうございました。皆さんと過ごした時間はとても楽しかったです。そして、たくさんのことを学ぶことができました。そのお好み焼きは家族にも作ってあげようと思います。皆さんにたくさんの幸せが訪れますように。

座禅の魅力体験

余 婷

(ISEP 大学院 中国)

こんなに多くの人数でツアーに行くのは初めてでしたが、新鮮で楽しかったです。自然風景も堪能しましたし、日本のいろんな文化も自分の身で

感じて、とても充実した三日でした。また、今回も初めてのホームステイでした。昼は旅行で、夜はホームステイの皆さんとそれぞれの関心事について話し合い、とても楽しかったです。

ただ、私個人としてはもう一日ホストファミリーの皆さんと一緒に遊びに行ったり、散策したりできたら、もっと完璧だと思います。ありがとうございました。

大好きなのは白糸の滝の辺りですが、最も印象に残ったのはやはり坐禅のことでした。中国人にとって坐禅は別に聞いたことがない話というわけでもないし、自分の周りでは普段坐禅をしている友達もいますが、今までどうして坐禅するのかは理解できませんでした。でも、今回は自分で体験することでしみじみと感じました。静かな環境で呼吸を整えることで、心がだんだん落ち着くようになりました。それに、数えることに集中しないといけないので、余計な考えや悩み事なども一切考える余裕はありません。やっているうちに、リラックスできるし、集中力も鍛えられるようになって感じました。それこそが坐禅の魅力だと思います。これからも、できるだけ坐禅に慣れるようにしたいです。

ホストファミリーの皆さんは暖かく迎えてくれて本当にありがとうございました。四人の子供たちはみんなとても自立していて素敵で、とても可愛らしいです。皆さんと一緒に UNO というゲームをしていたこともきっと忘れられない記憶になると思います。手作りのプレゼンをもらったこと、とてもうれしかったです。大切にします。



交流した現地高校生と一緒に座禅体験

また、お父さんとお母さんもとても親切で、私たちに本当の日本の家庭料理をふるまってくださいました。いただいたお料理はどれもおいしくて、心がこもっていて感動しました。特に、今まで生ものを食べるのにちょっと抵抗があったのですが、今回の手巻き寿司では、初めてこんなにたくさんの生魚を食べることができて、とても新鮮でおいしかったです。それに、皆さんのおかげで、今回は日本だけではなくて、カザフスタンの文化にも接触することができました。

私の日本語はまだまだ足りなくて、思ったことをうまく表現できないことが多かったのですが、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。またお会いできる日を楽しみにしています！本当にありがとうございました。



留学生を魅了した白糸の滝

ホストママのおかげで芸者パーティーも

ユタリー・ディサーナーヤカ

(日研生 スリランカ)

今回のふじのくにツアーは非常に充実しており、日本の文化や自然を深く体験できる素晴らしい機会となった。高級和食レストランでの食事やお寺での坐禅や茶道体験は特に印象的で、忘れられない思い出となった。さらに、私とマリエさんのホストママである三宅さんと一緒に過ごした時間もとても楽しかった。温泉に行き、日本の伝統的な温泉文化を経験することができた。

お寺での茶道体験は、高校時代に日本へ留学していた際に茶道部に所属していたこともあり、非常に懐かしく、当時の思い出がよみがえった。

伊豆・三津シーパラダイスでのイルカショーは初めての体験であり、イルカたちの美しい動きや賢さに感動した。白糸の滝の美しい景色や餅つき

体験など、日本の自然や伝統文化を肌で感じることができた。こうした数々の貴重な経験のおかげで、今回のツアーは一生忘れられない思い出となった。

最も印象に残ったのは、ホストママの三宅さんと過ごした時間である。初めて芸者のパーティーに参加し、日本の伝統文化に直接触れることができたのも印象深かった。そ

のパーティーでは、三宅さんの友人である多くの実業家と出会い、貴重な交流の機会を得ることができた。また、三宅さんの家で開かれたパーティーでは、たこ焼きを作る体験もでき、とても素晴らしい思い出となった。三宅さんと一緒にコンサートを見に行ったことも貴重な機会となった。車の中では、お互いの文化や経験について語り合い、とても楽しい時間を過ごした。さらに、東京に戻る際、マリエさんと私を見送りに来てくれたことも、とても感動的であった。三宅さんとの出会いは、今回のツアーの中でも特に心に残る素晴らしい経験であった。

今後の改善点としては、もし富士山に登る機会があれば、さらに特別な体験になったと思う。それ以外はすべて完璧で、素晴らしいツアーであった。



餅つきは難しい

(3) 第54回府中市民桜まつり「民踊流し」

日時：3月22日(土) 11:00～14:00

場所：府中市寿町桜通り

参加者：留学生11名、引率2名、現地参加会員2名

昨年に引き続き、府中市ならびに実行委員会からの打診に応じて地域市民祭りに協力する形で取り組んだ。昨年以上の参加を予想したが、応募者は13名と少数であり、当日参加は11名に留まった。

とはいえ、参加した学生たちはやる気満々で、

1週間前の練習会で府中市の民踊協会の10名近い方々から6曲の指導を受け、本番に備えた。

当日は11時半には集合場所「ふれあい会館」に集まって揃いの浴衣を着せてもらい、13時から約1時間、桜通りを踊り歩いた。桜は未だであったが、青空の下、リズムに乗って楽しそうに手足を動かしていた。会報で知ったという会員ご夫妻の、手製の法被持参でのサプライズ参加もあり、それに触発され、引率の我々も見よう見まねで踊りによる地域交流に加わっていた。(谷)



「学生後援会」の法被持参で参加してくれた会員と共に

桜のトンネルは無かったが

アビヨガ・イ・マデ・ラウン
(ISEP 学部 インドネシア)

ある日、TUFS-ISSAのウェブサイトを見ている時、「桜のトンネルの下で民踊流しを楽しもう」が目にとまった。最初は踊るのが苦手で、参加するかどうか悩んでいたが、新しい友達ができたり、日本の文化を経験できたり、桜の下で他の学生と一緒に踊るのが楽しそうだったと思ったので、参加することにした。

イベントの一週間前、インストラクターが来て教えてくれた。6つのダンスを覚えるのは簡単ではなかったが、楽しい雰囲気練習し、イベントの日がもっと楽しみになった。祭り日には桜の花はまだ咲いていなくて、少し残念だった。しかし、皆が盛り上がり、わくわくした気持ちでダンスに臨み、残念な気持ちをすぐ忘れた。澄み渡った春の始まりの青い空の下で府中の市民と一緒に、浴衣を着ているTUFSの留学生である私たちは笑

いながら、流れる音楽に合わせて踊るのが精一杯だった。この経験は忘れられず、いつまでも大事にしている。

民踊流しのイベントは私の母国インドネシアにある「ジェロン・ベテン (Jeron Beteng)」というダンスフェスを思い出させた。このフェスではジョグジャカルタ市の市民が街の広場に集まり、「仮面踊り (Tari Topeng)」という伝統的な踊りを一緒に踊った。名前の通り、この踊りでは皆が仮面をつけて踊っていた。日本とインドネシアの文化はそれぞれ独自の特徴を持ち、両方の文化を体験できてとても嬉しかった。

祭行事を通じた他者との絆

李瀾清

(大学院博士前期課程 中国)

3月22日の「府中市桜まつり民踊流し」に参加した際、それはまさに心を揺さぶる喜びに満ちた瞬間である。まだ春の息吹がほのかに感じられる頃、枝先には花の姿こそ見られなかったが、その欠如は人々の笑顔を少しも曇らせてはいなかった。木々の下では、音楽に合わせて人々が軽やかに舞い、その場が一つの活気あふれる舞台と化していた。ダンスを教えてくださいと先生が情熱的な励ましや、市長をはじめとするさまざまな国の人々との共演は、私たちの未熟な動きを全く問題視せず、むしろ温かい微笑みで包んでくれた。そして最後には、沿道にいた観客たちまで一緒に踊って、その一体感と賑やかさが今でも鮮明に私の記憶に刻まれている。

私の故郷である内モンゴルでも、元宵節という特別な行事に参加したことがあった。その夜、星



民謡で国際交流

空の下で打ち上げられる花火が空を彩り、人々は囲炉裏を囲みながら新しい年の豊穡を祈ってる。中には早めに伝統衣装を身に纏い、準備万端で参加する人もいれば、途中から扇子を手に加わり、その場をさらに華やかにする人もいた。あの時もまた、多くの人々が一堂に会し、心をつなげて祝祭の喜びを分かち合っていた。

どの国、どの民族においても、こうした行事を通じて私たちは新たな希望を抱き、その瞬間を共有することで他者との絆を深める。それはただの儀式ではなく、心を動かす力を持った文化的な奇跡なのではないでしょうか。

(4) 春期バザー

期 日：2025 年 4 月 4 日（金）、5 日（土）
（値引き）8 日（火）、10 日（木）11 日（金）
会 場：国際交流会館 2 号館交流ホール
売 上：252,860 円

バザーの目的

春期バザーは新たに海外から来る学生の生活応援を一番の目的に行っています。学生には好評で期間中延べ人数として 300 人近い利用がありました。また、昨年度より会員拡大の広報活動の一環として、入学式に合わせて行っています。入学式参加者にバザーを見学していただきたいからです。しかし、会場との距離の問題もあり、付き添い家族が会場に足を運んで下さる例は少なく、今年は 3 組でした。

販売品&売れ筋

期末に帰国する留学生からの寄付を主にし、会員、外語会、学校関係者の皆様からお寄せいただいた品々を販売しています。特に帰国学生からの寄付は、電気ポット、電気釜、レンジ、ドライヤー、IH 用の鍋やフライパン、食器、カトラリー、洗濯用品等々生活必需品のため売れ行きは良好でした。以前と様変わりして需要の少ない寝具、特に衣類は、何らかの策を講じる必要に迫られています。

す。

展 示

寮の一階にある国際交流ホールで行うバザーは、ホールの中心に大きなテーブルを 2 台合わせたものを 2 つ作り、洋食器と和食器とを分けて展示しています。テーブルクロスをかけ、その上に一段高く小さな台を載せ、私達の思いを表現する場にしています。皆さんにお見せしたい伝統的な美しい食器やお盆の上に塗り椀、飯茶碗、小皿、箸置きに箸を添えた日本らしい一揃え等を飾りました。2 つのテーブルを中心に、壁に沿って電化製品、台所用品、洋服、靴、バッグ、寝具、文房具や雑貨売り場を作りました。



必要な生活用品を探す学生

新しい試み

スタッフの高齢化と少数化という厳しい現状です。何とか作業量を減らせないかとの苦肉の策で、品物を持ち込む学生に種類ごとに分けて置いてもらうことにしました。品目を書いた箱を用意し、その中に区別して入れてもらいました。このアイデアが大成功だったとは言えませんが、今後ともバザーが続けられることを願い、工夫、改良を重ねてまいります。

（幹事 小平）

(5) JAXA 調布航空宇宙センター見学

日 時：4 月 20 日（日）13:00～15:00
場 所：JAXA 航空宇宙センター調布飛行場分室
参加者：学生 28 名（留学生 25、日本学生 3）、
引率 4 名（幹事 3、会員 1）

JAXA 調布宇宙航空センター見学は、2022 年度

に次いで2度目となる。今回は通常業務時間内の見学のため、見学時間や参加人数の制限があり実施に苦労したので、今回は制約のない一般公開日を選択した。その結果、ゆとりをもって近隣散策を兼ねて日本の科学技術の先端に触れることができた。

4月に集団行動型イベントを行うのは初めてである。周知・募集期間が10日余りしかないことが案ぜられたが、11日に募集を開始すると2日間で定員30名を超える申し込みがあり、キャンセルも見込んで36名で受付を終了。来日直後の留学生の交流・体験欲求の強さが示されるかたちとなった。

当日の様子に関しては、参加学生の感想文、ならびに今回引率に協力くださった前田会員の「会員から」への寄稿をお読みいただきたい。（谷）



この飛行機には乗れませんでした

JAXA 調布航空宇宙センター見学に参加して

粉川実紗緒

（学部生 日本）

留学生支援の会のイベントには数回参加したことがありましたが、今回の航空宇宙センター見学も非常に楽しむことができました。私はバディと一緒に申し込んで参加したのですが、行き道に歩きながら沢山話したことで、相手のことを以前よりもよく知ることができました。

見学中は、センターで研究されている内容や模型を見たり、へりと写真を撮ったりすることができ、非日常を味わえました。普段なかなか見ることのできない施設だったのでとてもワクワクしま

した。この機会に訪れることができて良かったです。

施設内を回りながら、新しい友人ができたことが、この日の一番の収穫でした。前回のイベントではパキスタン人の友人ができましたが、今回はイタリアとインドネシアの留学生と仲良くなることができました。英語で話していると、出身国ごとの文化の違いや発音の違いなどを知ることができたり、相手も私や日本のことを知りたがっているのを感じたりすることができて非常に嬉しかったです。

外大にいても、自分から行動しなくては留学生と関わることはできないので、これからもイベントに参加しようと思います。素敵な時間をありがとうございました。

（6）高尾山ハイキング

日時：5月18日（日）10：00～14：00

場所：高尾山

参加者：留学生18名、日本学生6名、引率者3名

当日までの準備

天候が心配されたが、初めてとなる高尾山ハイキングを催した。3月幹事会で企画を確認し、4月7日の週にHPに掲示、4月18日の週から募集を開始した。反応は良く、一週間で定員に達し、さらに3名をWaiting Listに登録した。

告知した5月8、9、13日に参加費の受付をしたが途中で行き違いがありWaiting Listに載っている学生も参加可にした。結局支払終了時5名



仏舎利塔で はいチーズ

のキャンセル者が出た。

5月11日に引率者3名（前田会員、神戸幹事、山根）で下見をした。幹事会では混雑が心配されたが、想像よりも少ないと感じたので、リフト割引券の購入は集合後で良いと判断した。

その後実施までの一週間に、参加学生からバディと同じ班にして欲しい、参加費を当日支払いたい（2名）などの連絡があり、対応した。

当日の流れ

引率者には“少し早めに”と依頼しており、9:30頃に高尾山口に着くよう家を出た。車中で2名ほどキャンセルのSMSがあり、前週にメールで連絡があった2名と合わせて合計9名になった。

定刻通り9:30に到着。やがて神戸さん、前田さんも到着。早速受付を神戸さんと私で開始し、日本人の学生にもサポートをお願いしたが統率が取れず右往左往してしまった。現地で参加費を支払う学生の対応等もあり、駅を出発したのは10:20過ぎになった。5分ほどでケーブル乗り場に到着。ケーブルの券は予想した通りすぐ購入できた。ケーブル下車後、皆を集めて計画通りたこ杉、浄心門、仏舎利塔（集合写真）、薬王院を散策、山頂には12:00頃到着した。そこで班が分かれ、集合場所に集めるのに苦労した。皆集まったのは12:20。そこから1時間昼食休憩を取った。

休憩後下山。計画では4号路（吊り橋）方面に行く予定だったが前日の雨でぬかるんでいると判断し、帰りも1号路を使うと学生に伝え、同時にケーブルよりリフトの方が面白いとも伝えた。山頂到着後分散し、全体写真を撮る機会がなかったので、山頂碑がある場所で撮影した。ここでD班は解散。残りもリフト・ケーブル分岐点で解散したが、結局皆リフトで下山した。

事後の返金処理

参加費支払い済みのキャンセル者には無届者を含めて返金することにし、該当7名に連絡した。

反省点

引率者：30人近い学生らを3人でまとめるのはやはり大変だった。

今回は4班に分けたが、各班1名＋全体1名の

引率者は必要であろう。

Open Chat：鎌倉行事の時にOpen Chatを使用していたので今回も使用したが第三者が入室してくる事案が発生した。

キャンセル：今回のキャンセル者は10名で、申込者34名の3割もあったのは残念である。キャンセル対策を検討する必要がある。

（幹事 山根）



山頂での記念撮影

【参加留学生の感想】

Mt Takao, It's Not just a Mountain. It's about Nature

Luthfi Azizah Azhar

(ISEP 学部 インドネシア)

If there's a quote "you should go Mt Takao, at least once", I will say, "Mt Takao is not just for travelers, runners, climber mountain, or hiker hunting. This mountain is for everyone. Ladies, gentle, a child, kids, adult people, or a couple of young people!!"

Hello. I'm Luthfi, an exchange student at Tokyo University of Foreign Studies. I come from Indonesia. I love climbing mountains or camping on the beach. Touching nature is one of my hobbies! So when I came to Japan, I was very curious about Mt. Fuji. I went to Kawaguchi for several destination, I'm very enjoy the nature in Kawaguchi! It's like you escaping a while from rush ambience in Tokyo to the slow living-nature-fresh air-Back from Kawaguchi, I have one reason to visit again, yet I want to climb Mt. Fuji one day! I highly hope!

Thus one day, I didn't realize that Tokyo has a hidden-gem of nature, called mt. Takao. Immediately, plan to visit!!!

I joined the activity from TUFS ISSA to hiking Mt. Takao. It's very easy to reach mt. Takao by train even if you are a first timer come to Japan! There's a lot of information in English on the website. And when you arrive at the station, (called Takaosanguchi—you can go by Keio line) you just need to walk for less than 5 minutes, and you will arrive at the main post Mt. Takao!

There are several ways to reach the top of Mt. Takao: by train, lift, or by walk-climb. Choose the best one you like! And enjoy your trip!!

Have a good experience-nature trip in Japan! Right away make a plan with your loved people.

Really Amazing !

Dorian Rivas

(ISEP 学部 アメリカ)

The hike was really amazing, and I'm so glad that was a way for me to be able to see Mount Fuji after I've really been wanting to for so long! It was also fun riding the cable car and the lifts!

(7) その他の活動

1) 地域 FM 局での支援の会 CM 収録 —留学生と一緒に挑戦!—

出口科野会員の紹介による出演依頼をきっかけに、東京外国語大学の学生がパーソナリティを務める府中市の地域ラジオ局「ラジオフューズ」の番組『アッチャーラジオ』で、支援の会の活動紹介 CM を流してもらえることとなった。3 月 18 日（火）に府中駅近くのラジオスタジオで収録を実施。当日は支援の会から谷会長、神戸、山本の 3 名に加え、ルワンダ出身のイレネさん、中国出身のヨさんとテイさん、ラオス出身のディットさ



収録中の、手前からイレネさん、ディットさん、テイさん、ヨさん

んの留学生 4 名が協力してくれた。

午前中は連絡室で原稿の読み合わせ。最初は緊張していた留学生たちも、次第に打ち解け、和やかな雰囲気の中に練習を終えた。お昼にはそろって生協食堂へ。その日はたまたまバナナカレーという一風変わったメニューがあり、それに七味をかけて食べる学生もいて、食の趣向も話題もそれぞれ盛り上がり、楽しい交流タイムとなった。午後はスタジオへ移動し、いよいよ本番。マイクを前に再び緊張が高まったが、皆堂々たる声で見事に収録を終えた。

今回のラジオ CM では、原稿の作成も会のメンバーで担当した。ラジオ向けのメッセージを考えるのは初めての試みで、インパクトある短い言葉で表現する難しさ、さらに雰囲気に合う BGM を選ぶという難題に頭を抱えつつも、メンバー同士で意見を出し合い、なんとか作りあげることができた。実際の読み合わせまで、各人の声の雰囲気や読みやすさが掴めず、本番直前で担当を変える一幕もあったが、印象に残る良いものに仕上がったと思う。

特に好評だったのは、留学生が母語で挨拶をし、日本に来てからの経験を語る 1 本だ。ネイティブの発音で届けられる言葉の力は大きく、強く印象に残る。

収録した CM は 15 秒版が 2 本、30 秒版が 4 本。会の活動紹介やバザーの案内など、それぞれの個性が光る構成だ。週替わりで 2 本ずつ、火曜日午後 5 時～6 時の番組内でオンエアされている。

最後はパーソナリティの方々と記念撮影も行い、

笑顔あふれる一日となった。留学生からも「貴重な経験だった」と嬉しい声が寄せられた。放送を聴いて早速バザー用品を寄付して下さった市民の方もあり、活動の広がりを感じている。

(会員 山本)

*放送は87.4MHz (FM) のほか、HP のブラウザ版や「ラジオフューズ」アプリ (下記参照) でも聞くことができます。

ラジオフューズ HP ; <https://radio-fuchues.tokyo>
アッチャーラジオ Instagram:
https://www.instagram.com/accha_radio/

異国で「共有すること」の力

郑雯露

(日研生 中国)

先日支援の会の方の招待で映画音楽コンサートを鑑賞しました。スクリーンなしで聴く生演奏は、映像を超えて想像力をかき立てられました。オーケストラの重なり合う旋律に包まれると、国境を越えて人を結ぶ音楽の普遍性を実感。留學生活の孤独感が、一瞬で優しい音色に溶けていくのを感じました。

3月に経験した留学生支援会のラジオ収録は「支え」を「発信」に変える挑戦でした。多国籍の仲間とマイクの前で練習を重ねる中、言葉の壁を越えて「困っている仲間を助きたい」という想いが原稿より強く伝わった瞬間。普段お世話になる支援会の生活ガイドや活動といったサービスを、今度は私たちの声で届ける意義を痛感しました。

コンサートで得た心の栄養と、ラジオで作り上げた仲間との絆。この二つの体験が教えてくれた



収録の緊張も解け笑顔の7人のナレーター

のは、異国でこそ「共有すること」が生きる力になるということです。

2) 4月入学留学生への歓迎・広報活動



①国際交流会館に新規入寮する留学生約170名を対象に、3月中旬、ウェルカムカードにキャンディーを添えて透明袋に入れたものを作成し、留学生課に依頼して入寮時に手渡してもらった。

②留学生課が留学生を対象にオンラインで実施した入学オリエンテーションで10分間の枠をもらい、取り組んだ。

3月28日に私費留学生を対象に日本語で、4月3日に ISEP 留学生を対象に英語で、4月4日に国費留学生対象に英語で、支援の会の紹介を行った。

③オリエンテーションで呼びかけてGフォームによるアンケート調査を実施し、40名の回答を得た。どんなイベントに参加したいかという質問に対しては、「日本の伝統文化の鑑賞」(97.1%)、近郊の歴史的都市への日帰り旅行(94.6%)、「日本人学生との交流」(88.6%)の3つが圧倒的である。

(谷)

3) 入学式付添い保護者への入会宣伝

昨年度導入された入学手続きのオンライン化に伴い、今年度も3月の手続き期間中の中入会者は少数に留まった。それを少しでも挽回すべく、入学式当日の入会案内広報に取り組んだ。

今年度も保護者は研究講義棟内の数教室で式の実況中継を視聴するという形式で入学式が実施された。支援の会は付添者待機室付近にスタンドを設置し、4名の留学生の協力を得て入退室する保護者に入会を訴えるチラシや「会報」を配布して会の存在をアピールし、入会を訴えた。

(谷)



チラシ配りの合間に

（８）準備中の事業

次号発行までの間に下記の事業を計画しています。日程など未確定のものに関しては、夏休み明けまでにはHP等に詳細を掲載します。

能楽鑑賞は、本号が届くころには既に実施済みだと思いますが、歌舞伎鑑賞や鎌倉散策には参加していただけます。留学生との交流に関心があり、都合のつく会員の参加を歓迎します。2回のバザーへの協力、来場もお願いします。

1) 能楽を観に行こう

日時：6月28日（土）：13：30～17：00

会場：国立能楽堂（JR千駄ヶ谷駅徒歩5分）

募集定員：30名（留学生及び日本学生）

2) 歌舞伎を観に行こう

日時：7月25日（金）

会場：ティアラことう（地下鉄住吉駅徒歩4分）

募集定員：50名（留学生及び日本学生）

3) 秋期バザー

日時：9月26日（金）27日（土）12：00～16：00

会場：国際交流会館2号館交流ホール

4) 古都鎌倉散策

日時：10月下旬～11月上旬

5) 外語祭バザー

日時：11月下旬外語祭期間中の3日間

4. 留学生の声

（１）留学生リレー投稿

気候の相違は大きいけれど

Dan Lvov

（国費学部進学留学生 イスラエル）

まず、日本での生活について書く前に、少しだけ、まだ地元イスラエルにいたときの話をしたいと思います。

「さぞ、緊張しているでしょう」そうみんなに言われまし

た。両親からはもちろん、友達からも、同僚からも、会うたびに話題に上がらないことはほとんどなかった気がします。それに対して、本人である私の気持ちはその反対で、安心というよりは無に近い気持ちでした。不安のあまり無意識に考えないようにしていたのかもしれませんがね。

さて、日本に着いたときの話をしましょう。皆さんは4月2日の天気を覚えていますか。私は鮮明に覚えています。日本人なら小雨と表現するのかもしれませんが、国土の3分の1が砂漠であるイスラエルから来た私にとっては暴風雨にしか思えませんでした。天気予報をあらかじめ確認しなかった私は傘も持っていなかった。

モバイルデータを契約したにもかかわらずスマートフォンが通じないまま、およそ30キロの荷物を、駅員の方々や親切な通行人の方々に道を尋ねながら、なんとか大学まで辿り着きました。

やっと到着したキャンパスには真っ白な桜が満開で、とても綺麗でした。寮の入口では、チューターと呼ばれる先輩方が新入生を迎えてくださっていて、私は皇一さんという、とても優しい方に案内していただきました。



JLCの教室で

部屋はトイレもシャワーも完備されていて、一人暮らしにしては十分な広さでした。必要な手続きを済ませ、気がつけばいよいよ新学期が始まっていました。

ありがたいことに、さっそく何人か友達もできました。そして、お笑いやクイズ研究など、いくつかのサークルにも参加してみました。お笑いサークルの方々は、果たせるかな、面白い人ばかりで、場を明るくするのも本当に上手で、これから大変楽しみです。一方、クイズ研究サークルの皆さんは驚くほどの物知りで、話しているだけでも勉強になるので、こちらもとても刺激的です。

2年前にも日本に来たことはありましたが、今回はカラオケに行く際、学割も使えてお得に楽しめました。回転寿司や中華料理、日本に来て一ヶ月も経ちませんが、新しくできた友達と一緒に色々経験しました。

大学のすぐ近くにあるローソンや、少し離れたところにある業務スーパー、飛田給駅へ向かう道に植えられた綺麗な木々、その近くにある味の素スタジアム。慣れ切った地元とは違い、外に出るたびに新しい発見があって、毎日がちょっとした冒険です。

正直に言えば、天気は時々大変ですし、蒸し暑いと言われている夏も不安です。それに初めての一人暮らしで分からないことだらけの毎日ですが、ここで出会えた仲間、大学の優しい先輩方や先生方のおかげでなんとか乗り切れそうです。

(2) 学会発表旅費補助受給学生の報告

リスボンで語った「在外ブラジル人と日本」

モッタ・デ・モウラ・マテウス

(博士前期課程国際日本コース ブラジル)

2025年3月、私はポルトガル・リスボンのマカオ科学文化センター(CCCM)が主催する春季会合に参加しました。CCCMはヨーロッパとアジアの懸け橋をめざすポルトガルの研究機関で、期

間中はインドや東ティモール、日本など多彩なアジア諸国をテーマにした発表が続き、会場は連日活気に満ちていました。

会合は3月10日から28日まで続き、私は二度登壇する機会を



報告するマテウスさん

得ました。まず13日、若手研究者セミナーで「海外在住ブラジル人有権者のボルソナロ支持—日本とポルトガルの比較」というテーマを取り上げ、両国に暮らすブラジル人コミュニティの投票行動を分析しました。続く26日の「ジャパン・デー」では、学士論文をベースに「日本におけるブラジル人有権者のボルソナロ支持—メディアと宗教の影響」という短い講義を行い、日本社会に根を下ろすブラジル移民の政治意識について報告しました。この日には文学やポップカルチャー、国際関係など日本に関する幅広い発表が並び、私の報告もその一角として聴衆の関心を集めました。

全体を通じて、自身の研究成果を異なる背景を持つ参加者と共有し、アジア研究の専門家から貴重な助言を得られたことは大きな収穫でした。リスボンの春の陽気のなか、ヨーロッパとアジア、さらにはブラジルと日本をつなぐ対話の場に身を置けたことは、学問的にも個人的にも忘れがたい経験となりました。

ブラジルで感じた「風土」と気候危機

—留学生の環境哲学フィールドノート—

ジュールダン・ファイオン・アリアドネ

(博士前期課程国際日本コース ブラジル)

私はブラジル出身で、東京外国語大学大学院で環境倫理を研究しているジュールダン・ファイオン・アリアドネです。今年、同大学の留学生支援の会(TUFS-ISSA)から旅費助成をいただき、1月末から4月中旬まで故郷ブラジルに帰国しまし

た。目的はリオデジャネイロ州カジミロ・デ・アブレウでの修士論文フィールドワークと、3月26日にリオデジャネイロ連邦農業大学ノヴァイグアス校で開かれた「環境哲学セミナー」への登壇です。

セミナーのテーマは「気候危機の時代に芽生える環境哲学」。ブラジルとラテンアメリカの先住民社会が育んだ自然観や、ハンス・ヨーナスの責任倫理などが紹介される中、私は日本の哲学者・和辻哲郎が説いた「風土」概念を取り上げました。和辻は、人と自然が切り離せない存在であることを指摘し、その考えはハイデガー現象学とも響き合います。東西の思想をつなぐこの視点を通じて、「私たちは自然とどう向き合うべきか」を参加者と議論できたのは大きな収穫でした。

高校卒業後すぐ来日した私は、これまでブラジルの学会で発表する機会がなく、母語で聴衆と直接対話できたのは今回が初めてです。助成金のおかげでブラジル往復の航空券と現地移動費の一部をまかなえ、さらに会場では同分野の研究者と交流し、入手が難しかったブラジル環境哲学の書籍も手に入れました。

一方で、滞在中に目の当たりにした気候変動の影響は深刻でした。2月中旬のリオデジャネイロは連日40℃前後、体感温度は60℃に達する日もあり、外に出るだけで息苦しさを覚えました。

2月19日には隣州サンパウロで豪雨が道路を川のように変え、2人が亡くなる水害が発生。昨年リオグランデ・ド・スル州を襲った大洪水の記憶も生々しく、人々の間には「次はいつ、どこで」

といった不安が広がっています。

自然との関係をどう捉えるかは、気候危機への向き合い方を左右します。ブラジルと日本の双方で環境哲学を学び、教え合うことは、持続可能な社会を築くうえで欠かせません。今回の渡航で得た

知見とつながりを、今後の研究や教育活動に生かし、国際的な対話をさらに深めていきたいと思います。最後になりましたが、貴重な機会を与えてくださったTUFS-ISSAの皆さまに心より感謝申し上げます。

（３）元留学生の寄稿

自文化の大切さ

在日ハンガリー国領事 ハイデガー アグネス
(元国費学部留学生 ハンガリー)

私の初めての来日は1998年であり、東側諸国の解体、ソビエト連邦崩壊やインターネットの普及により、国境を越えた交流が拡大し、グローバル化が加速した時期でした（東京外国大学で最初にインターネットを使用できた留学生でした）。ちょうど、世界が1つの国になり、文化的多様性がなくなるという発想が浮かび上がったタイミングです。

国費留学生として、最初の1年間東京外国大学で、優秀な教師陣から日本語、経済、歴史を学び、日本文化に触れ、素敵な思い出が沢山できました。その一つは、日本語クラスで食文化について書かれた文章を読んだ時の感情でした。

25年前の話ですが、そのころの私には、「食文化」の意味が全く理解出来ず、言葉としても新しい表現でした。なぜならば、私の国で、文化として理解されているのは、基本的に文学、音楽、絵画のみになるからです。食べ物も文化に属する事に初めて気づきました。文化は芸術以上のものであり、極めて複雑で、食べ物も含め、生活の隅々にわたり欠かせないものであるということを実感しました。

文化は生活のあらゆる側面に浸透し、個人の考え方を形成し、世代間の架け橋を築き、特定のコミュニティを一つにまとめます。

夫によると、日本人が外国の食習慣をオープンに受け入れているのは、自分たち自身が非常に高



会場の前で

いレベルで自国の食文化を実践しているからだそうです。自らの文化を知り実践して初めて、異文化を真に理解し尊重することができ、多様性を受け入れることが可能になります。

まず自分自身の伝統と文化を深く理解し、初めて他人を尊重することができます。もしある国民が自分の文化を継承せず、価値観を大切にせず、伝統を未来に繋げられない事になったなら、外国の文化をも認められなくなることでしょう。

つまり、愛国的な姿勢は第三者を無視することではなく、むしろ第三者を理解し受け入れることに役立ちます。自分自身を見つめず、何世代にもわたって継承されることなく、他の文化に溶け込んでしまう文化は失われていきます。これは、日本の保守的で愛国的な姿勢が私に教えてくれたことです。

団結した文化がなければ強い社会は存在せず、強い社会がなければ強い経済パフォーマンスは存在しません。世界を守る前に先ず自分自身を大切にし、伝統文化を維持することが、結果的に世界全体の向上につながります。日本も、いつまでも日本らしく居続けることを心から願っています。

新人社員の近況報告

洪 煥燦

(大学院博士前期課程修了 中国)

私は現在、日本の老舗企業で社会人一年目として働いています。今年の3月に東京外国語大学の大学院を卒業し、4月から物流関連の部署で現場研修を受けています。9月には正式に配属される予定で、将来的には海外拠点、特に中国への赴任の可能性もあると聞いています。

私が日本に興味を持ったきっかけは、大学3年生の時に経験した長崎での交換留学です。初めて日本人や日本文化、日本食に触れ、日本という国に対する印象が大きく変わりました。その経験がきっかけで日本への思いが強くなり、帰国後は一度高校の日本語教師として働きましたが、どうし

ても日本で学び直したいという気持ちが消えず、思い切って退職し、大学院進学を目指しました。

長崎での留学中、寮の管理人さんから「日本語を学ぶなら東京外国語大学が一番だよ」と教えていただいたことが心に残っており、それが私の目標となりました。努力の末、無事に東外大に合格し、東京という多様な機会に恵まれた環境で学ぶことができました。大学院では語学だけでなく、日本社会や文化、ビジネスマナーなど幅広く学び、それが就職活動にも大いに役立ちました。

日本企業で働く中で感じるのは、チームワークや現場での丁寧なコミュニケーションの大切さです。また、年功序列や報連相（報告・連絡・相談）といった独特の文化もあり、最初は戸惑うこともありましたが、今ではそれも日本社会の魅力の一つだと感じています。

今後は、自分の語学力と異文化理解の強みを活かし、会社に貢献できるよう努力していきたいと思っています。

(4) 支援の会でのインターンシップ志願留学生

Why I Joined TUFs-ISSA for My Internship

Iradukunda Irene

(ISEP 学部生 ルワンダ)

INTRODUCTION

As an international student from Rwanda studying Peace and Conflict Studies, I chose to join the Tokyo University of Foreign Studies International Student Support Association (TUFs-ISSA) for my internship because of the valuable connection it offers between cultural understanding and humanitarian support. My major focuses on promoting peace and resolving conflicts, which is deeply connected to humanitarian work and supporting vulnerable communities. TUFs-ISSA's dedication to helping international students and fostering cultural exchange aligns with my passion for creating peaceful and supportive environments for people from diverse backgrounds.

MY MOTIVATION

One of the main interest that influence me to join this association is that TUFSS-ISSA is its commitment to enhancing the daily lives of international students. With around 700 members, including faculty, students, and local residents, the association fosters a sense of community that we find incredibly welcoming here in Japan. As someone who is far from home, being part of a supportive network like this association is essential for my well-being and academic success. The lifestyle support offered by TUFSS-ISSA is particularly appealing to me. Even though I didn't meet with this case but, I understand that maybe financial challenges can arise especially when you arrived new country however TUFSS-ISSA is here and ready to support new community to get support in financially, and also association organize bazaars activities each entrance semester that offer daily necessities at low prices, personally this activity helped me to settle into my new life here in Japan in terms of manage my budget well more effectively.

MY INTERNSHIP OBJECTIVE

During my internship, I want to learn how TUFSS-ISSA provides practical support to students facing challenges, such as adjusting to life in a new country. Understanding how they offer assistance like grants, life consultations, and community-building activities can give me important insights into humanitarian aid in an educational and cultural context.

I am also very interested in TUFSS-ISSA's role in promoting cultural exchange between Japanese and international communities. Peace building requires empathy and appreciation of different cultures, so I want to study how they create connections and encourage mutual understanding through their various programs, including cultural tours, traditional arts classes, and local interactions.

Overall, I believe my internship at TUFSS-ISSA will help me develop practical skills and knowledge related

to humanitarian support and peaceful coexistence, which are essential for my future career in peace and conflict studies. It is a unique opportunity to grow both personally and academically by being part of a community that supports diversity and promotes harmony.

CONCLUSION

In conclusion, joining TUFSS-ISSA is a significant step for me as I embark on my academic journey in Japan. The support, cultural exchange, and community engagement offered by this organization align perfectly with my aspirations as an international student. I am excited to contribute to and grow within this vibrant community.

5. 会員から

バザーと JAXA 見学をお手伝いして

会員 前田信明

留学生支援の会にとって、新年度が始まる四月はとても忙しい時期です。会員の皆様や留学生の方々から寄せられた電気製品、調理器具、食器などを、バザーという形で新たに来日した留学生たちへと橋渡しする活動を行っています。留学生の皆さんが日本での生活を順調に始められるよう支援するとともに、まだ使える物品を有効に活用するという観点からも、意義のある活動であると自負しています。

四月にはバザー以外にもさまざまな活動があります。たとえば、今年は日曜日の午後、留学生約 30 名とともに、調布飛行場の向こう側にある JAXA の調布飛行場分室を訪れました。訪問日は、JAXA 側の年に一度の一般公開日でした。風が強く曇り空ではありませんでしたが、暑すぎず寒すぎず、心地よい気候の中での散策となりました。移動も含めて二時間程度の短い行程でしたが、留学生たちは思い思いに歩きながら、日本の科学技術

に触れることができ、有意義な時間になったと思います。

また、外大周辺を紹介することを通じて、日本の自然の美しさを感じていただくことも目的の一つでした。これから留学生の皆さんは、日本各地を旅行し、さまざまな魅力に触れていくことでしょう。その第一歩として、自分たちの生活拠点である東京の郊外の町に、美しい自然があることを知ってもらいたいと考えました。

当日はソメイヨシノの花はすでに散っていましたが、八重桜が咲いており、新緑も美しく、公園の花壇には色とりどりのチューリップが咲き誇っていました。JAXA に向かう道中を通りかかったのは、外大に隣接する武蔵野の森公園。園内の整備が行き届いており、花壇の美しさや、ごみ一つ落ちていない清潔な環境は、良好な管理によるものです。池や野川では水鳥が泳ぎ、芦原が続く風景。こうした日常の美しさに触れて、日本をより好きになってもらうことも、活動の大切な目的です。

現地での自由解散後、多くの学生は寮に戻り、翌日から始まる授業に備えていました。もちろん、全員が寮に戻ったわけではありません。当方は外大から徒歩圏内に住んでいるため、歩いて帰る途中、活動に参加してくれた四名の留学生と偶然出会いました。スマホを見つめながら歩いていたので行き先を尋ねると、車返団地にあるコープに行きたいとのことでした。しかし、外大からコープまでは、徒歩ではやや距離があります。

外大周辺は自然に恵まれた環境ですが、日用品を購入できるスーパーがやや遠いという難点もあります。そのため、外大近くに下宿する日本人学生にとっては自転車が必要品となっていますが、すべての留学生が自転車を持っているわけではありません。現在、外大の駐輪場には持ち主不明の自転車が多数、放置されているように見受けられます。その理由は明確ではありませんが、自転車についても何かできないかと、ふと感じました。ただ、扱いには工夫や配慮が必要そうですし、簡単なことではないかもしれません。

留学生支援の会は、さまざまな活動を通じて留学生を助け、また、日本のアピールにもつながっていると感じます。少しでもお手伝いできればと考えております。

ひとこと

朝起きて・・・

幹事 佐久間 美知

朝起きて、どこも痛いところがなく、いつまでも寝ていられた若い頃、そんな事が幸せだとは少しも感じていなかった。

四十の手習いという言葉があるけれど、人生百歳時代なら、そのラインもかなり上がっているのではないかと思い、五十代の最後の年に、和裁の学校に入ってみた。「身体能力は落ちていても、人間の経験値は上がっているはずだから、その聞き合いだね」と息子が言ってくれた。そう、無理せず良い塩梅でやってやろう。

ずっと1つの仕事を続けてきて、少々疲れたので、この1年間は好きな事をして楽しみたいと思っていた。入学式の後、二十歳以上年下の担任から「魂込めて教えます。ついて来て下さい」と言われ、目が覚めた。

和裁の世界は職人の域、甘さは皆無。そんな事に考えが及ばなかった己の浅識がはずかしい。後悔先に立たず・・・試練の毎日。

それでも、日々を凌げば1年は経つ。低空飛行ながら何とか卒業。

結果、解ったこと。

- ・どんなに不出来な人間でも、打ち込めば上達する。年齢問わず必ず上達する。
- ・その上達ぶりは、若い者程顕著。
- ・和裁は千枚縫って一人前なので、最速15年掛かる。二十歳で始めて三十五で独立。高齢者は内職止まり。

朝目覚めて、どこも痛くないのは当たり前、こ

のままずっと寝ていたいと思っている留学生たちに、こんな話をしても響かないだろう。それでも「早く起きなさい、動きなさい、考えなさい」と耳元で囁きながら、肩を揺すぶりつづけようと思っている。

（前号からスタートしたひとこと欄には会員の近況、日常生活での経験、感動、感想などを綴った短い文、短歌や俳句などを掲載します。皆様の投稿をお待ちします。）

幹事会から

（１）幹事会の開催

以下の日程で開催しました

2月17日（日）、3月15日（日）、4月16日（日）

（２）入会者

今期の入会は24名で、ほとんどが入学に伴う本人あるいは保護者の方の入会です。皆さんを心より歓迎します。

新規加入者（敬称略）

（2025年2月6日～2025年5月31日）

池田寧音	大橋キム	小笠原一男
片桐菜々美	樺澤奈歩美	小池瑞枝
齋藤彩菜	佐藤莉加	下島瑞生
鈴木悠乃	須田秀太朗	ズファロフ ジャムシド
田中静香	田中みのり	中山瑠人
迫間弘佳	林佳世子	東嶋海
檜山ジャンナ	古川瑠夏	穂迫杏実
宮田恵湖	村山由麻	山田朱夏

（３）寄付

今期も多くの寄付を頂き、ありがとうございます。皆様のご厚情を励みとして支援活動に取り組んでまいります。

寄付者（敬称略）

（2025年2月6日～2025年5月31日）

井上久美子	金井亜津子	挙市（加藤）玲子
小平京子	小林雅彦	新堂睦子
高橋巳代治	谷和明	平山廣二

ご寄付のお礼をこれまで封書でお送りしてまいりましたが、今年度からはメールアドレス登録のある方はメールでお送りさせていただきます。どうかご了承ください。

ご寄付のお願い

昨年来の新入会者数の激減のなかで、留学生支援の活動を維持し、拡大させるため、一層のご支援、ご協力をお願いします。

【会の活動への参加・協力を】

幹事会に参加しませんか

幹事会は、日曜日の10:00～12:00、最終ページの「年間活動計画表」に記された日程で、キャンパス内の支援の会連絡室で開催されます。オンライン参加も可能です。

すべての会員がオブザーバー参加し、事業の企画や会の運営に協力することができます。お試し参加も歓迎します。

関心のある方はメールでお問い合わせください。

寄付・会費振込先

ゆうちょ銀行

口座番号 00130-3-192674

加入者名 東京外国語大学留学生支援の会

他金融機関からの振込用口座番号は以下になります

当座 〇一九店 0192674

（加入者名は同じです。）

令和 7 年 5 月 31 日現在
会員数：630

会の活動は皆様の会費とご寄付で支えられています。本年度会費をお振込みください。

令和 3（2021）年度入学に伴って入会された方は、4 年前前納会費の期間が終了しております。今年度内に納入され、引き続きご協力いただければ幸いです。

ひとりでも多くの方々の納入のご協力をお願い申し上げます。

一般会員：年会費 3,000 円

既にお振込みの場合、失礼をご容赦ください。

【「会報」紙冊子版読者へのお知らせ】

払込取扱票同封の停止と「会費納入のお願い」の同封

前号でもお伝えしたように、今年度からゆうちょ銀行用の払込取扱票の同封を停止いたします。赤い払込取扱票を利用されてきた会員には手数料をご負担いただくこととなりますが、事情をご理解のうえご都合の良い手段での会費振込をお願いします。

それに伴い、今年度会費をまだ振り込まれていない会員には「会費納入のお願い」を同封します。これが同封された方は会費 3,000 円をお振込ください。

また会費納入済の方は、封筒宛名シールに「〇年度会費ご入金済」との印字がゆうメールではできなくなったため、代わりに会員番号の末尾に「S」（済みの意）と印字します（例：「会員番号：999999S」）ので、ご確認ください。「S」があり「会費納入のお願い」が同封されていない方は今年度会費納入済です。

【連絡先メールアドレス登録・更新のお願い】

総会の案内など会の事業に関する情報を適時にお知らせするため、連絡先メールアドレスの登録・更新にご協力ください。

未登録あるいはアドレスを変更された方は、お

手数ですが、下記の G フォームにアクセスし、氏名、会員 ID（会報の配送封筒の宛名に記載）、メールアドレスを記載の上、送信してください。

<https://forms.gle/mm9rN4167LWXgSSa8>

QR Code ↓



編集後記

30 頁の大台を超えてしまいました。6 月号のマストアイテムである事業・会計関連報告文書（総会議案）に加え、今期は報告すべき活動も多くあります。さらに、国立大最年少と注目される春名新学長からは、留学をめぐる逆風状況の到来を憂慮しつつ、本会の役割に期待する論稿を頂きました。本会での研修を希望するルワンダ留学生の志願理由文やキャンパス内に開設された保育室からの連携・協力のメッセージも。量だけではなく内容も豊富だと自負しつつ、その多様な原稿を年度替わりの繁忙期に執筆して下さった皆様に感謝します。（谷）

外国人留学生の邦文は、原則としてそのまま掲載します

お問い合わせ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-2

東京外国語大学国際交流会館 2 号館 1 階

留学生支援の会連絡室

（毎週火・木・金曜日 11：40～15：40 開室）

Tel:042-330-5803

Fax:042-330-5189（留学生課気付）

Mail: contact@tufsissa.com

メールでのお問い合わせをお勧めします。

Homepage: <http://www.tufsissa.com>

QR Code ↓



©Copyright 2022, TUFSS International Student Support Association

秋期バザー開催のお知らせとバザー用品ご寄付のお願い

開催日時：2025年9月26日（金）～9月27日（土）

会 場：国際交流会館 2 号館交流ホール

秋期バザーを秋学期入学留学生の来日、入寮にあわせて開催します。留学生たちの生活を支えるバザーを成功させるため、会員の皆さまのご協力をお願いします

なお、バザー用品の提供に際しては、以下をご確認ください。

1 バザー用品受付期間 9月16日（火）～9月19日（金）

宅配便等で用品を送付される場合は、上記期間中の13：00～16：00に到着するよう配送業者にご指定ください。恐縮ですが、送料はご負担ください。

2 提供いただきたい物品

台所用品

小型調理器具（鍋、フライパン）、電気炊飯器、電子レンジ、トースター、電気ポット、食器、保存可能な食品など

日常生活用品

タオル、毛布、衣類、小型電気器具

*一人で持ち運びできない大型の家具、家電製品は扱えません。

*電気製品に関しては動作、安全性をご確認ください。

*毛布、衣類等は未使用品、クリーニングないしはご家庭で洗濯されたものをお願いします。

*書籍はマンガのみ受け付けします。

3 提供物品の送付先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-2

東京外国語大学国際交流会館 2 号館 1 階

留学生支援の会連絡室

TEL：042-330-5803（火、木、金 12：00～16：00）

◎バザー実施のための人手が足りません。物品の仕分け、会場での留学生への対応、会場の事前準備と片付けなどの作業への会員の皆さまの協力、参加をお待ちしています。

物品の提供および会場作業への協力など、バザーに関するお問い合わせは支援の会バザー担当までメール（contact@tufsissa.com）でお寄せください

2025 年度年間活動計画

東京外国語大学留学生支援の会

月 日	活 動	月 日	活 動
4 月		10 月	
3 日～	入学留学生オリエンテーション アンケート/Welcome キット配布		小論文募集
4 日	春期留学生バザー（～5 日）	19 日	10 月幹事会
5 日	入学式 保護者への入会宣伝		
		11 月	
20 日	JAXA 航空宇宙センター見学		古都鎌倉散策
27 日	4 月幹事会	16 日	11 月幹事会
5 月		下旬	会報 80 号発行
18 日	高尾山ハイキング	22～24 日	外語祭バザー
25 日	5 月幹事会		
6 月		12 月	
	留学生生活調査	7 日	国際交流のタベ 文化体験教室
中旬	会報 79 号発行	17 日	文楽鑑賞教室
		21 日	12 月幹事会
22 日	6 月幹事会		
28 日	能楽鑑賞教室	1 月	
7 月		18 日	1 月幹事会
18 日	ISEP 留学生等閉講式	25 日	秋学期終了
20 日	2025 年度会員総会 7 月幹事会		
25 日	歌舞伎鑑賞教室	2 月	
下旬	帰国学生等の不用品受取開始	15 日	武蔵野探訪（深大寺など）
8 月		下旬	2 月幹事会
			会報 81 号発行
9 月			帰国学生等の不用品受取開始
14 日	9 月幹事会	3 月	
中旬	秋期バザー準備開始	上旬	ふじのくにツアー
下旬	Welcome キット/歓迎アンケート準備	中旬	春期バザー準備開始
26 日	秋季入学式	21 日	桜まつり民踊流し
26・27 日	秋期バザー	下旬	Welcome キット/歓迎アンケート準備
26～29 日	入学留学生オリエンテーション	29 日	3 月幹事会

今年度の事業計画（9 頁）に準拠して作成しました。日程が変更される場合もあります。

幹事会を含めほとんどの活動は全会員に開かれています。参加、協力をお願いします。

東京外国語大学 留学生支援の会

No.80
年3回発行

会報

Since 1999

Pick Up
Event2025

・留学生支援の会の活動に参加してみませんか？

支援の会も設立から 25 年を過ぎ、今後の活動のことを考えると新たな人材の開拓が急務になってきました。留学生の要望や期待に応える為にも、会員の皆様のご参加を是非お願いいたします。

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-2 東京外国語大学留学生支援の会 TEL042-330-5803 FAX042-330-5189

<http://www.tufsissa.com>



Contents

Page1. **FOCUS**

現代アフリカ地域研究センター
センター長 武内進一

Page3. 1. 2025 年度会員総会報告

Page4. 2. 活動報告

- (1) 能楽を観に行こう
- (2) 歌舞伎を観に行こう
- (3) 秋期バザー
- (4) その他の活動
- (5) 準備中の事業

Page11. 3. 留学生の声

Page16. 4. 会員から

Page18. 幹事会から

FOCUS

現代アフリカ地域研究センターの
留学生招致活動

現代アフリカ地域研究センター
センター長 武内進一

現代アフリカ地域研究センターは、現代アフリカに関する教育研究を促進し、内外のアフリカ関係機関を繋ぐ役割を担うことを企図して、2017年に設立されました。私は、本学フランス語学科を1986年に卒業後、日本貿易振興機構アジア経済研究所でアフリカ研究に従事していましたが、本センターの設立に際して本学に異動し、センター長を担うことになりました。

東京外国語大学のアフリカ関係組織としては、1964年に付置されたアジア・アフリカ言語文化研究所があります。2012年には国際社会学部にアフリカ専攻が設置され、アフリカに強い関心を持った学生が毎年15人程度入学するようになり

ました。アフリカに関わる学内の組織を繋ぐことも、本センターの役割の一つです。

アフリカからの留学生招致は、本センターが設立以来取り組んできた重要課題の一つです。その最大の理由は、アフリカとの留学生交流が、ともすれば一方通行になりがちだからです。

アフリカ専攻が設置された直後から、アフリカの大学に留学する外大生が毎年数名出てくるようになりました。留学はアフリカの素晴らしさを知るまたとない機会、教員としても推奨しています。アフリカの協定校との間で学生交流協定を締結し、相互に学生交流を進める代わりに学費を免除にしてもらって、交換留学が可能になります。

近年まで、本学からアフリカへの留学はあっても、アフリカから本学への交換留学生はいませんでした。その理由は、主に経済的なものです。アフリカの一般的な家庭が、子どもの留学費用、特に日本までの航空運賃を出すことは簡単ではありません。それが障害となって、アフリカから日本への交換留学が進まなかったのです。

2018年度以降、ガーナで活動するトヨタ・ガーナ社が、ガーナ大学と本学との交換留学を支援し、毎年ガーナ大学の学生2名の渡航費を負担して下さることとなりました。これによって、ガーナ大学から交換留学生が本学に来るようになりました。これまでに、計9人の学生がガーナ大学からやって来ました。2018年、2020年には、ルワンダ・プロテスタント大学から学生を呼ぶために、クラウドファンディングを行いました。幸いいずれも成功し、計8人の学生をルワンダから呼ぶことができました。

2020～24年度には、留学生交流促進のため「世界展開力強化事業」の予算を文科省から獲得し、それによってザンビア、南アフリカ、カメルーンの協定校からも学生を呼ぶことができました。同事業の予算終了を見込んで、2024年度にはもう一度クラウドファンディングを行いました。

アフリカから留学生がやって来ると、日本側の学生には大きな刺激になります。日本で仲良くなった学生に留学先で世話をしてもらおう。また、留学先で世話になった学生が日本にやって来る。

こうした関係を通じて、日本とアフリカの学生間に強い絆が生まれ、本学と協定校との関係も強固になってきました。

アフリカ人留学生を巻き込んだイベントの企画が学生から自発的に出され、本センターも協力しています。今年度は6月に「アフリカンウィークス」が企画実行され、アフリカ人留学生が制作した映画を上映したり、一緒にファッションショーを行ったりと、二週間にわたって盛りだくさんのイベントが続きました。

外大にはまだまだアフリカ人学生が少なく、彼ら、彼女らは総じて日本語が不自由であるため、様々なケアが必要です。外大生が自発的にサポートしてくれることも多いので、頼もしく、またありがたいことだと思っています。貴会の活動についても情報共有ができればと考えています。

人口減少社会の日本とは対照的に、アフリカは人口に占める若者の割合が多く、今後大きな成長が見込まれる地域です。アフリカとの関係を深めることは日本にとって非常に重要で、本学はそのために重要な役割を担っています。本センターとしても、今後も継続的にアフリカから交換留学生を呼べるよう努力していきます。

武内先生が紹介されているように、6月の「アフリカンウィークス」では、ルワンダ留学生で支援の会に自主インターン生として協力してくれた Irene さんが制作したドキュメンタリー映画の上映会も行われ、幹事等数名が参加しました。
(写真は上映前の説明をする Irene さん)



1. 2025 年度会員総会報告

2025 年 7 月 20 日

会員各位

東京外国語大学留学生支援の会
会長 谷 和明

2025 年度留学生支援の会会員総会を 7 月 20 日（日）10 時より、支援の会連絡室を ZOOM スタジオとしたオンライン会議の形式にて行いました。その結果について下記のとおり報告いたします。

1 2025 年度総会の成立

総会の開催は会則第 11 条に基づいて、本年 2 月末に議事次第とともに会報 78 号ならびに会ホームページによって告知し、6 月に審議議案等の詳細資料を会報 79 号および会ホームページに掲載し、メールでの周知も図りました。

議決権を有する出席者は役員 10 名と会員 9 名で、来賓 2 名とゲスト留学生 4 名の参加を加えて計 25 名と少数の会議でしたが、会則第 11 条の規定する総会として成立しました。

会長による開会の辞に続いて来賓の春名展生学長および三浦吉永留学生課長から挨拶をいただいた後、議案の審議、挙手による採択を行いました。

その後の自由討論・交流の部では、役員と会員の意見交換と交流が、ゲスト留学生の報告も交えて活発に行なわれました。

2 議案審議と採択

- (1) 2024 年度事業報告及び会計決算の承認
- (2) 2025 年度事業計画の採択
- (3) 2025 年度会計予算の採択
- (4) 役員の紹介

上記の議案すべてについて、多数決により承認、採択されました。

以上

補足資料：総会での挨拶の要旨抜粋

会長開会の辞より

留学生支援の会の総会は、会員と会の方針等について話せる貴重な機会である。

現在支援の会の幹事等スタッフ数が減少傾向にあり、新規入会者も大学の入学手続き方法変更により 2 年連続して 100 名ほど減少している。

国際的に排外主義が高まり、国内でも外国人受け入れに否定的な意見が増加している。

一方で、学生会員の増加や卒業生・地域住民の新規入会などの変化もあり、期待したい。

春名展生学長挨拶より

博士後期課程向け「スプリング」制度（年間 1 人当たり 290 万円の研究奨励費＋生活支援費を支給する制度）で、留学生が対象外となる方針が国から示された。授業料減免制度も今後見直しの可能性がでてきている。留学生への風当たりが急速に強まっているなかで、留学生支援という概念を少し広げて考えないといけない。

留学生が日本の社会にうまく溶け込むのを実現させるような支援や日本人学生との交流を促す支援が必要である。交換留学などによる大学の多様性維持も重要である。

留学生支援の会への期待は大きい。

三浦吉永留学生課長挨拶より

自国ファーストの風潮があり、留学生の授業料値上げを望む声や奨学金支給への批判的な声が増加している。

日本人学生の海外留学数は減少傾向なのに対し、日本への留学生は増加し、40 万人目標はほぼ達成している。

留学生に対して、地域社会へ溶け込むためのモラルやマナーを大学が指導することが求められている。多文化共生の前提として基本的な生活マナーの指導を徹底したい。

2. 活動報告

(1) 能楽を観に行こう

日 時：6月28日（土）13：30～17：00

鑑賞（14：00～16：00）、懇親会（16：00～17：00）

会 場：国立能楽堂

演目等：解説 能楽のたのしみ

狂言 附子

能 鉄輪

参加者：35名（留学生22、日本学生6、

引率幹事等5、会員枠2）

会 計：

経 費 89,500円（入場券@1,500×35、交流会
@1,000×37）

徴収額 37,750円（学生@1,000×28、引率者・
会員@1,250×7、付添者交流会@1000×1）

会補助額 51,750円（学生@1500円×28、引率者・
会員@1,250×7、無断参加@1000×1）

日本の古典芸能鑑賞への留学生の要望は非常に高い。それに応えて、支援の会では早くから歌舞伎鑑賞教室を実施してきた。2022年度からは文楽鑑賞も行うようになったが、今年度は対象をさらに拡大して古典芸能の真髄ともいべき能楽の鑑賞にチャレンジした。

鑑賞する公演は、歌舞伎、文楽の鑑賞教室で利用してきた国立劇場の系列施設である国立能楽堂



着席し、ディスプレイを調整して開演を待つ

が生徒、学生等への普及のために企画している「鑑賞教室」の6月公演を選んだ。能と狂言を短時間に鑑賞でき、初心者向けの解説と日・英語の字幕があり、なによりも学生料金1500円という条件が、留学生に最適だと思われたからである。

とはいえ、初めての挑戦であり、どれほどの参加があるか不安でもあり、座席予約を引率者も含めて35名に抑えて計画し、5月29日から募集を開始した。

応募は順調で、定員を超える申し込みがあった。能楽堂に座席追加を打診したが既に完売で、当初計画35名の枠内で、参加者の調整を行い、学生には6月中旬、参加費と引き換えにチケットを渡した。

当日は空梅雨明けの真夏日であった。午後1時に引率者5名が集合して準備をし、徐々に来場する学生の誘導、出欠確認、名札渡しなどを行った。

幸い遅刻、ドタキャンの学生はおらず、開場時刻にはほぼ全員が入場して館内の資料室などを見学し、開演に備えた。

演目は、狂言がよく知られた「附子」、能は陰陽師安倍晴明が生霊と対決する「鉄輪」と、留学生にも比較的理解しやすい内容である。学生たちは、各座席に装備されたディスプレイに表示される字幕説明に助けられながら、熱心に舞台をみていた。

鑑賞後は、館内の食堂「向日葵」で約1時間の茶話懇親会を行った。くつろいで座れるスペースであった。今回は、2名の引率者が司会となり、順番に全員に自己紹介と感想を話してもらったが、ほとんどが日本語で話したこと、皆が他者の発言を静かに聞いていたことが印象に残っている。なごやかな雰囲気の中かで懇親会を終え、館外の庭で記念撮影をして解散した。



終演後国立能楽堂前の庭園で記念撮影

付記。実は懇親会には、支援の会とは無関係の外国人青年が紛れていたことが、飲食料金支払いの際に1名分多く請求されて、判明した。迂闊であるが、東外大留学生の一人だと思っていた。他意はなく、我々の集団の雰囲気魅かれて、ついてきたのだろうと解したい。冒頭会計説明での「無断参加」1名がそれである。(会長 谷)

【参加学生の感想】

附子という狂言の結末はとても面白い。扇子を使って煽っている時のパフォーマンスがおもしろすぎる。能のセリフは実に美しいと思う、前中国で古い日本語の文法を勉強したけど、やはり動詞の変形が多く難しい。一番印象を残るのは接尾の「候」である。また、太鼓の音はさすがに特別で、日本ぽい。(ISEP 大学院 中国)

私自身が舞踊をしているため、日本の伝統文化の中での舞台芸術を知ることができたことが興味深かったです。物語の背景にある日本文化観や宗教観について、理解が難しかったと感じました。(学部 日本)

独特なセリフ回しや動き方を、生で見て体験できて本当に良い経験になりました。(学部 日本)

解説で舞台がどのように設計されているかを聞くことができて興味深かった。また、狂言は想像以上にわかりやすく面白かった。能の会話を理解することが難しかった。字幕を見てようやくなんとなく理解できた。(学部 日本)



休憩時間に中庭で

狂言は全体的に短くて、笑わせることがメインっていう感じです。役者さんの演技はすごく生き生きして面白かったけど、正直、私にはあまりウケなかったです。私はやっぱり能楽の方が好きだと思って思いました。最初から「この話、最後どうなるんだろう？」ってすごく気になって、女の人が最終的に復讐できたのかが気になって仕方なかったし、「あの執念って正しいのかな？」とか、「裏切られたあとって、忘れて前に進むべきなのか、それとも恨みを抱えて復讐するべきなのか？」とか、いろいろ考えさせられました。(ISEP 大学院 中国)

能や狂言を見るのは、日本人であっても貴重な機会でした。それでも、有名な題目だったので、知識のない私でも理解して楽しむことができました。また、関西出身だったので、貴船などの知ってる土地が出てきて関心が湧きました。鉄輪は古文の中でも難しい言い回しが多かったので、字幕がないとよくわからなかったと思います。しかし、解説などもしていただいて、今回で能楽についての理解が深まりました。(学部 日本)

初めて能楽を鑑賞しましたが、静かな中に強い表現力を感じ、とても感動しました。ストーリーの内容をすぐに理解するのが少し難しかったです。

会話が古い日本語で行われていたため、意味をつかむのに時間がかかりました。

(学部 ミャンマー)

動きが遅いが、臨場感がすごいと感じています。

(大学院前期 中国)

It was my first time experiencing Nohgaku, and it was a delightful experience. I had already some previous idea about Noh, but I also confused it with Kabuki. Overall, it was a very fulfilling experience being able to see in person one of the many Japanese traditions that have been kept alive to the present. The translation system was a wonderful surprise; it helped me to completely understand the story and follow every movement. Even if the translation wasn't provided, I feel like I could have understood the general idea of the

story thanks to how the performances are done.

(ISEP 学部 メキシコ)

I particularly enjoyed the kyogen performance. I was surprised how easy it was to understand compared to bunraku, kabuki and noh. I liked learning about and seeing all the small details about noh that show meaning to the audience. I was also fascinated by the stage hands. Unlike in kabuki, where they are "invisible", in Noh they are also actors - and they move like chess pieces!

I find the plot a little bit complicated, especially because it feels like they don't resolve the ending. I think that's a feature of old Japanese storytelling, though.
(大学院後期 南アフリカ)

Plays were amazing and I really loved the subtitles - it was much easier to understand the plot.

(ISEP 学部 ロシア)

It was my first time seeing this. The first part was very funny. The second part was interesting and the sound was good. I had trouble with the speech in the beginning, because there were no subtitles. Otherwise it was understandable. (ISEP 大学院 スロバキア)

It was the first time I ever took part in this kind of event. As it was my first time, I did have difficulties to understand certain movements. The subtitles however helped a lot with understanding the play!

(ISEP 学部 ドイツ)

I like the first drama best. It's very funny and have traditional Japanese comedies' style.

(ISEP 大学院 中国)

It was very interesting to see the variations of noh theatre between the two plays. (ISEP 学部 ブラジル)



(2) 歌舞伎を観に行こう

日 時：7月25日(金) 18:30～21:00

会 場：江東公会堂 ティアラこうとう 大ホール

演 目：①「歌舞伎のみかた」

②歌舞伎『色彩間苺豆—かさね—』

参加者：61名(留学生31、日本学生11、引率幹事等10、その他9)

会 計：

経 費 126,000円(入場券@2,000×63)

徴収額 63,000円(学生参加費@1,000×44、

引率幹事・会員負担@1,000×10

その他負担@1000×9)

会補助額 63,000円(学生補助@1,000×44、

引率者・その他補助@1,000×19)

猛暑の7月25日夜、江東区の公共文化ホール「ティアラこうとう」で、国立劇場主催のDiscover KABUKI 公演を61名の団体に鑑賞した。

当日は午後6時に、地下鉄住吉駅から徒歩5分ほどの会場の入口前に10名の付き添いスタッフが集合し、学生対応の準備を開始した。学生には参加費支払い時にチケットを配布し、開場時刻6時半前には到着して出欠確認等の後入場するように伝えてある。開場10分ほど前に、入り口前でいつものTUFSプラカードを掲げて待機し、順次来場してくる学生の出欠確認、名札代わりのシールの配布、入り口までの誘導を行った。入口前のスペースが非常に狭く、他の団体や観客の行動の邪魔にならないようにするのが大変だったが、開演15分前には何とか完了し、学生たちが着席していることを確認できた。

今回の演目は鶴屋南北作『色彩間苺豆(いろもようちょっとかりまめ) —かさね—』。留学生や若い世代にはなじみがないだろうが、「怪談累が淵」として知られる夏の夜に相応しいホラー作品である。事前にも参加学生には可能な限りそれを説明し、興味を喚起した。

上演前には出演俳優による「歌舞伎のみかた」についての面白くわかりやすいミニレクチャーが

あり、学生たちは、英語字幕、イヤホンガイドの助けも借り、中村萬壽と中村芝翫の熱演をそれぞれに理解し、感動し、楽しんでた。

終演後は、客席に留まって集合写真を撮影し、数名に感想を述べてもらう予定だった。けれど他団体との関係で思い通りに進まず、客席係からせかされて場外に退出。参加へのお礼と帰国予定の留学生への惜別の辞を慌ただしく述べて、解散となった。

今回も昨年同様、夏休みで学生数が減少する7月下旬の実施となった。国立劇場が外国人向けに企画し、留学生団体の鑑賞には最適な Discover 公演が7月25日夜のみだったからである。昨年は60名で計画して実際には67名参加であったことを踏まえ、今回も60名でチケットを予約した。

参加者募集には予想以上に苦心した。6月20日に従来通りの方法で募集を開始したが申し込みは想定通りには伸びず、6月末からは学内の留学生関連部局、団体さらに申込者にも募集協力を依頼した。さらに予約チケットのロスを防ぐため幹事・協力会員およびその知人にも参加を呼びかけた。7月11日の ISEP 留学生等閉講式の懇親の場でも、見知った留学生相手に「勧誘」した。このように難航したが、7月下旬にはようやく計画数を若干上回る63名の参加者が揃い、不足チケットを追加購入した。当日2名の留学生が欠席したので、実参加者は61名となった。

参加学生の募集が難航した理由には以下の二つが考えられる。

第1は、同じ7月下旬とはいえ、昨年は20日、今年は25日と5日間遅かったことだ。この時期は特に ISEP 留学生が毎日多数帰国していくので、5日間の差は大きかったようだ。



場内での集合写真撮影は大変

第2は、会場所在地が昨年は東外大に近い調布駅の前であったのが、今回はかなり遠く、多くの学生の行動圏外の江東区であったことだ。地下鉄住吉駅までは京王線から直通電車もあり1時間余で行けるのだが、往復の所要時間、経費の差は否めない。今後の参加定員の決定に際して参考としたい。

難航したことによる、発見もあった。東外大では留学生と日本学生の相互支援、交流を目的とした「バディ」制度を導入しているが、バディ間で相談して申し込んでいる事例が少なからずあった。申し込んだ留学生が自分のバディの日本学生を誘い、その日本学生が友人を、その友人が自分のバディ留学生をとという芋づる式の申込もあった。バディ制度がそれなりの効果を発揮していることが実感できた。

(会長 谷)

【参加学生の感想】

A review of the Kabuki performance

Anzelin

(大学院前期 インドネシア)

I really enjoyed watching the Kabuki performance. At first, I thought three hours would feel long, but the show was so captivating that time flew by. I appreciated the English support, which made it accessible for international audiences. Through the performance, I learned more about Japanese art and aesthetics, especially how the drummers skillfully use different techniques to mimic natural sounds like rainfall. Opportunities like this are invaluable for international students, as ticket prices and language barriers might otherwise discourage us from going. After experiencing how engaging and understandable it was, I'd definitely consider seeing another Kabuki performance in the future. Thank you for the opportunity.

(3) 秋期バザー

日 時：2025 年 9 月 26 日（金）、27 日（土）

追加日（値引き販売）：9 月 30 日（火）、10 月 2 日（木）、
3 日（金）

場 所：国際交流会館 2 号館交流ホール

売 上：468,845 円（正規日 434,685 円、
追加日 34,160 円）

来場者：439 名（正規日 353 人、追加日 86 人）

秋期バザーの目的

秋期バザーは新たに海外から来る学生の生活応援を第一の目的に行ってまいりましたが、新規入会者の少ない昨今は、会費、寄付を除いた唯一の活動資金を得る場でもあります。幸いなことに、今回は来場者数も何時になく多く、その上販売するための商品も充分だったので、一人当たりの売り上げ単価も上がり収益も予想以上でした。

販売品 & 売れ筋

帰国する留学生からの大量の寄付を主に販売しました。帰国学生からの寄付は、売れ筋の電気ケトル、電気釜、レンジ、ドライヤー、IH 用の鍋やフライパン、食器、カトラリー、掃除用品、洗濯用品等々、直前まで使用していた生活の必需品です。また、整理するための大小様々なプラスチックケースや籠が寄せられました。近頃の大きな変化は薬缶に代り電気ケトルが主流になったことです。

会員、外語会、大学関係者の皆様からお寄せいただいた寄付の品々は、主に 11 月の外語祭バザー



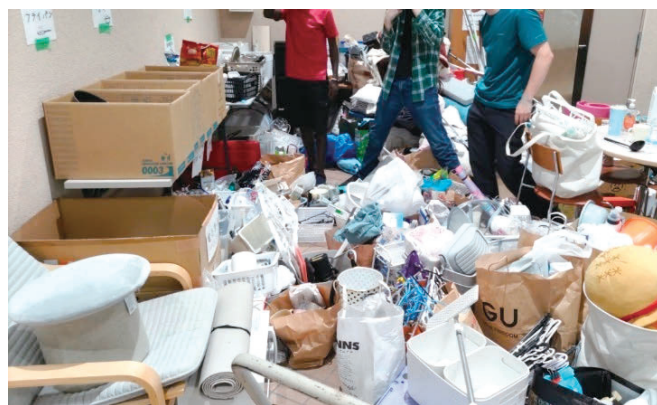
レジ待ちの行列

に使わせていただきます。毎回のご協力心より感謝申し上げます。

課 題

帰国学生からの大量の寄付物品で今回の秋期バザーはほぼ賄われました。また、我々がこのリサイクルを引き受けなければ、次の使い手に渡ることなく廃棄されると思うと、資源の無駄遣いもったいない限りです。その意味でも大切なイベントだと思っています。ですが、寄付はこちらの必要な物だけを下さるのではなく、さまざまなものを一緒に置いていってくれますので、大量の物品の仕分けと廃棄作業がスタッフの大きな負担となっています。寄付物品の置場を定め、そこに種類別の仕分け用段ボール箱を用意し、学生に仕分けて入れて下さいとお願いしていますが、とても成功しているとは言い難い状況です。バザーの準備作業への会員や学生の協力を増やすとともに、自分達の手で無理なく行えるサステイナブルな方法を見つけだせるかが大きな課題です。

（幹事 小平 京子）



仕分け箱を置いてもすぐこの有様

(4) その他の活動

1) 交換留学生等閉講式・懇親会

7 月 18 日（金）17:30 から、大学会館 1 F のホールダイニングを会場に、本学での半年～1 年間の留学プログラムを修了して 8 月末までに帰国する ISEP 留学生、日本語日本文化研修生 227 名を対象とする閉講式・懇親会が開催されました。

閉講式の部は武田千香副学長による英語を交えた祝辞で短時間のうちに終わり、支援の会会長の音頭によるソフトドリンクの乾杯で留学生たちの前途を祝し、懇親会に移行しました。懇親会では5名ほどの学生が楽しそうに体験談を披露しました。ただし、今年は日本語でのスピーチが無かったのが残念でした。

出席学生は、確認できただけでも165名（うち日本学生18名）、さらに懇親会途中での参加もかなりあり、会場内の移動もまなぬ混みようで、昨年を上回る熱気のなか交流が行われました。支援の会からも幹事・協力会員15名ほどが出席し、日頃話す機会も少ない留学生関係の先生方や春の諸イベントに参加してくれた学生たちとの交流を深めました。



懇親会後の記念撮影（写真提供：留学生課）

2) 秋期入学留学生への歓迎・広報活動

7月以降227名の留学生が去ったのと入れ替わりに9月末には243名がやってきました。そのうち9割の217名はキャンパス内の国際交流会館に入寮する、支援の会の「隣人」です。これらの新留学生を歓迎し、かつ会の存在をアピールするため、上述した9月25日からの秋期バザーに並行するかたちで以下のような活動に取り組みました。

① 新規入寮留学生へのウエルカムキット配布

業者に発注して作成した支援の会案内文書（日英対訳、A4両面カラー印刷）を4つ折りにし、それに名刺大の《Welcome》カードを添付した広報物と、キャンデー類5個程度を透明封筒にいれたキットを240セット（9月19日）作成し、留学生課に依頼して25日、26日に入寮してきた留学生に配布しました。



ウエルカムキット

② 新留学生オリエンテーションでのプレゼンテーション

コロナ禍以降、春、秋の新留学生オリエンテーションはZOOMによるオンライン形式で開催されています。春は4回開催でしたが、今期は学期開始が9月26日と早まって日程が窮屈となり、2回、しかも留学生の来日前および直後の実施となりました。支援の会のプレゼンは10分内の時間枠で、2回とも英語のみで実施しました。

1回目は、9月17日（水）10:30～11:00に正規生、研究生等を対象に開催。英語に堪能な山本会員が担当して、自宅からおこないました。参加学生は15名程度でした。

2回目は9月26日15:00～16:00に主にISEP生を対象に開催。やはり英語に堪能な梅本会員が担当して連絡室のPCから行いました。さらに最後に留学籍5年の南アフリカ留学生リサさんに会の意義をアピールしてもらいました。参加学生は120名程度でした。

留学生のほぼ全員が「顔出し無し」参加なので、反応の見えない一方的プレゼンです。後述のアンケート回答でも、他の留学生と触れ合える対面式オリエンへの要望がありました。

③ 新留学生対象アンケート

今期も新留学生の概況とニーズを知るためにGフォームを利用した簡単なアンケート調査を実施し、ISEP留学生に関しては63名からの回答を得ました。その情報を今後の活動に生かしていくと共に、回答集計は留学生課など関係部局にも配布します。

(5) 準備中の事業

3月にかけて以下の5事業を準備中です。そのうち1)と2)は、この会報をご覧になるころには終了していますが、それ以降の事業は、幹事などスタッフ以外の会員の方にも参加していただけます。会の活動の実際に触れ、留学生と交流する機会として積極的に参加してください。

来年の3月28日(土)には「府中桜まつり民踊流し」への参加も計画しており、これにも参加していただけますので、HPの事業案内をチェックしてください。

各事業への参加申し込み、問い合わせはメールで下記宛にお願いします。

Mail: members@tufsissa.com

1) 秋の鎌倉史跡散策

鎌倉市公認観光ガイドボランティアの方々の協力を得て、引率幹事1名、ガイド1名、日本学生1名、留学生5名からなる6つの班に分かれて歩き、鎌倉の歴史、景色、味覚を体験する日帰りツアーです。

日 時: 11月8日(土) 9:50 ~ 16:00

場 所: 鎌倉市(高德院、長谷寺など)

参加費: 1,000円

募集人数: 35人(留学生および日本学生)

2) 外語祭バザー

外語祭来場者を対象とし、会員からご寄贈いただいた品々のうち留学生バザー向けではない物を精選して販売し、支援活動の財源とするバザーです。

日 時: 11月22日(土)、23日(日)、24日(月)

11:00 ~ 16:00

会 場: 研究講義棟 226教室

3) 文楽を観に行こう

留学生から根強い要望がある古典芸能鑑賞の第

3弾として、能楽、歌舞伎に続いて文楽鑑賞を行います。演目は近松の『国姓爺合戦』、会場は池袋駅至近です。引率幹事等以外の会員枠を5名用意していますのでご都合つけば是非ご参加ください(会員参加費は2000円です)。

日 時: 12月17日(水) 17:30 ~ 21:00

会 場: 東京芸術劇場プレイハウス(池袋駅西口徒歩5分)

演 目: 『万才』『国姓爺合戦』

募集人数: 50名

4) 日本文化体験教室と国際交流の夕べ

大学(留学生課)と共催して12月19日(金)正午から午後7時にわたって開催します。

日本文化体験教室は大学会館内の複数教室を会場に開催されますが、支援の会は華道、茶道、着付け教室を担当します。

国際交流の夕べは、留学生、日本学生、大学教職員、支援の会、学内外の留学生支援団体などの交流パーティーです。支援の会会員は招待客として参加できるので、メールでお伝えください。

(国際交流の夕べの日時と場所)

日 時: 12月19日(金) 17:00 ~ 19:00

会 場: 東京外国語大学大学会館

5) 深大寺ツアー

武蔵野探訪 野川沿いウォーキング&深大寺散策

東京外大が所在する武蔵野の地を、留学生、日本学生と共に散策し、自然、歴史、文化に触れ、学生相互の交流を図ります。

日 時: 2026年2月中旬

コース: 外大→野川沿いウォーキング(大沢の里古民家見学含む)→深大寺門前にて昼食(嶋田家)→深大寺ガイドツアー→解散

解散後自由行動: 神代植物公園梅まつり、深大寺門前散策、絵付け体験、温泉湯守の里 etc.

3. 留学生の声

(1) 留学生リレー投稿

日本の生活

サッタウティポン アイ
(国費学部進学留学生 タイ)

私は日本の文化が大好きで、特にアニメや漫画の文化は私の人生に大きな影響を与えました。日本の作品は可愛いやかっこいいだけではなく、人という生き物の本質に触れ、多くの考えや学び、教訓などを内包しています。私はこれらの文化から多くの知識を得ることができました。そしてこれらにより、日本へ留学後、国は違えど話の合う多くの友人を得られました。

日本へ来てから約半年強経ちましたが、とてもあっという間に感じられました。友人たちとカラオケに行き映画に行き旅行に行き、勉強をし試験を受け大学説明会に参加し…4月時点では遠い出来事だと思っていた外語祭も、もうすぐやってきます。日本に来てからというものの毎日が充実しています。そしてやはり、文化の違いに驚くことも多いです。そのエピソードを少し紹介したいと思います。

それは、バスでの出来事です。私の国であるタイでは乗客が乗った後に乗組員さんがお代を取りにき



アイさん

ます。なので基本的には乗って座ってからお財布を取り出します。ですが、日本では前払い制だったので、その時は入

り口のところでもたついてしまい、後ろの方を待たせてしまっていました。しかし運転手さんがその時「あとでも大丈夫ですよ」と機転をきかせてくれ、更に後ろのご年配の方も声をかけてくださいました。ここがタイならこうはなかったのという恥ずかしさとタイならこんな声かけされることはないだろうなという日本の文化に触れた嬉しさでなんとも複雑な気持ちになりました。ほかにも電車で携帯を忘れても戻ってきたことや、買い出しで5kgの米袋を抱えていた時に知らないご年配の方にマイバックを譲っていただいたことなどもありました。

日本ではこのような気遣いが当たり前とされているということに何度感謝し感動したかわかりません。郷に入っては郷に従えという言葉にもある通り、私もこれらの行動に倣い運転手さんに「ありがとうございました」と言うようにするなどしてみたら、文化が好きなだけではなく実践出来る1段階上の人間になることができたように感じます。私は4年ほど留学する予定ですので、これからの生活も楽しみです。

(2) 「共サス」留学生の報告

共同サステナビリティ研究専攻の留学生として

チャン タイ ディン クーン
(大学院博士課程後期 ベトナム)

私は JICE（一般財団法人日本国際協力センター）より JDS（人材育成奨学計画）奨学生として推薦を受け、この秋学期から博士課程プログラム「サステナビリティ研究連携大学院プログラム (JDPSR: Joint Doctoral Program for Sustainability Research)」にて研究を進めております。

このプログラムは、東京外国語大学、東京農工大学、および電気通信大学の三大学が共同で実施しており、それぞれの大学が持つサステナビ

リティ研究に関する専門性を活かし、博士課程の学生に対して学際的かつ実践的な研究機会を提供することで、地球規模の課題解決に貢献することを目的としています。



勤務大学で講義するクーンさん

三大学を拠点として三年間にわたる博士課程

を修了することは容易ではありませんが、幅広い分野の教授・研究者との交流を深め、学際的な研究を進める絶好の機会が得られると確信しています。さらに、この三大学間の学術的連携の強化にも貢献したいと考えています。

学期中は、主指導教員によるセミナーや講義に加え、各分野の著名な教授陣による合同学際講義や特別セミナーにも参加する機会があります。これらの特別講義はディスカッションセッションと組み合わせて行われ、環境、開発、テクノロジー、情報、社会など、多様なテーマが取り上げられます。これらの講義やチュートリアルは、各指導教員のもとでの研究活動や学術指導と並行して行われ、理論と実践の双方から深い学びを得ることができます。

私が日本の文化や人々に対する興味・憧れから日本語を学び始めたのは、今から9年前、ホーチミン市貿易大学1年生で18歳の時です。2019年には、岩手県一関市友好協会およびホーチミン市友好連合会が共催した「藤沢日越文化交流プログラム」の文化大使に選出されました。さらに、ホーチミン市計画投資省および北海道庁が共催した「ベトナム・北海道経済・人材交流会議およびセミナー」に通訳として参加し、両地域の経済・人的交流促進に貢献しました。2022～23年には、日本政府（文部科学省）奨学金（MEXT）の支

援を受け、青森市の青森中央学院大学で地域マネジメント専攻の修士課程を修了しました。在学中は、優秀学生として表彰され、外国人学生会（FSA）の積極的なメンバーとして、青森県や大学が主催する様々な地域交流活動に参加しました。

青森での留学からの帰国後は、ホーチミン市工業大学商業・観光学部の教員として採用され、国際ビジネス学科で「国際経済論」「経営原理」「人的資源管理」などの科目を担当し、国際ビジネス、電子商取引、ロジスティクス、サプライチェーンマネジメントなど、さまざまな専攻の学生を対象に授業を行ってきました。教育活動に加え、成績評価や学生の研究活動の支援、さらに学内外の専門家・研究者と共同で研究活動にも積極的に取り組んでいます。また、多くの学術プログラムや文化交流プロジェクトにおいて、運営委員会メンバーや通訳としても活動してきました。そして今回、JICE 奨学金受給期間は無給の派遣教員として、日本に留学できました。

現在は主に図書館や研究室で過ごし、メコンデルタに関する研究テーマに関連する学術資料を収集・閲読する毎日です。日々の研究活動として、先行研究のレビュー、関連データの分析、そして指導教員との意見交換を行っており、これらの取り組みを通じてメコン地域における持続可能な開発課題への理解を一層深めるとともに、学術的な文章作成力および分析力の向上にも努めています。

講義への出席に加え、東京外国語大学および留学生支援の会が主催する様々な課外活動にも積極



2025 - 28 年 JDS 受給ベトナム留学生壮行会
右手前クーンさん

的に参加しています。これらの活動を通じて、文化交流やボランティア活動に参加し、日本人学生や他国の留学生と交流する貴重な機会を得ています。このような経験は、日本社会や文化、人々に対する理解を深めるだけでなく、国際的なつながりを実感する良い契機となっています。また、多様な背景を持つ学生同士が意見交換を行い、相互理解と尊重を育む理想的な場ともなっています。

このような活動への参加は、学問生活のバランスを保ち、精神的なリフレッシュをもたらすと同時に、チームワーク、異文化間コミュニケーション、リーダーシップといった将来の学術的および職業的キャリアにおいて不可欠なソフトスキルの育成にもつながると思っています。

(3) 学会発表旅費補助受給学生の報告

第4回 EAJS 日本会議での研究発表

リサ サンダース

(国際日本専攻 博士後期課程 南アフリカ)

私はリサと申します。南アフリカ出身で、TUFS 大学院総合国際学研究科の国際日本専攻で博士課程3年に在籍しています。ISSAの寛大なご支援のおかげで、9月に仙台で開かれた第4回 EAJS 日本会議で研究発表を行うため、現地に赴くことができました。ヨーロッパ日本研究協会 (EAJS) は3年ごとに日本で会議を開催しています。2025年の日本会議は9月20日から21日まで東北大学で行われました。この会議は、人類学、経済学、言語学など幅広いテーマを含み、世界中の研究者が日本に関する研究を発表する機会を提供しています。

私は宿泊先が仙台市より少し北にある大崎市だったため、9月19日に宮城県へ移動しました。20日からは、会議の開始時点から基調講演やいくつかのパネルに出席し、日本が海外でどのように紹介されているのか、日本語や日本文化が世界の各地でどのように受け止められているのかにつ

いて多くを学びました。私の研究は日本語を英語に翻訳することに焦点を当てているため、海外における日本のイメージに対して、言語教育やソーシャルメディアがどのような影響を与えているのかを特に知りたいと思っていました。また、国際交流基金が主催する、若手研究者のためのグローバルなネットワーキングや出版の機会に関するパネルにも参加しました。博士課程の終盤に差しかり、とりわけ学位論文の仕上げに取り組んでいる今、これらの議論は私にとって非常に貴重でした。同世代の研究者と交流する機会にも恵まれ、日本内外の多くの研究者の方々と素晴らしい議論を交わすことができました。

9月21日には、日本語や翻訳に関連する複数のパネルに参加し、私にとって特に有益でした。午後には、博士論文の一部に関する研究を「役割語の字幕化—スクリーン上でキャラクターと文化を翻訳する—」と題して発表しました。私の論文および今回の発表では、映画字幕における「役割語」の翻訳をめぐる問題に焦点を当てています。英語には、一人称の使い分けや「だぞ」のような多様な文末表現、敬語によって示される明確な敬意レベルといった日本語の特徴がないため、日本語を翻訳するのはなかなか困難なのです。しかし、これらの特徴は映画やアニメで、典型的な教授や若い少女といった特定のタイプのキャラクターを作り出すためによく用いられます。観客が短



学会会場の前で

時間で読めるように字幕は非常に短く簡潔でなければならぬため、映画の字幕ではこの点がさらに難しくなります。その結果、役割語の要素はたいてい中和され、字幕はシンプルで標準的な英語になります。私の研究は、翻訳において役割語を保持できるよう英語字幕の作り方を変えることを目指すものです。映画においても、役割語は物語の語りの重要な一部だからです。発表では事例研究からいくつかの例を示し、短い映像を4本お見せしました。最初は公式の字幕付きで、その後に、役割語を反映するよう言語を調整した私の作成した字幕付きのものを上映しました。字幕から何が欠けているのかこれまで考えたことがなかった、という趣旨のコメントを含め、研究に関して非常に有益なフィードバックや質問を多くいただきました。発表後は、さらにいくつかのパネルに参加し、21日の夕方に東京へ戻りました。

この経験は、出会った素晴らしい人々、出席したパネルから得た学び、そして自分の発表に対していただいたフィードバックのすべてのおかげで、博士課程の研究と将来のキャリアに大いに役立ちました。私が東北大学へ赴くことを可能にしてくださった支援と助成に対し、ISSAに心から感謝しています。仙台や宮城県を訪れるのは今回が初めてでしたが、新幹線の車窓からであっても日本のさまざまな姿を見ることができ、とても楽しかったです。このような素晴らしい機会をいただき、本当にありがとうございました。

(甘利実乃／訳)

東北大学での第4回 EAJS 日本会議

ナラング サクシ

(総合国際学研究所 博士後期課程 インド)

今年の9月、私は日本で開催された第4回 EAJS (ヨーロッパ日本研究協会) 日本会議に参加するという素晴らしい機会に恵まれました。会期は2025年9月20日から21日で、会場は東北大学でした。美しい宮城県仙台市を訪れるのは初め

で、学術的にも個人的にも本当に忘れがたい経験となりました。

このカンファレンスに参加した目的は、「YouTube 活用による異文化対応力の育成モデル—インドの日本語教室を事例に一」と題する自分の研究論文を発表するためでした。私の発表は、「デジタル時代の言語と文化:アジアから世界へ—AI とメディア技術による人間中心の学び」というパネルの一部で、大阪大学の近佐知彦教授が司会を務めました。

簡単に言えば、私の研究はインドの多くの日本語学習者が直面する共通の課題に取り組むものです。教科書は文法の学習には役立ちますが、実際の文化的なやり取りに備えるには十分でないことがよくあります。そのため、学習者は遭遇する文化の違いに準備不足のままになってしまうことがあります。このギャップを埋めるために、私は日本に住むインド人のブイロガーが制作した YouTube 動画を用いる教育モデルを提案しました。新しい文化情報を、学習者がすでに知っている自分自身のインドの文化的背景につなげることで、学びをより効果的にするという考え方です。この方法は、認知負荷理論のような理論によって裏づけられており、親しみのある文脈を用いることで学習者が圧倒されずに学ぶことができ、新しい情報を長期記憶へよりよく移行させることができると示唆されています。最終的な目標は、異なる文化状況において効果的かつ適切にコミュニケーションできる「真の異文化対応力」を育むことです。

カンファレンス自体も素晴らしい経験でした。



会議で説明するサクシさん

世界中から多様な分野の専門家である研究者や教授、学者が集まりました。私は、シェフィールド大学の Jennifer Coates 教授や東北大学の佐藤弘夫教授による基調講演を拝聴する機会に恵まれ、日本が世界でどのように認識されているか、そして日本の自然観の歴史的変化についての興味深い示唆を得ることができました。

自分の研究を発表することにとどまらず、このカンファレンスは学びとネットワーキングのための素晴らしい場でした。日本研究に取り組む研究者の方々と議論を交わすことは、非常に刺激的でした。多くの専門家と意見を交換し、彼らの最新の研究について学び、長く続くことを願うつながりを築くことができました。こうした交流は、私自身の今後の研究に新たな視点と新鮮なアイデアを与えてくれました。

EAJIS のような権威あるカンファレンスに参加できたことは、私の学術的な歩みにおける大きな一歩でした。ご支援くださった TUFIS-ISSA に深く感謝しています。

(甘利実乃／訳)

(4) 元留学生近況報告

支援の会の皆さんの声を励みに

ハルナザロワ グリチエフラ
ウズベキスタン

私が日本に来たのは 2004 年 8 月のことでした。大学院生だった夫と一緒に日本で生活するために来日しました。最初のころは、日本語がほとんど分からず、買い物や役所での手続きなど、日常生活のすべてが大変でした。言葉が通じず戸惑うことも多く、毎日が小さな挑戦の連続でした。

そんな中で、留学生支援の会の皆さんと出会い、日本語広場にも参加するようになりました。授業や会話練習を通して日本語を少しずつ理解できるようになり、同じ立場の留学生の友達もできました。支援の会の行事では、異なる国の人たちと交

流したり、日本の文化を学んだりする機会があり、毎回とても楽しかったです。皆さんからかけていただいたあたたかい言葉は、困難な時期の大きな励みになりました。

勉強を続けるうちに、日本語能力試験 N1 に合格することができました。そのときは本当にうれしくて、これまでの努力が報われた気がしました。試験の勉強では、単語をノートに書き写したり、ニュースを聞き取ったり、日々コツコツと積み重ねてきたことが力になったと実感しました。

現在は、日本の会社で正社員として働いています。最初は不安もありましたが、同僚の方々に助けられながら、少しずつ業務を覚えていきました。仕事を通して、コミュニケーション能力や問題解決の力も身につけ、毎日新しいことを学ぶ充実した日々を過ごしています。



2007 年 12 月 お子様と

4. 会員から

妹に引かれて支援の会参り

会員 甘利雅子

日本には「牛に引かれて善光寺参り」という言葉がありますが、私の場合は「妹に引かれて支援の会参り」でございます。はじめまして。甘利雅子と申します。ちょうど今号の「会員から」のページに書くようにとのお達しを妹から受けましたもので、こうして筆を執っております。妹の甘利実乃は現在、副会長として軽やかに、しかし骨太に会の運営を担っているようです。楽しさと責任が両輪となって回る現場を横目で見続けるうち、姉としても、そして私自身のライフワークとして続けてきた留学生支援の視点からも、そろそろ座して拍手だけとはいかないとを感じるようになりました。このたび正式に会員となり、感謝を胸に、できることからお役に立ちたいと存じます。

実乃に誘われ、この一年で歌舞伎の鑑賞教室と文楽公演に参加いたしました。歌舞伎は事前の「みかた」解説とイヤホンガイドのおかげで、筋の山も見どころも迷子にならずに済みました。文楽では、人形の呼吸と三味線の一打に合わせて客席の息までそろい、隣の留学生の小さな驚嘆に、私もつられて初心に戻りました。文化は「わかる」より先に「楽しい」のだと、胸の内の埃が払われた思いでした。

行事に同席して驚いたのは、舞台裏の細やかさです。名札をまっすぐ並べる手、点呼の声の張り、道に迷った学生にさりげなく寄り添う足取り。どれも記録には残りにくい所作ですが、会の温度を決めるのはいつもこの部分です。会報を拝読するほど、活動の広がりやと人手の必要がよくわかり、胸の中で「誰か」が「私」に変わりました。貴重な体験をいただいたお礼は、行動でお返しするのがいちばん—そう覚悟が定まりました。

この会の魅力は、大学・地域・市民が肩を並べる「距離の近さ」にもあります。学内の催しから

まち歩き、生活立ち上げのサポートまで、活動の幅は思いの幅。そのまま留学生の安心へ直結します。私が心強く感じたのは、困ったときに頼れる「顔が見える窓口」があることです。名前を呼び合い、次の予定をその場で決める—その連続が、異国で暮らす日々の背中を支えるのだと実感しました。

私はいまだ定年延長中の現役で、時間には限りがあります。けれども、限りがあるからこそ段取りは得意です。バザーの仕分け、鑑賞会の引率補助、受付でのご案内、まち歩きの下見といった実務から、会報への短い寄稿まで、できるところから腰を上げます。狐の俊敏さは真似できませんが、点呼の声は通りますし、湯のみはまっすぐ並べられます。姉としては、まず副会長である実乃の背をそっと押しつつ、必要とあらば前に出る用意もでございます。

最後に、一般会員の皆さまへお願いとお誘いです。どうか一度、可能であれば、どれか一つの行事に「参加する側」でなく「支える側」として加わってみてください。湯気の立つ紙コップの重み、列がほどける瞬間の安堵、帰り道に交わされる「またね」の一言—そこに、国や言語を越えて共有できる手触りがあります。私も新米会員として、その手触りを次の誰かの原動力に変えるお手伝いをしてまいります。どうぞお気軽に「雅子さん、次はこれを」とお声がけください。ユーモアは少々重め、フットワークはできるだけ軽めで、末永くお世話になります。

着物と私

幹事 高橋京子

民族衣装である着物ですが、自分で着付けできないし、出かける所も？と言う人が殆どです。洋装の何倍も着装に時間が掛かり、後の手入れも大変です。そんな着物になぜか惹かれる昭和31年生まれの私。物心ついたときには、自宅に祖母の大正時代の名残の品がありました。髷付け油、貝

殻細工の櫛や帯留め、祖母が織っただろうきれいな布の切れ端など見てはときめいていました。

着物を着始めて8年経ち、やっと“着物遊び”ができるようになったような。四季やTP0に合わせ着物や帯、小物などを組み合わせる楽しみ。大げさですが美学です。

色彩辞典によると赤色 104 色、紫 46 色、青 60 色、茶色 107 色は呼び名も赤朽、蘇芳、唐茶、団十郎茶、媚茶と昔の人のセンスに圧倒されます。万葉の時代から自然の中で遊び、糧を得ていた日本人、よくぞまあ植物や土などからこんなにたくさんの色彩を見つけ出したものです。

そして着物を着る機会の少ない今、その技術は残るのでしょうか？残念ながらたくさんの機屋や、職人さんが廃業しているそうです。着物業界は淋しいかぎりです。それとは反対に海外の方の反応は興味深いものです。

やはり民族衣装を持つアジアの諸国、中東、メキシコなどの人々が関心を持ってくれ、着物姿を見るとニコリとしてくれます。

今回の留学生対象のバザーでは寄付していただいた浴衣と帯が各 6 枚とメンズ着物 1 枚が販売出来ました。主にブラジルからの留学生でしたが自国で見て着物に憧れていたとか。浴衣と帯の柄・色の組み合わせを考え楽しんで購入しました。そういえば着物で同じ模様の被りは見たことがないです。職人達が競って良い品を作り産地も表現も幅があったからでしょうか。

この春の府中市民桜祭りでは 10 名程の留学生が浴衣を着て民踊流しに参加しました。浴衣を着て踊りながら楽しんで府中の街を練り歩く留学生達は着物を着てくださいというアピールになったかもしれませんね。皆さまも機会があったら着物をお召しになってはいかがでしょうか。



ひとこと

季節

会員 小松増美

しつこい極暑が、やっとさよならをして去っていった。

急に気温がグッと下がったから。涼しくなることを長くして待っていた首が、元に縮まった。

すると、下がった気温はさらに下がり、肌寒い日が続く。初冬の衣服が恋しくなり、突然衣服の入れ替えをする羽目になる。そして、冬の寝具も取り出すことになる。

私の大好きな秋。日本人の多くの人たちが大好きな秋。

秋の風、虫虫の鳴き声。実りの、果実の秋。読書の、思考の秋。色彩彩の花たち、香りの秋。山山に織りなす錦の紅葉、……。

心落ち着き、心深く豊かな秋、……。

趣のある日本の秋は短くなりつつあり、アッという間に通り抜けて、どこかへ消えてゆく。

或る外国の方が、「日本人の忍耐強さは、三か月なんだ」と言う。エッと首を傾げた。続けてその人は「三か月经てば暑い夏は涼しい秋になる。寒い冬も三か月经てば暖かな春になる。三か月我慢すればいいだけ」と、流暢な日本語で話しているのを耳にした。なんだか妙に納得している自分がいた。

四季が二季となった暁には、日本人の我慢強さは、六か月になるのであろうか。

秋らしい秋をじっくり味わいたいと思う日々を過ごしているこの頃である。

74460 時間

幹事 山根博彦

この時間は何だと思いませんか？これは 65 才から男性の平均寿命 82 才までの自由の時間です。

大学を卒業してから俗に言われている 65 才定年まで働く時間は 1 ヶ月 20 日、1 日の労働時間を 8 時間で計算すると 67200 時間となり定年後の時間の方が長い計算になる。

私がよく見ている YouTube で 65 才で英検 1 級、TOEIC900 点の初老の YouTuber の方がいらっしゃいますがその方も同じようなことをおっしゃっていて、ここまでになるまで毎日 4 時間ぐらいの英語の勉強をされたそうです。

私も 65 才まで後数年、目標を決めて毎日チャレンジングな生活をしていきたいと考えています。

最後にもうこのような年になったのだな～となるかさみしい気持ちもしますが。。。

(78 号からスタートしたひとこと欄には会員の近況、日常生活での経験、感動、感想などを綴った短い文、短歌や俳句などを掲載します。皆様の投稿をお待ちします。)

幹事会から

(1) 幹事会の開催

以下の日程で開催しました

5 月 25 日(日)、6 月 22 日(日)、9 月 14 日(日)、10 月 19 日(日)

今後の開催予定日程

11 月 16 日(日)、12 月 21 日(日)、1 月 18 日(日)、2 月 15 日(日)、3 月 29 日(日)

いずれも、東外大キャンパス内国際交流会館 2 号館の支援の会連絡室で 10:00 ～ 12:00 に開催予定です。オンライン参加も可能です。

幹事会への出席を

会員はどなたでも会議に出席し、留学生支援に関する意見交換や審議に参加できます。関心のある方はお気軽にメールでお問い合わせください。

宛先 mail: members@tufsissa.com

(2) 入会者

今期の入会は 4 名の方でした。皆さんを心より歓迎します。

新規加入者(敬称略)

(2025 年 6 月 1 日～2025 年 10 月 31 日)

甘利雅子 伊集院郁子 江澤実紀 小泉直子

(3) 寄付

今期も多くの寄付を頂き、ありがとうございます。皆様のご厚情を励みとして支援活動に取り組んでまいります。

寄付者(敬称略)

(2025 年 6 月 1 日～2025 年 10 月 31 日)

阿部善信 生山裕美子 五十幡圭右
梅田由美子 加賀晴子 片岡護 金井亜津子
河野喜代子 小島照恵 鈴木正道 関口洋子
高木幸子 富山綾香 野中千恵子 疋田妙子
星野隆 前田理絵 山田和子 吉田展子

ご寄付のお礼は今年度からメールアドレス登録のある方はメールでお送りさせていただきます。どうかご了承ください。

ご寄付のお願い

ご存知のように昨年来の新入会者数の激減のなかで、留学生支援の活動を維持し、発展させるため、一層のご支援、ご協力をお願いします。

寄付・会費振込先

ゆうちょ銀行
口座番号 00130-3-192674
加入者名 東京外国語大学留学生支援の会
他金融機関からの振込用口座番号は以下になります
当座 〇一九店 0192674
(加入者名は同じです。)

令和 7 年 10 月 31 日現在
会員数：634

会の活動は皆様の会費とご寄付で支えられています。本年度会費をお振込みください。

令和 3（2021）年度入学に伴って入会された方は、4 年分前納会費の期間が終了しております。今年度内に納入され、引き続きご協力いただければ幸いです。

ひとりでも多くの方々の納入のご協力をお願い申し上げます。

一般会員：年会費 3,000 円

既にお振込みの場合、失礼をご容赦ください。

【会員へのお願い】

連絡先メールアドレス登録・更新のお願い

総会の案内など会の事業に関する情報を適時にお知らせするため、連絡先メールアドレスの登録・更新にご協力ください。

未登録の会員、アドレスを変更された会員、あるいはこれまで一度も会からのメールを受け取っていない会員は、お手数ですが下記の「会員連絡先メール登録、変更届」G フォームにアクセスし、氏名、会員 ID（会報の配送封筒の宛名に記載）、メールアドレスを記載の上、送信してください。

「会員連絡先メール登録、変更届」リンク URL

<https://forms.gle/mm9rN4167LWXgSSa8>

同 QR コード➡



会の活動への参加・協力を

現在の支援の会の活動の最大のネックは財源不足ではなく人手不足です。それを解決する方法は会員の活動への参加、協力の拡大であり、それ以外の妙案は見当たりません。会の活動の担い手は会員以外には無いからです。

会の活動への参加の基本は総会に出席し、会の活動について議論することです。総会は年 1 回オンラインで開催されます。残念ながらこれまで出席は少数ですが、皆さんの参加で増やしてください。

ほぼ毎月開催される幹事会にも傍聴出席できます。オンライン参加も可能なので、会がどのように運営されているかをどこからでも知ることができます。

支援の会の事務室であり「たまりば」でもある連絡室にお立ち寄りください。毎週火・木・金曜日の 11：40～15：30 に開室しており、スタッフや留学生と会話し、会の日常に触れていただけます。

歌舞伎鑑賞や鎌倉散策など各種のイベントに参加し、留学生と交流しながら会の活動を体験することもお勧めします。楽しければその次は引率者として協力してください。

手始めに、12 月 19 日の夕刻にキャンパス内で開催される「国際交流の夕べ」に参加しませんか。多数の留学生が参加する交流パーティーであり、支援の会の活動の対象である外語大留学生たちとの交流を楽しみ、その実情に触れる機会です。詳しくは 10 ページをご覧ください。

【「会報」紙冊子版読者へのお知らせ】

払込取扱票同封の停止と「会費納入のお願い」の同封

既にお伝えしているように、今年度からうちちょ銀行用の払込取扱票の同封を取りやめました。

赤い払込取扱票を利用されてきた会員には手数料をご負担いただきますが、事情をご理解のうえご都合の良い方法での会費振込をお願いします。

今年度会費をまだ振り込まれていない会員には「会費納入のお願い」を同封しております。これが同封された方は会費 3,000 円をお振込ください。

また会費納入済の方は、封筒宛名シールに「○年度会費ご入金済」との印字ができなくなったため、代わりに会員番号の末尾に「S」（済みの意）と印字します（例：「会員番号：999999 S」）ので、ご確認ください。「S」があり「会費納入のお願い」が同封されていない方は今年度会費納入済です。

会報電子版配布への変更のお願い

支援の会では会員からの要望に応え、2023 年度の第 74 号から従来の紙冊子版会報と並行して PDF ファイル形態の電子版会報を発行し、電子版への変更を希望する会員へのホームページを利用した電子版会報配布を行ってきました。

さらに、エコロジー、印刷・郵送経費節減、電子媒体の利便性といった観点から、新入会者には電子版での配布を推奨してきました。

その間も、日本では物流制度の問題が深刻化し、そのしわ寄せで特に小口郵送料金の値上げや遅配などの郵送サービスの低下が続いています。その一方で、会は入会者激減にともなう財政問題に直面しています。

以上のような状況への対応策の一つとして、会報配布の紙冊子版から電子版への変更をさらに進める必要があります。電子版への変更の意義について、改めて検討され、協力してくださるようお願いいたします。

電子版での配布に協力していただける会員は、右段上部の URL あるいは QR コードで「電子版会報配布希望通知」フォームにアクセスし、必要事項を記載して送信してください。

その際、送付先メールアドレスに誤りが無いようご注意ください。

「電子版会報配布希望通知」リンク URL

<https://forms.gle/3nkcTozrcXY32i486>

同 QR コード



編集後記

今年の夏も暑かったですね。2024 年、25 年も東京の真夏日は 87 日だそうです。酷暑のなか様々な活動に尽力された方、お忙しいなか原稿を執筆された方々に感謝いたします。（山根）

灯台下暗し。東外大留学生の支援に関わりながらも、学内にいつの間にか新しい組織や制度が設立され、留学生に関係した事業や活動を展開していることに驚くことがあります。今号ではこれまでほとんど知ることのなかった「現代アフリカ地域研究センター」および「共サス研究専攻」と留学生との深い関わりを教えてくれる寄稿を掲載しました。これが、新しいつながりや協力のきっかけになることを夢んでいます。（谷）

外国人留学生の邦文は、原則としてそのまま掲載します

お問い合わせ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-2
東京外国語大学国際交流会館 2 号館 1 階
留学生支援の会連絡室

（毎週火・木・金曜日 11：40 ～ 15：40 開室）

Tel: 042-330-5803

Fax: 042-330-5189（留学生課気付）

Mail: contact@tufsissa.com

メールでのお問い合わせをお勧めします。

Homepage: <http://www.tufsissa.com>

QR コード ➡



©Copyright 2022, TUFSS International Student Support Association

東京外国語大学 留学生支援の会

No.81
年3回発行

会報

Since 1999

- ・7 月 12 日 2026 年度会員総会に参加を(4 頁をご覧ください)
 - ・春期バザーを 4 月 3、4 日に開催します(20 頁をご覧ください)
- 物品の提供ならびに準備と当日の作業への協力をお願いします

Pick Up
Event2026

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-2 東京外国語大学留学生支援の会 TEL042-330-5803 FAX042-330-5189

<http://www.tufsissa.com>



Contents

Page1.	FOCUS
Page4.	1. 2026 年度総会のお知らせ
Page5.	2. 活動報告
	(1) 鎌倉史跡見学ツアー
	(2) 外語祭バザー
	(3) 文楽を観に行こう
	(4) 日本文化体験教室
	(5) その他の活動
	(6) 準備中の事業
Page13.	3. 留学生の声
	(1) 留学生リレー投稿
	(2) 学会発表旅費助成者の報告
	(3) 元留学生の今
Page17.	4. 会員から
Page18.	幹事会から
Page20.	春期バザーへの協力依頼

FOCUS

人文学とローカリティ

大学院国際日本学研究院教授
友常 勉

歴史学・文学・哲学などを包摂する人文学には古典語の素養が必須である。大学院生時代、ラテン語もギリシャ語もままならない私に、指導教員だった上村忠男先生は、『ギリシア・ラテン引用語辞典』（岩波書店、現在は品切れ）を買うようにと薦められた。頻繁に使うことはないが、いまでも必携の辞典である。ただしその点で、現在の人文知はまことに憂うべき状況だ。私がコーネル大学大学院に留学していた 1999 - 2001 年のときに、すでに文学や歴史学の大学院のカリキュラムで、ギリシャ語やラテン語は必須ではなかった。アイヴィー・リーグでそうなのだから、推して知るべしであろう。国際語としての英語化の進展の帰結である。

本学で客員教員として招聘していたコロンビア

大学名誉教授のキャロル・グラック先生は、いつだったか、1960年代に日本に留学していたころ、丸山真男、色川大吉、安丸良夫らの碩学との交流とともに、下宿先の日本人家族との思い出について親しみを込めて語ってくれたことがある。それはグラック先生の日本語修行時代でもあった。もちろんいまでもローカルな言語の習得には同様の修行時代があると思うが、日本社会の市井のなかで日本語を学んだという話には、隔世の感がある。今日、文学作品はもとより、主要な日本語文献は英語で読めるからであり、額に汗してローカルな言語を学ぶことがすべてという時代ではなくなっているからである。

ただし、言語は究極的には翻訳不可能である。その翻訳不可能性を、研究の戦略として用いる場合もある。ポスト植民地主義理論・マルクス主義フェミニズムの理論家のガヤトリ・C・スピヴァクが、アラビア語の *haq* について引用しながら（英語の *truth, right* にあたる）、それが近代個人主義的な権利ではなく、他者の困難を取り払うとか、他者とともに、という含意があることを指摘している。私はアラビア語に親しいわけではないからあくまでスピヴァクの引用であるが、この事例によって、スピヴァクは西洋の言語との共役不可能性や、近代的個人主義とは異なる倫理の世界があることを、私たちに伝えようとしている。同様の事態はどの言語でも起きる。もちろんアイヌ語のように書記言語をもたない場合も含めてである。言語の他者性にかかわるこうした問題系は、共役不可能な事態を前にして、私たちが誤読したり、コミュニケーションに失敗することの重要性について喚起している。そこで私たちは理解不可能な他者を前にして、悩み、混乱すればいいのである。それを理解可能性の世界に置き換えてはならない。それは倫理 *ethics* というものの由来にかかわることである。そしてまた人文知がローカルな知にこだわることの理由でもある。

ただし言い添えておけば、翻訳不可能な事態を前にして失敗した経験は、私たちの身体に、それこそ臓腑に記憶される。それはきわめて原初的な

異言語体験である。グローバルでプラネタリーな次元の知の世界で私たちは考え、行動することを求められているが、そのときに必要なのは、生成AIが生産する知のように普遍言語化された知識を、ローカルで経験的な次元に、それこそ臓腑の次元に引き戻すことである。それは翻訳不可能で、共役不可能な事態に満ちている。そのただなかに身を置くことは、人と人との関係の倫理を鍛えることである。不平等と格差、レイシズムが横行する世界である。それに対抗する倫理をつくることが人文知の使命であることを、忘れないようにしたい。

「留学生」むさしのファミリープログラム

留学生と地域住民との顔の見える

関係づくりを目指して

公益財団法人武蔵野市国際交流協会（MIA）

コーディネーター 村田 敦史

「日本語は話せるけれど、授業と課題で忙しく、生活費・旅行代を稼ぐためのアルバイトに追われ、親しい日本人の友だちもなかなかできない」「日本の物価が高く、気軽に買い物ができない」「日本人の生活習慣をもっと知りたい」このような声を留学生から聞くことがあります。他方で、東京外国語大学においては、留学生の多様なニーズに応えられるよう、留学生支援の会の皆様が丁寧に、多様に支援活動を行っており、留学生にとって大変心強い存在となっていることでしょう。どのような支援が必要か、どのような交流が望ましいのか、留学生の立場に寄り添った、留学生支援の会の皆様の活動は、留学生が日本で安心して生活する上での環境づくりに貢献する貴重な取り組みにつながっているとお見受けいたします。留学生支援の会と、その活動を支えている皆様のご尽力に心より敬意を表します。

武蔵野市国際交流協会（以下、MIA）は、JR中央線・西武多摩川線の武蔵境駅前にあるスイングビル9階に事務所を構えています。多磨駅から武

蔵境駅まで電車で7分ですので、東京外国語大学の留学生の皆さんにとって、比較的アクセスしやすい場所にあります。MIAは、市民主体の国際交流、在住外国人への支援を推進することを目的に、生活支援、コミュニケーション支援、多文化共生の地域づくりの3つの柱で事業を行っています。地域に住む様々な文化、習慣を持つ人々が互いに尊重し、共生していく多文化共生社会の実現に向けて、多くの市民ボランティアの参加・協力を得ながら多様な事業を展開しています。

地域の留学生向けの事業としては、「留学生」むさしのファミリープログラムを行っています。対象となる留学生は、武蔵野市および近隣地域の大学の留学生です。交流期間は、春の部は4月から翌年3月まで、秋の部は10月～翌年9月の約1年間です。留学生と交流を希望するボランティアをMIAでは、むさしのファミリー（以下、ファミリー）と呼んでいます。年に2回ファミリーを募集し、プログラムの主旨に賛同いただいた方に留学生をご紹介します。ホームビジット（日帰りの家庭訪問）を基本に1年間自由に交流していただきます。ご自宅での交流、カフェでのおしゃべり、公園や公共施設での交流、近隣地域への外出、会えない時は電話、メールやSNS等でのコミュニケーションをとるなど、交流のスタイルは様々です。月に1回の交流を基本としていますが、回数に制約はないため、年に2～3回の方もいれば、毎月交流される方もいます。学業、旅行、アルバイトなど、留学生も予定がどんどん変わってきますので、各留学生とファミリーのそれぞれの都合に合わせて無理のない範囲での交流を推奨しています。

「留学生」むさしのファミリープログラム参加留学生には、MIA事務局がボランティア活動への参加の機会を提供するよう努めています。市民向けの文化紹介イベント、母国語を活かした会話交

流教室、家庭の味を紹介する料理教室、子ども向け国際交流プログラムなど、留学生ができることでイベントを企画実施し、活動してもらっています。これらの経験が、様々な地域住民と知りあい、地域コミュニティへと活動の場を広げていく契機になり、また、地域社会を知る貴重な経験になっているようです。東京外国語大学の留学生の活躍のおかげで実現したMIAのイベントは創造的で多様なテーマを扱っていることもあり、市民の皆様に好評です。ファミリーの皆さんも、留学生のボランティア活動を温かく見守り、時にサポートしています。

おかげさまで、東京外国語大学の多くの留学生が、例年、MIAの「留学生」むさしのファミリープログラムに参加してくれています。2025年春の部は20名、秋の部は45名です。多様な国・地域の出身の留学生、興味・関心分野も人それぞれ。留学生を受け入れるファミリーの皆さんも、東京外国語大学の留学生との出会いを楽しみにしています。留学生との交流は、自分の視野を広げ、様々な対話ができる楽しいひとときになっています。「こどもと仲良くなってくれてうれしかった」「地域のこと、日本のことを知る手伝いができてうれしい」など、様々な感想をいただきます。そして、何より、留学生との交流を通じて国を超えた友情を育めることに大きなやりがいと喜びを感じています。留学生支援の一助として、MIAも市民の皆様の理解と協力を得て、「留学生」むさしのファミリープログラムが今後も効果的なものになるように努めてまいりたいと思います。「留学生」むさしのファミリープログラムを通じた、東京外国語大学の留学生と地域住民との心温まる交流の輪の広がり顔の見える関係づくりをベースとした地域の多文化共生を推進していきたいと思っています。

1. 2026 年度会員総会の開催

2026 年度会員総会のご案内

2026 年 2 月 16 日

留学生支援の会会員各位

東京外国語大学留学生支援の会

会長 谷 和明

向春の候、会員の皆様方にはますますご清栄のこととお喜び申し上げますとともに、改めて、日頃からの留学生支援活動への参加、協力に敬意を込めてお礼申し上げます。

さて、2026 年度会員総会を下記の通りオンライン形式で開催いたします。総会は会員全体に開かれた唯一の討議の場であり、総会という形式、名称にはあまり拘らず、日頃お会いできない全国各地の会員から忌憚ないご意見をいただくとともに、会員相互の交流を少しでも深める貴重な機会として、その内容的な充実をめざします。

以上の趣旨を了解され、ご多用とは存じますが万障お繰り合わせのうえ、総会へのオンライン出席に数時間を割いてくださるようお願い申し上げます。

なお、準備の都合上、総会出欠について 7 月 6 日までにご連絡ください。

記

1 日 時 2026 年 7 月 12 日（日曜日） 10 時～12 時

2 場 所 ZOOM を利用したオンライン会議

3 議 事

（1）2025 年度事業報告・会計決算の承認

（2）2026 年度事業計画案・会計予算案の承認

（3）その他

（4）役員紹介

以上

総会参加の手順

①総会出欠連絡フォームを使用して 7 月 6 日（月）までに総会への出欠について連絡してください。

出席と回答された会員を出席予定者として登録いたします。

出欠連絡フォームQRコード⇒



②出欠連絡フォームの「意見欄」に、議案に対する賛否やご意見を書いてください。

特に欠席される場合は、是非ともお書きください。

③出席登録された会員には、ZOOM 会議接続に必要な情報を 7 月 7 日（火）にメールにてお知らせします。

④上記情報を使用して、当日 10:00 までにオンライン総会に出席ください。

総会に関する詳細な情報は会 HP の「会員専用」ページ「2026 年度総会資料」欄に随時掲載、更新します。そちらをお読みのうえで参加の手続きを開始されることをお勧めします

2. 活動報告

(1) 鎌倉史跡見学ツアー

【実施日】 2025 年 11 月 8 日 (土)

【参加人数】 留学生 30 名 日本人学生 6 名 (多磨駅集合 22 名、鎌倉駅集合 14 名)

【現地付添】 幹事 5 名 (谷、山根、高橋、前田、野口)

【多磨駅での誘導】 2 名 (百瀬、山本)

【ガイド】 鎌倉市観光協会認定

鎌倉ウェルカムガイド 6 名

(鈴木、藤井、田口、土肥、松村、関口)

【会計】支出 149,103 円 (長谷寺拝観料 16,400 円 (@ 400 × 41) 高德院拝観料 12,300 円 (@ 300 × 41) KWGA 交通費 4,290 円 KWGA へ寄付 6,000 円 味亭 108,570 円 (@ 2,310 × 47) 雑費 1,543 円 (ストラップ等)

収入 (参加者から徴収) 43,500 円 (学生 @ 1,000 × 36 幹事 @ 1,500 × 5) 会の補助 105,603 円

* 今回から交通費の補助は無し。多磨駅と鎌倉 長谷駅の往復 3,000 円は自己負担。

・多磨駅改札 7 時 40 分集合 遅刻者もドタキャンもなく、多磨駅集合の 22 名全員が集まる。

・多磨 07:52 発 新宿 08:30 着 新宿で乗換まで 15 分あるのでトイレ&軽食タイム。

・新宿 08:45 発 鎌倉 09:42 着 多磨駅集合チームは遅れもなく無事到着。

・鎌倉駅西口時計台の近くで鎌倉からの参加者と合流。遅刻の学生も連絡が取れていたため、待って、全員で 1 本遅い江ノ電に乗ることを選択する。長谷駅に 10:20 着。

・徒歩にて高德院へ。グループでまとまって欲しかったが、とにかく全員が高徳院に着くことを目指す。10:30 ちょっと過ぎ、高德院の入り口で鎌倉ウェルカムガイド (KWGA) と合流。

・高德院に入り、全員で大仏をバックに写真撮影。お天気が良くてよかった！

・高德院前の鎌倉観光会館味亭へ 味亭にて昼食。11:30 ~ 12:30 今回はまとまった席が取れたので、47 名全員に自己紹介をお願いする。急なお願いだったので、はにかむ人も。

・昼食後、長谷寺へ移動。徒歩 10 分。先回りして拝観券を買ってもらう。

・長谷寺からはグループごとの行動で、担当の KWGA の誘導に従う。

・長谷駅から江ノ電に乗り鎌倉駅へ。もしくは徒歩で鎌倉に向かう。海岸を歩く徒歩コースの方が人気 (6 班中 4 班)

・若宮大路を通り、鶴岡八幡宮へ。江ノ電コースの班は八幡宮もじっくりガイドしてもらい、徒歩コースの班は急ぎ足で集合場所へ。

・15:15 鶴岡八幡宮太鼓橋前集合 全員で集合写真 ガイドはここまで。以降は自由行動。

単に遊びに行くのではなく、鎌倉を学んで欲しいから、ボランティアガイドとして KWGA さんをお願いしている。元々は鎌倉在住の会員の方達がガイドされていたのを引き継いだ KWGA さん。「外語大の留学生を心待ちにしているガイドさんもある」とお聞きした。今年も 6 名中 5 名が経験者で、とてもありがたいこと。やはり遅刻せずに KWGA さんとの待ち合わせ場所に連れて行かなければならない。確実に連れて行くため、希望者は多磨駅集合にさせるし、付き添いの幹事は 1 人 2 人では無理だ。しかし、幹事を集めるのが年々厳しく



大仏前で記念撮影

なっていると感じる。11月は学祭のバザーもあり、そちらの負担も大きい。

一方で11月に催行するツアーは、特に秋入学の留学生には大人気。10月10日正午からの募集開始で、12時3分に定員の35名（留学生と日本学生）に達し、12時16分に受付停止。留学生の申込みは定員（30名）の倍以上の64名だった。先着順と告知していたので、先着30名とキャンセル待ちの10名以外の24名には翌日に参加不可の通知。キャンセル待ちも1名のみが繰り上げで参加できただけだったので、24名+9名の33名が申込みをしたのに参加できなかった。また、受付停止以降に申込みをしようとした学生もいたと思うと申し訳なく思う。

そこで今後、幹事が付き添うという形でなく、留学生を現地のKWGAさんに繋げる方法はないか、考えてみたいが、会員や他の幹事の皆さん、いかがでしょう？（幹事 野口）



太鼓橋前にて

アンケートに寄せられた参加学生の感想

今回のツアーでは、鎌倉の歴史的な史跡を巡って多くの知識を得られたことはもちろんですが、何よりも嬉しかったのは、留学生や支援の会の皆さん、そしてボランティアガイドの方々との交流です。移動中の電車内や昼食時、見学中に繰り広げられた会話は、時に笑いがあり、時に文化の違いを学ぶ良い機会となり、大変楽しいものでした。

同じ興味を持った仲間と共に時間を過ごすことの喜びを強く感じました。このような貴重な体験をさせていただいた支援の会の皆様、そして熱心にご案内くださったKWGAのガイドの皆さんに心から感謝申し上げます。学びと交流に満ちた、忘れられない秋の一日となりました。

（ISEP 大学院 中国）

今回の小旅行をきっかけに行きたかった鎌倉を観光することができてとても楽しかったです。

（学部生 韓国）

今回の鎌倉行きはとっても面白かったです。色んな日本の歴史的建物を見、日本歴史にもっと興味になりました。ガイドさんの説明は詳しくて、伝説も色々話しました。勉強になりました。解散した後、新しい友達と一緒に江ノ島に行った、夜景は本当に綺麗でした。友達と同じグループにいる方がいいと思います。

（ISEP 大学院 中国）

さまざまな国友達が作って、ガイドさんも日本語で詳しく説明してくれて日本語の勉強のために、役立つと思います。また、日本文化が詳細に分かるようになりました。またこんなイベントに参加したいです。

（ISEP 学部 ラオス）

色々な人々と日本語で交流して、そして見学の後にできた友達と一緒に江ノ島に行きました。見学ツアーの機会を頂けるのは本当にありがとうございました。

（ISEP 大学院 中国）

鎌倉をゆっくり見てみたいと思っていたので、良い機会だった。ちょうど紅葉の季節で景色が良く、良いタイミングで行けたと思う。鎌倉について説明を聞きながら回ることが出来、留学生と交流する良い機会になった。現地解散だったことで、江の島など自由に見に行けたところも良かった。

昼食の時間の自己紹介が全体に聞こえておらず気づいていない方もいた。

（学部生 日本）

鎌倉の歴史を学びました。留学生との交流がメインだと思っていたため、食事の時は自己紹介ではなく、自由に話したかったです。

(学部生 日本)

I really enjoyed the sights we saw yesterday, they were so much fun! The lunch was also really delicious. I also found the explanation by the guides insightful, and even though they were in Japanese, it was explained slowly and simply enough for me to understand, which I really appreciate. My friends and I had a really good time and ended the day very happily! Thank you very much for this trip!

Since going to Kotoku-in Temple involved going back into the station to take the train to get there, perhaps it would be good to warn people before the trip to have enough transportation money for both going to Kamakura and for the trip to the Great Buddha statue.

(ISEP 学部 イギリス)

Everything was good, I learned a lot of new things and met many people. But the student transfer system needs some improvement. The only thing I didn't like was the metro transfers. Maybe they should've rented a bigger bus for the trip there and back — it would've been much more convenient for the students and their companions. We still had to pay for the metro tickets ourselves; it's just easier for one person to pay for everything instead of everyone taking out their cards each time.

(ISEP 大学院 カザフスタン)

I really enjoyed seeing Kamakura and hearing about the history. The guides were very knowledgeable, and the sightseeing locations were very enjoyable to see.

Thank you for organizing it.

I would have enjoyed a couple more break periods, because by the end I was pretty tired from all the walking. Adding a couple 15 minutes rest periods would have been nice.

(ISEP 学部 アメリカ)

It could take an hour more so that there is enough time for the walk between the beach and back to Kamakura.

(ISEP 学部 ドイツ)

I got to deepen my knowledge about Shintoism and Buddhism. I have learned new vocabulary and had the opportunity to listen and converse in Japanese. I got to try traditional local dishes and got to know a new city.

I really liked the fact that we were supposed to be in Kamakura by 10 a.m. because if it was later, we would be stuck in crowds but we were able to explore the shrines and other places comfortably.

(ISEP 大学院 ポーランド)

I really enjoyed being in contact with Buddhism and finally seeing what I've learned in my history classes. Everyone was so nice and welcoming. Having tour guides really helped a lot understanding more about Kamakura. I think the places we went were enough to enjoy a good excursion through the city! I'm really thankful for all the moments!

(ISEP 学部 ポルトガル)

I really liked the flow of the tour. It was not too tiring and we were able to explore lots of popular spots in Kamakura!

(ISEP 学部 フィリピン)

The guides were very kind and helpful, and they gladly answered our questions. I think too much time was spent on viewing the Buddha statue and having lunch. Instead of going to the beach and walking around the city, it might have been better to visit one more temple.

(ISEP 学部 ポーランド)

I got to see the culture that is behind all the beautiful places that Kamakura has. I think that the groups should go their separate way. In other words, while two or three groups start in one place, the others start at another place, so that it doesn't get overwhelming with the amount of people that are walking around.

(ISEP 大学院 スペイン)

(2) 2025 年度外語祭バザー

開催日：2025 年 11 月 22 日（土）、23 日（日）、
24 日（月）

場 所：研究講義棟 226 教室

売 上：547,260 円 経 費：113,185 円

収 益：434,075 円

バザーの目的

学生向けのバザーと異なり来場者に留学生支援の会を知っていただくこと、ご寄付いただいた物を次の使い手にお渡しすること、会の資金調達等を目的に行ってきました。今年は特にご来場いただいたお客さまに支援の会を知っていただきたいと、会場の前に机を置き3日間、来場者に会の紹介、活動内容の説明を行いました。その成果として、3名の方の入会があったことに加え、机上に置いたカンパ箱に40,000円程のご寄付を得ることも出来ました。

販売品

品物に関しては、皆様に会報でお願いして9月の留学生向けバザー前にお送りいただいた品物の中で学生に不向きなもの、大学の教職員の皆様、外語会の皆様からお寄せいただいた沢山の商品を外語祭バザーで販売しました。定番になっているシュトーレン、コップに詰めたお菓子、手作りの唐辛子とベリーのリース、学生のバザーとは違い、コート、その他の衣類、バッグ等も良く売れました。皆様からの毎回の物品ご提供に対し、心より感謝申し上げます。



掘出し物は見つかったでしょうか



立ち寄って入会してくださった方も

展 示

展示作業については、今までの経験から、何処へどのような品を展示するかは凡そ決めており、前例に準じて展示しました。ディスプレイは季節のイベントを想定、和食器コーナーでは塗り物を集めお正月、洋食器コーナーではツリー、ワイングラス、クリスマス模様のお皿等を飾り、これからの季節を楽しみにしていただけるようにしました。また、今回新しい試みとして、ブランド品コーナーを作りました。主に食器のブランド品を集め、少しお高めの価格設定で販売しました。購入する方も納得して買っていただけたのではないかと思います。

バザーの周知

私達のバザーも回を重ね周知されて来たようにも思います。とはいえ多くの新入生のご家族、関係者にとっては未知の催しです。バザー会場は講義棟の2階226教室。会場としては大きく、明るく、素晴らしいのですが、お客様に足を運んでいただきにくい場所です。今年も留学生にチラシ配りのアルバイトを依頼、周知に力をいれました。バザー開催には会員の皆様の参加、協力が不可欠です。今後とも宜しくお願い申し上げます。
(幹事 小平京子)

(3) 文楽を観に行こう

日 時：12月17日（水）17:30～21:00

会 場：東京芸術劇場プレイハウス

演目等：1) 文楽 万才

2) 解説 文楽の魅力

3) 文楽 国性爺合戦

参加者：49名（留学生30、日本学生8、
引率幹事等8、会員枠3）

会 計：

経 費 102,000 円（入場券@ 2,000 × 51）

徴 収 額 51,000 円（学生@ 1,000 × 39、
引率者・会員@ 1,000 × 12）

会補助額 51,000 円（学生@ 1,000 円 × 39、
引率者・会員@ 1,000 × 12）

年の瀬も押し迫った12月17日（水）の夜、6月の能楽、7月の歌舞伎に引き続いて、今年度の日本伝統芸能鑑賞第3弾となる文楽鑑賞を、49名の参加で実施した。

従来同様、国立劇場が外国人向けに企画したDiscover公演を利用した。その結果、7月の歌舞伎の場合と同じく、参加学生の募集に不向きな時期での実施となった。

参加者50名（学生40、引率幹事等5、会員枠5）で計画し、11月7日募集に着手した。HPおよびポスターでの宣伝、留学生課に依頼しての一斉メールによる留学生およびバディ登録日本学生全員への周知、Gフォームによる申込と、いつも通りの手順で順調に進み、14日には先着40名に参加受付の通知メールを送信した。

ところが、11月末の参加費徴収の段階で11名のキャンセルがでた。理由の多くは臨時の補講で、年末実施が祟ったといえる。急遽、ウェイティングリストからの6名に加えて4名を新規募集し、参加学生を39

名とした。他方で幹事、会員枠での参加を増やして12名とし、結果的には計画を1名超える51名となった。当日、引率者、学生が1名ずつ欠席したので、最終的には49名での鑑賞となった。

当日、引率幹事や会員は4時に東京芸術劇場に集合して事前打ち合わせをし、5時過ぎから公演の行われる2階プレイハウス前で、学生の来場に備えた。

欠席学生は前日に届け出ており、心配した当日ドタキャンはゼロであった。ほとんどの学生は開場17:30までに来場し、引率幹事等の指示に従って、出欠確認をし、名札代わりのTUFSシールを受け取って胸に貼り、整然と入場した。会員枠で参加した、3名の新会員もTUFSプラカードを掲げての学生誘導などに協力してくださった。Discover企画であるため、紛失等に気を遣うイヤフォンガイドの受け渡し作業を劇場スタッフが行ってくれるのもありがたかった。

今回の主演目「国性爺合戦」は従来の入門公演の2倍の2時間の長丁場であり、筋や人間関係も複雑であったが、面白い英語での入門解説に加え、イヤフォンガイド、スマホなどで見られる字幕サービスの助けもあり、学生は熱心に鑑賞していた。

会としても、学生の理解を深めるため、鑑賞の1週間前、12月11日に会員の大学院博士課程学生江澤さんに講師をお願いし、1時間ほどの事前ミニレクチャーを実施した。

会場は交通アクセス、内装設備の点では申し分なかったが、国立劇場にとっては借館での公演であり、団体での行動の規制が多かった。それなりに配慮したが、他の観客の動線を邪魔していると



終演後、劇場入り口付近まで移動して記念写真

何度か注意された。

今年度実施した3回の伝統芸能鑑賞教室への学生参加者は合計で延べ111名（留89、日22）となる。実人数89名（留69、日20）で、そのうち22名（留20、日2）が2回参加者である。この事業が、多数の学生に日本の文化、伝統の理解を深める機会を提供できていることを確認しておきたい。（谷）

参加学生の感想（事後アンケート回答より）

太夫の方が語る言葉は、字幕がないと聞き取れないところが多かったです。初めての文楽経験はとても新鮮で、上演時間は予想より長かった、すごく楽しめました。

あらすじはパンフレットで追えるのですが、細かい描写や台詞がなかなか聞き取れず、結局ずっと字幕を目で追って、なんとか食らいついているような状態でした。伝統芸能の奥深さを感じつつも、自分にとってはまだまだハードルが高いと思います。文楽を本当に楽しめるようになるには、もう少し修行が必要そうです。

言葉が完全に理解できなくても、人形の動きから感情や物語が伝わってくる点がとても魅力的でした。貴重な体験をありがとうございました。

イベントの広報から情報提供、そして参加手続きに至るまで、全てが参加者のことを考えた配慮に満ちていて、とても丁寧で完璧でした。本当にありがとうございました。（ISEP 学部 台湾）

文楽公演で特に印象に残ったのは、女性人形の動作の巧みさです。女性の人形には脚がなく、着物の裾を手でつまむことで歩く・屈むといった動作を表現している点がとても不思議で、同時に強いリアリティを感じました。

イヤホンによる通訳があり、登場人物の発言や物語の意味自体は理解することができました。その点はとても素晴らしいと感じました。しかし、物語が描かれている時代背景や当時の価値観の違いもあり、「何が起きているか」は分かっても、「な

ぜそのような行動を取るのか」という部分については、十分に理解できないところが少しありました。特に人物の判断や感情の背景には、現代とは異なる社会規範が関わっていると感じ、その点が少し難しかったです。（ISEP 大学院 中国）

It was my first time viewing a traditional performance, and I liked it very much. It was pretty understandable in my opinion. In future I would like to see more of such plays. Audio device was pretty useless, since all the subtitles gave enough information to understand.（ISEP 大学院 ロシア）

I didn't know anything about Bunraku before so it was a really fascinating and interesting experience. I was so impressed by the skills of the puppeteers, the narrator(s) and the musician(s), and I understand why you would need many years of training. Sometimes it really felt like it was real people and not puppets on the stage.

Before coming I wasn't sure I had understood everything very well, but with all the explanation/brochures in English and what I understood in Japanese I think I got everything now.

I didn't have any issues with this part, everything was clear and had English explanation as well so I understood everything well.

Thank you for this opportunity as I would probably have felt too lost to go to this performance by myself, it was really enriching for me.

（ISEP 学部 オーストリア）

I'm fascinated about the way the narrator sings, and how they change scenes. It is hard to understand the plot without subtitles, and even with the subtitles, it is hard too because it is written in old Japanese.

（ISEP 学部 台湾）

I really enjoyed the performance. The plot was a little hard to understand, but the audio guides and subtitles helped. A lot of my friends didn't know this

was happening. Maybe some more emails could've been sent? Thank you for organizing this!

(ISEP 学部 アメリカ)

It was VERY interesting. As a beginner in Japanese, I didn't understand the narrator. However with the translation I had no issue understanding the plot, and as I have a great interest in it, I think I know enough to understand the social and cultural background.

My subtitles application didn't work at all, though I could follow everything with the audio guide.

It was very precious to have been able to witness this kind of art, so I'm grateful to you.

(ISEP 大学院 フランス)

It was perfect for people who do not know bunraku. It was informative and entertaining at the same time.

It was really cheap so I would participate again.

(ISEP 大学院 ベルギー)

It was very nice! The English guidance during the performance was helpful. It was also helpful that you suggested we learn about the piece ahead of time, so I knew the plot. It was advertised the introduction part of the evening would be in English, but it was mostly Japanese. I understood some from context and body language, but I wish that I could've understood more.

(大学院前期 アメリカ)

Excellent performance, really impressed! The plot was simple and explained Japanese culture.

(ISEP 学部 インド)

(4) 日本文化体験教室

日 時 : 12 月 9 日 12:00 ~ 16:00

会 場 : 大学会館

国際交流会館 2 号館交流ホール

参加者 : 学生延べ 100 名

講師等 30 名

12 月 19 日 (金) の午後、大学 (留学生課) との共催による留学生国際交流事業として、日本文化体験教室を開催しました。

例年、体験教室終了後には年に 1 度の大きな交流パーティーとして「国際交流の夕べ」が開催されてきましたが、今年度は学内事情により直前で中止となりました。

日本文化体験教室には支援の会の担当として着付け、生け花、茶道の 3 教室を準備し、開室しました。各教室とも一回に受け入れられる人数は 10 名程度なので、事前に留学生課により 10 名ずつ 3 回 (各 1 時間) のシフトで募集受付が行われました。締め切り日までに定員に満たない教室もありましたが、当日の飛び込み参加を見込んで、臨みました。全体としては 1 時開始ですが、所要時間が長く、かつ人によって異なる着物着付けだけは 12 時に開始しました。

着物着付け教室は、会員 3 名とその着付け教室同門の着付け師 10 名程の方がボランティアで着付けにあたり、順次やって来た約 20 名の男女学生を見違えるように装いました。振袖や紋付袴姿の学生たちは、スマホを片手に嬉しそうにキャンパス内を歩き回っていました。指定時間に戻らず、担当者をやきもきさせる場面もしばしばあったようです。



着付け完成後の晴れ姿

生花教室は、会が通年実施している華道教室の講師をお願いしている先生 2 名とその門下の方々 8 名ほどが指導してくれました。花 30 杯と時節に合わせてリース 5 個を準備しての開室です。



うーん 難しいなー

当初はキャンセルもあり出足が遅かったのですが、飛び入り参加も増え、準備した材料は払底したそうです。

例年は、国際交流の夕べの会場に学生たちの生け花作品を陳列していたのですが、今年はそれが叶わなかったのは残念です。

茶道教室は、やはり通年の茶道教室を指導いただいている2名の先生と会員2名が担当し、茶菓50個を用意して開室しました。30名以上の学生が参加し、神妙な面持ちで説明を聞き、美味しそうにお茶をいただいていたようです。



掛け軸を見ながら説明を受ける留学生

以上の3教室の外、武蔵野市国際交流協会の職員ならびに市民ボランティア10名ほどによる折り紙教室、書道教室、消しゴム印教室なども開室され、多くの学生が楽しい時を過ごしました。

以下は着付け教室担当会員の感想です。（谷）

文化体験教室は毎年参加させていただいており

ますが、とても楽しいイベントです。なんといっても着付け終わった時の学生さん達のテンションが上がった顔が嬉しいし、やりがいがあります。と同時に外部から着付け師の仲間もたくさん集まってくれるので久しぶりの顔も拝見でき、こちらも楽しみなのです。

しかしながら、今年は少し様子が例年とは違っていました。

予約した方がいらっしやらないケースが多数見られ、せっかく集まってくださった着付け師さん達が手持ち無沙汰になってしまったのです。

幸いにも予約をしていない飛び入りの留学生さんが多数来てくれてなんとか間が持ちましたが、それでも無断キャンセルの人数には足りませんでした。

着付け師さん達にも交通費程度ですがお礼をお渡ししているので経費がかかります。しかも予約に合わせて人数を揃えなければなりませんので、できれば無断キャンセルが出ないようにしたいところです。来年からは少額でもいいのでデポジット制にして予約時に1,000円ほどいただき参加時にお返しするなどの工夫が必要かもしれません。（小泉）

（5）その他の活動

合格者入学手続き書類に同封する入会案内作成

2024年度から入学手続きがオンライン化されたことにより当会の入会案内が一般入試の合格者に紙媒体では届けられなくなり、入会者が激減したことは既にお伝えしましたが、11月の第3年次編入入試、12月の学校推薦型選抜、帰国生等特別推薦選抜に関しては、少数ですが合格者入学手続き書類に従来通りの紙媒体を同封していただいています。今回2026年度も入会案内文書、会紹介リーフレット、ゆうちょ銀行払込取扱票の3枚を封筒に入れたものをそれぞれ25部、125部作成し留学生課経由で入試課に届けました。1月31日現在、来年度からの会費を納入してくださったのは編入生が1名、推薦・帰国生が5名です。今後も入会者が増えていくことを祈っています。（幹事 阿部）

(6) 準備中の事業

新年を迎え、会では4月に来日する200名程の新留学生に対する歓迎、会の宣伝、生活支援バザーなどの準備に取り掛かりました。それと並行して、2月18日に寒中恒例となりつつある深大寺ウォーキング、3月28日に今年で3回目となる府中市桜まつり「民踊流し」参加を準備中です。

前者は、会報が届く前には終了していますが、後者はまだ間に合います。特に近隣にお住まいの会員で、時間の都合がつく方は是非来場し、踊る留学生を声援し、飛び入りで共に踊ってください。

なお、この時期に例年実施され、留学生の人気も高い「ふじのくにツアー」は、現地主催者の都合により今年度は中止となりました。

1) 深大寺ウォーキング

実施報告を次号に掲載します。

2) 第54回府中市民桜まつり民踊流し

日時：3月28日(土) 13:00～14:00

場所：府中市桜通り

募集定員：20名(留学生および日本学生)

3) 春期バザー

日時：4月3日(金)・4日(土) 12:00～16:00

会場：国際交流会館2号館交流ホール

3. 留学生の声

(1) 留学生リレー投稿

日本での温かい思い出

プーポーナネーク チャンタラカニット
(国費留学生 タイ)

私は、来日する前に「日本人はウチとソトの文化がある」「本音を言わない」「冷たい」などのこ

とをよく耳にしていました。もちろん、これらのことは個人差があり、日本人を一括りにすることはできないと理解していながらも、無意識に日本人に対するイメージを脳内で形成していました。しかし、来日してから、日本人に対する印象が一変するようなエピソードをいくつか経験しました。これからは、そんなエピソードを一つ取り上げ紹介したいと思います。

この出来事は、私が初めて短期留学で来日した際の三年前に遡ります。九州にあるお土産屋さんで起こった出来事でした。当時、私は友達とお互い意見交換しながらお土産を選んでいました。そうしていると、後ろから「お土産を探しているの？」と方言混じりの声が聞こえてきました。振り返ると、そこには暖かい笑みを浮かべたおばさんが立っていました。

外国人なのかと聞かれ、「これは孫が大好きなのよ」と言いながら、手前に陳列してある箱を指差しました。つられて、彼女の指先にある商品に目をやると、可愛いらしい兎の布を模したガチャのようなものが箱にぎっしり詰めていました。中身はポーチと説明され、断る隙間も与えないまま、おばさんは「買ってあげるよ」と言い出し、気づいたらレジの前にいました。

会計を待っている間に、おばさんはいきなり店員さんの名前を聞き、私たちに対してこう言いました。「この店から出たら一店員さんの名前一のこと、私の顔も忘れてしまうかもしれない、しかし、こんなおばさんは日本にいることを忘れないでね」。

そして、私の記憶力も悪いこともあり、実際にお店から出た瞬間、彼女の顔と店員さんの名前を忘れてしまいました。今となっては当時の彼女の顔や店員さんの名前はもちろん、会話の正確な内容やお店の所在地などの記憶もあやふやになっています。しかし彼女が与えてくれた温かい気持ちは、一生忘れません。出来事から二年が経過し、大学生として再び来日する機会を得た今も、買ってきたポーチを所持しています。私の趣味は読書であり、本を買うたびに本の帯を集めてい

ますが、現在はそのポーチを本の帯を収納するものとして活用しています。

この出来事がきっかけで、無意識に形成していた「冷たい日本人」というイメージが払拭され、日本での滞在において忘れられない「温かい思い出」となりました。



今も活用しているポーチ

(2) 学会発表旅費助成者の報告

異なる視点に触れて広がった研究視野

林燕燕

国際日本専攻博士後期課程 中国

2025年10月31日から11月2日にかけて、韓国・江原特別自治道に位置する翰林大学を訪れ、東アジア日本研究者協議会第9回国際学術大会に参加した。本大会には、日本語学・日本語教育学・日本研究など、東アジアを中心とする多様な分野の研究者が集まり、活発な研究交流が行われた。

私は本大会において、「中国語を母語とする日本語学習者における機能動詞結合の産出に関する一考察—漢語サ変動詞との比較及び文法的意味の

観点から—」というテーマで研究発表を行った。本発表では、中国語母語話者が機能動詞結合を産出する際に示す特徴を、漢語サ変動詞との比較を通して明らかにし、さらにヴォイスやアスペクトといった文法的意味の観点から考察した。質疑応答では、母語の影響の捉え方や教育現場への応用可能性について多くの示唆をいただき、今後の研究を深化させる上で非常に有意義な議論となった。

大会の一日目と二日目には、言語学、日本語教育、日本文学、日本文化研究など、幅広い分野にわたる発表を聴講した。普段自身が専門とする日本語教育研究とは異なる視点からの研究にも触れることで、研究の視野が大きく広がり、自身の研究を相対化して捉える貴重な機会となった。また、若手研究者からベテラン研究者まで、多様な立場の発表を通して、研究方法や問題設定の在り方について多くの刺激を受けた。

三日目は自身の発表を終えた後、ナミソム（南怡島）への半日観光ツアーに参加した。島内は紅葉が美しく、川と木々が織りなす穏やかな景色の中で、韓国の秋を存分に堪能することができた。学術的な緊張感から解放され、自然に触れることで心身ともにリフレッシュできたことも、今回の大会参加の大きな収穫であった。

今回の国際学術大会への参加を通じて、研究発表による成果発信だけでなく、国や分野を越えた研究者との交流の重要性を改めて実感した。今後は、本大会で得られた知見や助言を自身の研究に反映させ、日本語教育研究のさらなる発展に貢献していきたいと考えている。



発表する林さん

「アジア」という視点からの研究ネットワークの重要性

ラウベンスティン・ヴィクトル
国際日本専攻博士後期課程 ブラジル

2025年11月、韓国・ハリン大学にて開催された「東アジア日本研究者協議会 第9回国際学術大会」に参加いたしました。私の指導教員が同協議会ジャーナルの編集委員を務めておられ、そのご縁もあり、発表の機会をいただきました。

これまでにいくつか学会や研究会に参加した経験はありますが、これほど大規模で、国際的な学術大会は初めてでした。想像以上に多くの研究者が「日本研究」という共通テーマのもとに集まっており、その熱気と多様さに圧倒されました。さまざまなパネルを聴きながら、日本研究の方法論や研究者自身のポジショナリティについて深く考えるきっかけを得ました。

特に印象に残ったのは、「アジア」という視点から互いにつながり合う研究ネットワークの重要性です。もしそうした試みを怠れば、学問の重心はどうしてもヨーロッパやアメリカに偏り続けてしまうでしょう。だからこそ、アジアの中で知を結び直す努力こそが、これからの日本研究をより豊かにするのだと実感しました。

若手研究者として、この大会への参加はかけがえのない経験となりました。多くの刺激を受け、研究への姿勢も新たになったように思います。来

年は中国での開催と伺っています。ぜひ再び参加し、より成長した形で発表できるよう努力を続けたいと思います。

ラテンアメリカ出身の研究者として、アジアの学術世界に直接触れることは、自分の歴史観や研究観を根本から問い直す貴重な機会でした。知識とは、国や地域を越えて交わる中でこそ、真に意味を持つ—そう確信した大会でした。

初めての学会での緊張と大きな成果

王彩絢
国際日本専攻博士前期課程 中国

私は2025年11月1日から2日にかけて、韓国の翰林大学で開催された東アジア日本研究者協議会第九回国際学術大会に参加しました。今回の参加は、私にとって初めての学会であり、1日目にはラウンドテーブル形式のセッションで発表を行いました。

発表の内容は、学部の卒業研究として取り組んでいた「AIを用いた日本語多読教材の開発と比較評価」に関する研究です。具体的には、AIでリライトした文章と既存の多読文章との比較を通して、今後の教材開発の可能性と課題について報告しました。本セッションに多数の研究者が参加してくださり、緊張もありましたが、限られた時間内で研究の背景、研究方法、そして成果について簡潔にまとめて伝えることができました。また、参加者から寄せられたコメントは、自分の研究の弱点や今後の検討課題を改めて客観的に見つめ直す良い契機となりました。

国際的な場で自分の研究内容を共有することは挑戦的でありましたが、極めて有意義で貴重な経験となりました。この経験を通して、国際的な研究者のネットワークに触れることで、学術的な刺激を実感しました。他の参加者の研究発表や議論に触れる中で、自身の研究計画の立て方や、発表に向けた準備姿勢をより高める必要性を感じまし

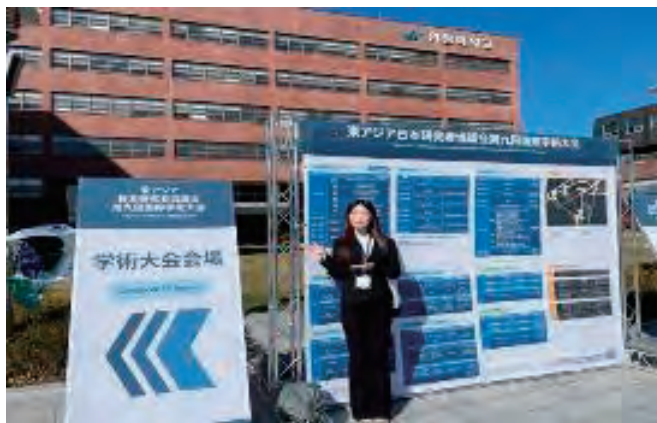


発表するヴィクトルさん

た。今回の発表で得られた知見は、今後の修士論文に向けた重要な示唆となり、研究をさらに深めていくための不可欠な過程だと考えます。

2日目は、学会主催校である翰林大学が提供した観光プログラムに参加し、春川市の南怡島を訪問しました。南怡島への訪問を通じて、韓国の豊かな自然や、韓流ドラマ『冬のソナタ』のロケ地としての文化的側面を体験する機会となりました。地域の歴史や自然に触れることができ、韓国文化に対する理解がさらに深まりました。

今回の学会参加は、研究面だけでなく、国際的な視野を広げるという点でも大変貴重な機会となりました。今後は、この経験で得た気づきを研究活動に反映させながら、より実りある成果につながるよう努力していきたいと考えています。



翰林大学の会場案内の前で

(3) 元留学生の今

外国人がフリーランスでビザをもらう方法

ラシケヴィチ ナターリヤ
(フリーランス ロシア)

私は2014年に東京外国語大学JLCを修了し、その後大阪大学、神戸市外国語大大学院を卒業して、今はフリーランスで翻訳家、俳優などのクリエイティブな仕事をしています。

多くの留学生はフリーランスで働きたくても、大学では就活して正社員という選択肢のみという雰囲気だし、フリーだとビザはどうなるかと心配

し、ほとんどが日本に残るために大学院に進学するか、どこかの正社員になります。

私も同じように、大学院時代に正社員でないとビザが発給されないだろうと思い、就活をしました。しかし、ロシア語翻訳の求人はほとんどなかったし、関係ない仕事をしたくなかった。

フリーランスで英語講師をやっている知り合いの話も聞きました。大学院を卒業しても就活のために特定活動ビザが発行されると知りました。そこで、ロシア関係の会社からの内定を断り、1年間翻訳のアルバイトをしながらビザの手配をしてくれる会社を探すことにしました。

2020年に特定活動ビザをもらい、車の輸出関係や漫画の翻訳の仕事などをし、ようやく日本語教材を作っている会社でアルバイトという名目で仕事をし始めたら、そこでビザの手配をしてくれました。1年ほどこの仕事を在宅でやっていて、22年にウクライナとロシアの戦争勃発をきっかけに、ロシア語の翻訳プロジェクトが一時的に停止され、急いで他のビザのスポンサーを探しました。ちょうどその時期は翻訳会社を通して様々なテレビ局から翻訳の依頼が多かったのも、その翻訳会社の担当者とお話したら、ビザに必要な書類を準備してくれ、また1年間のビザをもらえました。

翌年の更新時期には、その翻訳会社から依頼が少なくなったので、書類を準備するのが難しそうだと思って、初めてビザ更新のアンケートで所属会社名の代わりに堂々と「フリーランス」と書き、併せていくつかの翻訳会社との契約書も提出したら、なんと3年のビザが発給されました。それは日本に来てからずっと夢見たことでした。ようやく自分の努力が認められた、自分が日本で生活する権利があると毎年証明しなくてもよいことに、ほっとしました。

簡単にまとめると、フリーランスでビザをもらうためには以下のことが必要です。

①大学などで専攻したと類似している内容のアルバイトを見つけること。もし、専攻と全く違う仕事をする場合は、資格外活動許可を申請する。

②アルバイト先と結んだ契約(期限1年以上がベス

ト)。契約期限、仕事内容、給料の記載が必須。

③そのアルバイトの内容、一日、一週間のスケジュールが記載されている説明書。詳しくれば詳しいほど、まじめで、信頼度の高い人であるという印象を与える可能性が高い。

④アルバイトが複数なら、すべての契約書を提出する。

⑤入国管理局は基本的に安定した生活ができるかを見ているので、すべてのアルバイトを合わせた年収を見るそうです。1年間の見込み年収が200－250万円程度あれば問題なくビザがおりるはず。

⑥とりあえず手に入る書類を揃える。入国管理局は仕事先が記入すべき複数の書類を求めています、入手が難しい場合はそれなしで申請してみる。ただし、提出できない理由を必ず理由書にまとめて提出する。

以上はあくまでも私の個人的な経験に基づくので、自分でもよく調べてください。また、今のビザの期限切れ3か月前から準備した方がいいです。

今、私は翻訳の仕事をしながら音楽を作っているし、俳優の仕事をしています、本当に楽しく望んでいた生活をしています。

自分の才能を引き出しにしまい込み、やりたいことを諦め、日本に残るためだけに自分の気持ちを裏切るより、急がずに自分の道を探すのはいかがでしょうか。最初は安定しないかもしれないし、不安があるかもしれないが、道は一つじゃないと知ってほしいです。

しております。入会に至ったきっかけは昨年の外語祭見学の際に、東京外国語大学の市民聴講生として通学していた時にご指導いただいた現会長の谷先生からお誘いいただいたことです。また、留学生との交流に興味があったことも、きっかけの一つになりました。

私自身にとって生涯学習とは、新たな出会いや新たな発見による学びが大きなウェイトをしめています。新たな出会いである留学生たちと触れ合うことにより、多文化、異文化への理解を深めたい。

その方法として、例えば、街歩き、文化施設見学や体験等を通じて日本文化に触れあってもらい、意見交換できれば、と考えます。こういったことが、留学生へのサポートに繋がれば、嬉しく思います。

とてもラッキーなことに、入会直後の昨年12月に、外国人のための文楽鑑賞教室に同行させていただきました。私にとって初めての体験であり、参加された留学生にとっても稀な体験ではないかと感じました。

会がこのようなイベントを開催する際は極力参加し、留学生たちに楽しんでいただけるよう、日本文化に馴染んで頂けるよう、また東京外国語大学に留学して良かった、と思っていただけるよう微力ではありますがサポートさせていただきたい、と考えています。

諸先輩方におかれましてはご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

着物の楽しさを留学生にも伝えたい

小泉直子

4. 会員から

留学生支援を通じた新たな出会いの期待

石原治雄

この度（令和7年11月）ご縁あって留学生支援の会に入会させて頂いた府中在住の石原です。

現在は、生涯学習インストラクター・コーディネーターや東京消防庁災害時支援ボランティアとして活動

新規入会させていただきました小泉です。どうぞよろしくお願いします。

と言っても何年も前から成人式や卒業式に着付け師として参加しておりましたし、着付けと関係ない時にも出役して着物の整理等に携わっており、厚かましくも会の方々と一緒に食事などしてお裾分けをいただいたりしていたので、皆様にはさぞや「あの人いったい何者だろう」と怪しまれていたのではないかと存じますが、その流れで今回正式にお仲間に加えていただくことになりました。

先日の文楽でも着物を着て伺いました通り、何処にでも着物着用で出かけて行きます。映画（年に30本は観ています）、美術館、クラシックコンサート、ライブなど。特にいろいろクローバーZの大ファンで（ファンとは言わずモノノフと呼ばれています）女祭りと呼ばれる女子限定ライブに推し色の着物を着て参戦したところ、光栄にももクロちゃん達に目線をいただき着物着られて本当に良かったなあと心から思いました。

アニメや漫画などサブカルチャーも大好きで特別展示にも足を運んでいます。こちらは女性が少ないため少し驚かれているように感じます。

着物はパリでも着ましたが、通るドア全てを男性が開けてくれ、KIMONOの持つパワーを感じざるを得ませんでした。

この着物を着る楽しさを外語大の学生さんに広く知っていただき、街歩きなどして貰ったり、帰国後も浴衣でもいいので自分で着て気軽に楽しんで貰えるようにできないかという野望を密かに抱いております。

友人にも私の魔の手を広げており、少しずつ着物沼にハマる人が増えてきましたので、長く活動が続ければいつか外語大にも沼が出現する日が来るかもしれません。

沼にハマりたい方、ぜひ気軽にお声をおかけくださいね。

ひとこと

私の住む調布市近辺には、当東京外大や電通大などいくつかの大学が有り、そこでは大勢の優秀な留学生達が学んでいる。彼らが街を歩いていても我々一般市民とはただすれ違うだけ。もったいない話だ。そこで2013年秋に、任意団体「語ろうアースカフェ」を立ち上げ、自国の未来を担う彼らに、日本語で自国の話をしてもらう市民講座（国際理解講座）を開始した。1回（2時間程度）のみで一国を紹介する講座はあるが参加しても物足りない。テーマ別に4回（各回2時間/計8時間）に分けて一国を紹介する形で講座を運営している。

初回講師は当外大のウズベキスタン留学生だった。その後も主に当外大留学生に講師を依頼している。紹介した国は約15カ国。聴講者は延べ2,800人超。現在モンゴル講座後半を開催中。

根拠のない排外主義が進行している。まずは相手を知ることが大事。ほんの小さな活動だが出来るだけ多くの国を紹介していきたい。

留学生支援の会幹事 山田和子 記

幹事会から

（1）幹事会の開催

以下の日程で開催しました

11月16日（日）、12月21日（日）、1月18日（日）

今後の開催予定日程

2月15日（日）、3月29日（日）、4月19日（日）

いずれも、東外大キャンパス内国際交流会館2号館の支援の会連絡室で10:00～12:00に開催予定です。オンライン参加も可能です。

幹事会への出席を

会員はどなたでも会議に出席し、留学生支援に関する意見交換や審議に参加できます。関心のある方はお気軽にメールでお問い合わせください。

宛先 mail: members@tufsissa.com

（2）入会者

今期は新たに3人の方の入会がありました。皆様の会費を有効に使わせていただきます。

■新規加入者（敬称略）

（令和7年11月1日～令和8年1月31日）

石原治雄 川澄 領 甕 隆博

（3）寄付

今期も以下の方から寄付を頂きました。

幹事一同、皆様のご厚情に対し、ここに改めて敬意と感謝を表するとともに、皆さまの崇高な志を留学生たちに届けるべく支援活動に取り組んでまいります。

■一般寄付（敬称略）

（令和7年11月1日～令和8年1月31日）

小野玲子 頼母木久代 寺田朗子 野本京子
平山廣二 村上光一

ご寄付のお礼は今年度からメールアドレス登録のある方はメールでお送りさせていただいています。どうかご了承ください。

ご寄付のお願い

昨今の新入会者数の激減のなかで、留学生支援の活動を維持し、拡大させるため、一層のご支援、ご協力をお願いします。

寄付・会費振込先

ゆうちょ銀行

口座番号 00130-3-192674

加入者名 東京外国語大学留学生支援の会

＊他金融機関からの振込用口座番号は以下になります＊

当座 〇一九店 0192674

（加入者名は同じです。）

令和8年1月31日現在
会員数：632

会の活動は皆様の会費とご寄付で支えられています。本年度会費をお振込みください。

令和3（2021）年度入学に伴って入会された方は、4年分前納会費の期間が終了しております。今年度内に納入され、引き続きご協力いただければ幸いです。

ひとりでも多くの方々の納入のご協力をお願い申し上げます。

一般会員：年会費 3,000 円

編集後記

今号には2名の新会員から抱負と期待に溢れた投稿をいただきました。心から歓迎します。長年ご協力いただいている武蔵野市国際交流協会の、本学留学生のホームビジットに関する興味深い寄稿もお読みください。活動報告は少なめですが、参加学生の感想には励まされ、かつ教えられることも多く、やりがいを感じます。毎号呼びかけていますが、皆さんも是非参加して各国の留学生との交流を楽しく体験してください。最後になりますが、今号に紹介された諸活動を担った方々、年末年始の繁忙期に原稿を書いてくださった皆様に感謝いたします。

追記：今年の日本海側はまさに気候変動を実感させる大雪。お住いの会員のご苦勞を案じております。ご自愛ください。（山根、谷）

外国人留学生の邦文は、原則としてそのまま掲載します

お問い合わせ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-2

東京外国語大学国際交流会館2号館1階

留学生支援の会連絡室

（毎週火・木・金曜日 11:40～15:40 開室）

Tel:042-330-5803

Fax:042-330-5189（留学生課気付）

Mail: contact@tufsissa.com

メールでのお問い合わせをお勧めします。

Homepage: <http://www.tufsissa.com>

QRコード ↓



©Copyright 2022, TUFSS International Student Support Association

春期バザー開催のお知らせとバザー用品ご寄付のお願い

開催日時：2026年4月3日（金）～4月4日（土）

会 場：国際交流会館2号館交流ホール

バザーを今年も開催します。留学生たちの生活を支えるバザーを成功させるため、会員の皆さまのご協力をお願いします。

なお、バザー用品の提供に際しては、以下の事項をご確認ください。

1 バザー用品受付期間 3月24日（火）～3月27日（金）

宅配便等で用品を送付される場合は、上記期間中の13:00～16:00に到着するよう配送業者にご指定ください。恐縮ですが、送料はご負担ください。

2 提供いただきたい物品（寮生活に必要な物）

・台所用品

小型調理器（鍋、フライパン）特にIH仕様

小型電気製品（炊飯器、電子レンジ、トースター、ケトル）

テーブルウェア（食器、カトラリー）

食料品（保存可能な物）

・日常生活用品

小型電気器具（アイロン、ヘアドライヤー）

布類（タオル新品）

*一人で持ち運べない大型家具、電気製品（冷蔵庫、洗濯機）及び電気ストーブ、空気清浄機、テレビ、モニター類は扱えません。

*電気製品に関しては、動作、安全性をご確認下さい。

*寝具類、カーテンは扱えません。

*書籍は漫画のみ受け付けます。

3 提供物品の送付先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-2

東京外国語大学国際交流会館2号館1階

留学生支援の会連絡室

TEL：042-330-5803（平日午後のみ）

◎バザー実施のための人手が足りません。物品の仕分け、会場での留学生への対応、会場の事前準備と片付けなどの作業への会員の皆さまの協力、参加をお待ちしています。

物品の提供および会場作業への協力など、バザーに関するお問い合わせは支援の会バザー担当までメール（contact@tufsissa.com）でお寄せください。